



RESEARCH

調査データ

橋口 理文

株式会社アンド・ディ 取締役

東京大学経済学部卒業後、石油化学関連の人事・企画を経てリサーチ会社に入社。主に新規事業関連企業のマーケティングリサーチを担当。退社後、2004年にマーケティング・リサーチコンシェルジェ（株）アンド・ディを設立。

奥田 理

株式会社アンド・ディ

東京大学経済学部卒業後、都市銀行を経てコンサルティング業界に転職。業務改善や事業見直しプロジェクト、PFI手法可能性調査、金融業界の市場調査などに従事。2013年より（株）アンド・ディに入社し調査分析を担当。

先行研究レビューと調査の狙い

1 ナショナリズムの定量分析

社会学では、ナショナリズムを1つの観測変数としてとらえるのではなく、いくつかの下位概念を設定し、その統合変数としてみるというステップを踏むのが一般的である。

『外国人へのまなざしと政治意識』(田辺俊介編著)では、規範論も含めた先行研究を踏まえ、「愛国主義」「純化主義」「排外主義」の3つの下位概念を設定し、実際に調査データを得ている。

特定の「国民」の範囲を定めようとする志向が「純化主義」であり、その「国民」に対して国家への忠誠を求め、内部を統合しようとするのが「愛国主義」、「国民」以外の外国人を排除しようとするのが「排除主義」である。

細かい手続きを検討・紹介する紙数はないが、これら3つのナショナリズムの下位概念と、その他の属性や意識データの関係分析から、以下のような知見を得ている。

- 年齢層が高いほど、「愛国主義」と「排外主義」が強くなる。
- 階層的地位が高い人ほど「愛国主義」が、階層的地位が低い人ほど「排外主義」が強くなる。
- 外国・外国人との接触が少なく、生活満足感が低い層が「排外主義」を抱きやすい。
- 海外旅行の経験が多いほど、「愛国主義」は強くなる。

同書は、上記を踏まえたうえで、外国人増加の影響の認知、共生社会イメージ、外国人の権利への意識等との関係を分析し、通俗的なイメージ—右派の「ナショナリズム」と左派の「反ナショナリズム」という単純な二項対立—では、現実をとらえきれないことを明らかにしている。

『外国人へのまなざしと政治意識』と関連して、『ナショナル・アイデ

ンティティの国際比較』(田辺俊介著)も紹介しておこう。

ドイツ・日本と、アメリカ・オーストラリアそれぞれの、国民国家形成期からの歴史をコンパクトに概観したうえで、共通の調査データ^{※1}を用いて「国民であること」の比較分析を行っている。歴史の概観の部分では、主に「血統主義」の関連から、ドイツと日本を同程度の「多文化主義的後進国」と位置づけている^{※2}。そのうえで、

- 日本・ドイツは、その「国民」であることと、その「民族」であることが混然一体となって区別されないのに対し、アメリカやオーストラリアでは、「出生地」や「国籍」、「民族」などの生来的な条件と、「法の遵守」や「自己定義」などの獲得的な条件と、2つの考え方が存在する。
- アメリカやオーストラリアでは、「自国中心主義でも排外主義でもなく、同時に自国の歴史や文化にプライドを持っている」層が存在する。日本やドイツでも、「自国中心主義でも排外主義でもない」層は抽出されるが、そうした人々は、自国の文化や歴史についてプライドを感じられない。

という重要な知見を得ている。

クラスター分析の結果を雑駁にまとめると、どの国にも、「穏健層」(国民の条件にはそこそこ厳しいが、自国中心主義ではない)、「排外層」(国民の条件に厳しく、排外的である)、「リベラル層」(国民の条件は緩いか、自ら獲得すると考え、自国中心主義でも排外主義でもない)ともネーミングできる3層が抽出され、それぞれ3〜4割ずつを占めるのだが、日本やドイツの「リベラル層」の場合、「うちはとても良い国だから、外国人の方、どうぞいらっしゃい」という回路がないのだ。

2 排外主義の定量分析

『日本における排外主義の規定要因』(金明秀著、フォーラム現代社会学14号、関西社会学会)は、「外国人集住都市会議」加盟自治体調査のデータを用い、「排外主義」を生む構造、規定する要因を検証している論文である。

基本的属性(性別、年齢等)を「排外主義」の直接の説明変数とはせず、それらの間に「同化主義」と「一般的信頼」という、2つの媒介項を

設定し、それら同士の関係の構造モデル分析を行っているが、こうした変数の取り扱いには、『外国人へのまなざしと政治意識』と共通だ。

なお、「一般的信頼」という概念について、本論文では、社会心理学者・山岸俊男が提示した「信頼」に関する理論フレーム^{※3}を取り入れている。

山岸の「信頼」理論を乱暴にまとめると、閉じた集団内で優れている

※1 1995年度「国への帰属意識に関するISSP調査」。各国とも1,000以上のサンプル数を確保している。

※2 フランスでは「その国に生まれること」を重要な基準（出生地主義）とするが、「ドイツ民族に生まれること」という血統主義に基づき帰属の範囲を定めたドイツでは、ドイツで生まれ、ドイツで生活し続けても「移民」は飽くまで「外国人」であり続けていた。ただし、ドイツにおいても、トルコ系移民二世の統合問題から、2000年の法改正で一部に出生地主義を採用している。日本はあくまで血統主義を貫いている。（『外国人へのまなざしと政治意識』より、一部省略）

※3 『信頼の構造』（山岸俊男、1998年）

※4 『安心社会と信頼社会』（山岸俊男、2010年）では、前者を「地図型知性」、後者を「サーチライト型知性」と呼ぶ。最終学歴だけでなく、偏差値の高い大学卒業者ほど「サーチライト型知性」が高いことを提示している。

※5 「集団主義型の秩序原理」がある社会では、閉ざされた関係内部で安心を生み出すが、そうした関係の外部の人々に対する不信を生み、リスクをとりながら安心できる関係の外にある機会を求める傾向を抑制する、という。「地図型知性」が求められる社会では一般的信頼が低く、排外主義が強化されるリスクがあるということだ。

※6 同調査（群）が、リーマンショックの影響で、ブラジル人、ペルー人の数が減少し始めた2009年（また、外国人登録制度に代わって在留資格制度が実施されるようになったのが2009年である）以前に実施されたことには注意を要する。

と考えられる知性は、人々の関係性を理解する非明示的なものであるのに対し、開かれた集団における優れた知性は、基本的に見知らぬ相手を信頼しようとするスタンス（＝一般的信頼）のもと、その場のコミュニケーションにおいて相手が信頼に足る人かどうかを見極める力にある、というものだ^{※4}。不確実性に満ちたグローバル化が進む現代において、後者の能力、一般的信頼が重要になると主張する^{※5}。

そうして得られた結論・示唆を、本論文のサマリーに即して列挙すると以下の通りである。

■「排外主義」を直接的に押し上げる要因は「同化主義」。「同化主義」は年齢が高いほど強い

→「同化主義」を普通のこととして温存する構造の解体が必要である。

■「排外主義」を直接的に押し上げる要因は、「一般的信頼」である

→「一般的信頼」を醸成する異文化集団との持続的接触が必要である。

「同化主義」は、「異文化を持つ個人や集団は、その異質性が認知されなくなるまで支配集団に同一化するのが好ましく、同化したあかつきには完全に平等に扱うことを理想視する考え」だと定義されている。少数派は、多数派と同じになって初めて認められるということだ。

同化主義が排外主義を抑制するという考えも一部に根強いが、本論文では明快に否定されている。

この結論は、「ヘイトスピーチのように極端でわかりやすい排外主義だけを他人事のように問題化し、その背景となる同化主義を「普通」のこととして」考えてしまっている“かも”しれない我々に、その「構造が解体されないかぎり、同化主義が媒介する排外主義の形成ルートは強固に残存するだろう」という、鋭い切っ先をつきつけている。

3 在日外国人の現状

最後に、日本に住む外国人に関する大掛かりな定量調査を確認する。2007年3月に報告された、『北関東圏の産業維持に向けた企業・自治体連携による多文化共生地域づくり調査報告書-北関東圏における多文化共生の地域づくりに向けて』である。

製造業が集積する北関東圏には、多くの在住外国人が就労しているが、在住外国人と日本人住民との間の生活トラブルや外国人児童生徒の就学問題等、生活者としての在住外国人にとってさまざまな課題が生じているという認識のもと、以下の5つの調査を実施している。なお、①～③は、国勢調査をもとに、地区内住民の数に対する在住外国人数の多い16地区を対象地区としている。

① 地区内の在住外国人調査（訪問調査、738サンプル回収）

② 地区内の日本人調査

（直接投函・郵送回収、1,104サンプル回収、回収率12.0%）

③ 地区内の企業調査

（直接配布・郵送調査、150サンプル回収、回収率9.9%）

④ 地区内の自治体対象アンケート調査（郵送調査、115自治体回収）

⑤ 地区内の教育委員会・自治会・地地域団体インタビュー

（電話・訪問調査、40団体に実施）

5つの調査自体も多面的な実態把握を企図した構成を取っているが、上記の調査にとどまらず、社会実験まで実施し、今後の施策の方向性を確認するプロジェクトとなっている点で類例をみないものだ。

特に、上記調査①から得られた知見をいくつか列挙しよう。

● ブラジル人、ペルー人の比率が全国平均より高い^{※6}。

● 多くの回答者の7割程度が間接雇用であり、製造業従事者が約5割を占める。

● 「借家」が約7割、「社宅・社員寮」が約1割で、「持ち家」はほとんどない。

● 今後の滞在予定は、「わからない」が約4割、「今後も日本に住み続けたい」が4割弱。

● 「今の地域に住み続けたい」理由は、「今の住宅の質への満足度」、「周りの同国人の多さ」。

● 「別の地域に移りたい」理由は、「今の住宅の質への満足度」がトップ。利便性もポイント。

● 「日本語を学びたいと考えている」人は87%。

このうち、我々の今回の調査目的に即して、日常の相互コミュニケー

※7 「あいさつする程度」が66%、「まったくつきあいがいい」が20%である。

※8 「現代思想の使命」(『新潮2015年 04月号』, 浅田彰、中沢新一、東浩紀による鼎談)。なお、こうした指摘は、フランスの歴史人口学者、エマニュエル・トッドの一連の見方も踏まえたものである。

※9 『憲法の条件』(大澤真幸×木村草太, 2015年)で、そうした左派の建前を、大澤真幸は『優等生の学級委員長が『みんなのために』と言っているような感じです。クラスの悪ガキのほうが、よほど説得力があるんですね」と表現する。綺麗ごととは、現実をとらえ損なって言葉が陳腐化し、訴求できなくなる状態を指す。右翼政党が腐るから左派の言葉が届かないのではなく、その逆だ、という指摘でもある。

ションに関するポイントを整理すると以下ようになる。

- 在日外国人の「近所の日本人住民との交流状況」について、「親しくつきあっている」と回答した人は、在日外国人の13%に過ぎない※7が、「積極的に交流したい」という希望を持つ人は56%に達する。
- これに対して、同地区に居住する日本人の場合、在日外国人と「ほとんど毎日話す」、「会えば話をする」のが2割強であり、今後、「積極的に関わっていききたい」という回答は11%にとどまる。

- また、日本人が回答する「外国人が住んでいて最も困ったこと」では、「言葉がわからず意思疎通が難しい」が22%でトップ、「在住外国人が最も取り組むべきこと」では、「地域の生活ルールや習慣等を知る」と回答した人が半数近くを占める。

つまり、在日外国人と日本人との日常のコミュニケーションが薄く、今後、積極的な交流を望む在日外国人が半数以上であるのに対して、日本人は言葉や地域の生活ルール・習慣等の理由から、積極的に関わりたい人が少ない、という状況があることがわかる。

4 歴史の補助線

ここまで2つのタイプの先行研究をみてきた。

多文化主義を妨げる、ナショナリズムや排外主義の規定要因の研究と、在日外国人やその近隣に居住する日本人の生活をこと細かに把握する調査、の2種類である。

これらの、優れた先行研究・論考・調査から得られたソリューションは、具体的には以下のようなものだ。

- 出生地主義(デニズンシップ)を採り入れた国籍法への改正
- 多種多様な人々やその価値観・生活スタイルを認めようとしての、統合理念の設定
- 一般的信頼を醸成する外国人との交流やイベントの積み重ね
- (外国人のうち)希望者に対する十分な日本語教育

外国人との不要な軋轢のない社会を作るという視点からは、これらの解決策にまったく異論はない。

しかし、我々個人がすぐにでもコミットできるだろうか、一直線に最短距離で進んでいくべき目標か、といった点で逡巡してしまう。果たしてこれだけで十分だろうか。

1970年代以降—いわゆる「後期近代」以降—、欧米各国の政策の中心のひとつであった多文化主義が揺れているのは確かである。詳細は本レポート中の田辺論文に譲るが、「ドイツの多文化主義は完全に失敗した」という、2010年のメルケル独首相の発言が代表的である。

当時のドイツが、反移民政策に舵を切ろうとしていたわけではなく、そのやり方を考え直すべきだと明快に主張していることを踏まえなければ、フェアな理解ではない。しかし、多文化主義が孕んでいる問題が何かを理解することが重要だ。多文化主義のどこが問題なのか？

昨今の多文化主義については、むしろ左派からの鋭い批判が相次いでいる。

スロベニアの哲学者であり、「左派」を自称するスラヴォイ・ジジェクは、2010年のメルケル独首相の発言の直後に、ニューヨークの独立放送局 Democracy Now! のインタビューに答えて、リベラル派を厳しく批判している。

S. ジジェクは、リベラル派が、「これからはポストモダンのデジタル資本主義だ」などと言いながら、労働者や下層階級から離れた結果、反移民を掲げる右翼政党だけが、一般労働者に訴求する状況を生んだのだという。リベラル側は、法律や道徳、教養—つまり綺麗ごと—をふりかざして、人種偏見を剥き出しにする“庶民の無知”を見下すけれども、そもそもリベラル派の社会システムに対する理解力が不足していたのだ、と手厳しい。そして、「中立的な法の枠組みを作れば、あらゆる民族集団が、『あなたはあなた、私は私』といった具合に共存できる」という考え方が間違っていたと結論する。

S. ジジェクらの批判的分析も踏まえようとして、京都造形芸術大学大学院教授の浅田彰は、特に、冷戦終結以降の欧米各国で、累進課税等の富の「再配分」に加え、多文化主義的な「承認」が重要な政策課題となったが、それでは十分ではなかったと総括している※8。

つまり、1960年代後半以降の欧州において、「資本」と「労働」の対立ではなく、「多種多様なマイノリティの多文化主義的共存」が重要だという考え方が採用され、東西冷戦終結後の1990年代において主流になるのだが、それは議論の場には上げられる人たちの耳ざわりのいい建前※9に過ぎず、そこから排除されて、「郊外」という名のゲットーに閉じ込められた人々に蓄積された不満が、例えば2015年1月のシャル

- ※10『憲法の条件』では、ヘイトスピーチを行う者のメンタリティを「承認不足」の観点から分析し、周囲の人やマスコミだけでなく、国家から承認されたい(国から愛されたい＝愛国)のだとする。
- ※11 ドイツのフランクフルト学派第3世代に位置づけられる哲学者。ユルゲン・ハーバマスの後を継いで、2001年にフランクフルト大学の社会研究所所長就任、2011年より米国コロンビア大学人文学部教授。主著に『承認をめぐる闘争』、『再分配か承認か』等。
- ※12「承認」という概念自体は、多文化主義に影響を与え続けてきたカナダの政治哲学者、チャールズ・テイラーをはじめとして、多くのコミュニタリアンがその考え方の中心に据えてはいるが、具体的な方向が見えにくい。
- ※13『「承認」の哲学』(藤野寛,2016年)。本項のA.ホネットの議論整理については、多くを本書に拠っている。
- ※14 前掲書に、ゲーテの言葉が(孫)引用されている。「寛容は、本来、暫定的な志操にすぎないものであるべきだ。それは承認に向かうべきだ。大目に見るとは、侮辱することなのだ」。

リー・エブド襲撃事件などのテロとして噴出しているのだ、という。

両者に共通するキー・ワードは、「格差」、「再分配」、「承認」、「隔離」などである。中でも、「承認」の問題が大きい※10。

「格差」が固定化されてしまうような「再分配」が行われ、「隔離」やレッテル貼りが易々と行われる社会で、どうやってマイノリティが「承認」されている実感を持てるというのか？

多文化主義に向けられた批判のコアは、その点にある。

「承認」について、体系的な理論を展開する一人に、アクセル・ホネット※11がいる※12。

先輩にあたるドイツの哲学者、ユルゲン・ハーバマスのコミュニケーション理論を継承しながら、A.ホネットは、公共圏における人々の合意形成のプロセスではなく、お互いの「承認をめぐる闘争」こそがコミュニケーションだという考え方に立つ。

人々が辛い思いをするのは、コミュニケーションの場から締め出されることに加え、たとえ参加できたとしても、「無視されること」、「真剣に受け止められないこと」、「フェアに評価されないこと」などの“不正”に出会う時だ、という。職場でも、恋愛でも、レストランでの食事中でも、承認を求めてなお、軽んじられた経験に出くわすと、さまざまな否定的感情が沸き起こるのだ※13。

先にみた、「ゲッターに閉じ込められた人々に蓄積された不満」とは、おそらくそうした状況を指す。各国における、その歴史的な機制は、本レポート中の田辺論文に詳しい。

A.ホネットは、「承認」や、「承認」を巡る闘争の機会の平等が、人間の社会性にとって重要な経験であり、フェアな「再分配」が行われるためにも、「承認」が先行すべきだという※14。

今後の多文化主義の望ましいあり方があるとなれば、「承認」を巡る考察のうちに見出せるだろう。

5 調査の狙い

再び、先行研究に戻ろう。

ナショナリズムや排外主義の規定要因の研究が、政治哲学のレイヤーにあるとすれば、生活をこと細かに把握する調査は、生活の現場における不都合を把握するものだ。

我々の興味はその中間、つまり、コミュニティレベルの生活実態を把握したいということである。

社会構造の変化に対応する政策の検討や、議会内民主主義における正式な意思決定ルートに則って、偏見や誤解を克服しようとする努力は重要だ。

しかし、他人との軋轢も、相互理解も、ちょっとした我慢の経験も、人々が「住み暮らす」中で、自然に積み重なっていくものだ。

そうした“生活世界”をどう把握できるだろうか。それが我々の問題意識である。少し肩に力を入れて言えば、「交流」や「承認」を生み出

すアーキテクチャーと、そこから生まれる人々の経験を把握したい。

理論や主義を軽視しているのではない。「外国人と仲良くするには、現場の知恵が必要だ」と主張しているわけでもない。そうではなく、「生活をとらえる理論フレームが不足している」という立場に我々は立っている。

どのような経験・環境が、どのような感情を生み出し、見慣れぬ外国人と仲良くつき合っているのか。そこに「我々の住まいや暮らし」の観点から解決できることが見出せるはずだ。

実生活への精細な視線と、理解するフレームがないままの多文化主義や、その他の政治哲学が、その他者に対する好意的なスタンスを裏切って、むしろ社会的混乱を引き起こしてしまうことを、我々はすでに確認してきた。

6 調査の構造と主要設問

次項の調査データの説明に先立って、調査全体の構造と、主要項目について説明したい。

まず、「日本人調査」と「在日外国人調査」の、2種類の調査を実施している。

調査項目の構成は、おおよそ以下表の通りである。多くの項目を、日本人と在日外国人とで比較できるようにしている。

なお、下表の黒太字が、主要指標、および主要分析軸である。

分類		質問項目	日本人	在日外国人
基本情報	基本情報①	性別／年齢／職業／住居タイプ	○	○
	基本情報②	在留資格／日本での居住年数		○
経験	「外国」に関する経験	外国語習熟度／海外生活経験／海外旅行経験	○	
	「居住」に関する経験	多様な住環境経験	○	
	住んでいるエリアのELEMENT	※『Sensuous city（官能都市）調査2015』を参照	○	○
	住んでいるエリアのキャラクター	※『Sensuous city（官能都市）調査2015』を参照	○	○
	住んでいるエリアでのエクスペリエンス	※『Sensuous city（官能都市）調査2015』を参照	○	○
交流状況	生活実態	友人の数／交流の程度／交流の内容／交流の希望	○	○
	地域コミュニティでの交流実態	頼れる友人の数／交流の程度／交流の内容／交流の希望	○	○
	地域コミュニティでの被承認度	※「地域社会の一員として認められているか」	○	○
	生活満足度	生活満足度	○	○
日本人評価	日本人の評価	日本人の良いところ／日本人の残念なところ／日本の推奨意向	○	○
	日本での要望と配慮	日本で気を配ってほしいこと／気を配っていること	○	○
外国人への意識	外国人が増加することの評価	外国人増加の肯定的評価／外国人増加の否定的評価	○	
	ナショナリズム指標	愛国主義／純化主義／排外主義	○	
寛容度	外国人への寛容度	※5つの指標から統計処理を経て積算・カテゴリー化	○	
	一般的寛容度	※「自分と価値観が異なる人の存在をなるべく認めようとしている」	○	
	一般的信頼度		○	

■日本人と在日外国人とのコミュニケーションの実相を把握し、その構造化のヒントを得る、という調査目的に照らして、「交流状況」については相当の検討を重ねた。具体的な検討過程は省くが、どのようにカテゴリー化したかは各項において説明している。

■「住まいの経験」では、「多様な住経験」が「外国人への寛容さ」につながることを、後段の分析で明らかになる。

■「住んでいるエリアのエLEMENT（場所）」、「住んでいるエリアのキャラクター（状態）」、「住んでいるエリアでのエクスペリエンス（経験）」については、2015年に上梓した、『官能都市』（HOME'S 総研,2015年）の調査で設定した項目を、修正して用いることとした。

■「交流状況」の中での、「地域コミュニティでの交流実態」や、「外国人が増加することの評価」については、在日外国人とのトラブルの事例や、移民受入反対論に関する記事、著作に幅広くあたり、それらを類型化する作業を経て、選択肢を作成した。

■また、日本人評価については、日本人の評価を測定するにあたって、以下の4組の対になる概念因子を設定した。

[ポジティブ]		[ネガティブ]	
①	仲良し	↔	内向き
②	真面目	↔	神経質
③	柔軟	↔	無頓着
④	洗練	↔	外 ^{そと} 面 ^{づら}

例えば、一番目の「仲良し⇔内向き」について、日本（人）は「閉鎖的」「ムラ社会」（「内向き」）であると批判されることが多いが、場合によっては、「和をもって尊しとなす」（「仲良し」）といったポジティブな評価を得るように、同じ行動やメンタリティが局面によって正反対の評価を得ることを念頭においている。

「真面目」さ、几帳面さ、細部へのこだわりが、脅迫「神経」的に見える時もあり、こだわりのなさが「柔軟」性にも、ポリシーが無い、「無頓着」とも言われる。「外面だけは良い」と批判される行動やスタンスが、洗練されたマナーにつながる、といった具合である。

なお、概念因子、選択肢設定にあたっては、各種の日本人論（『日本人論』再考』（船曳建夫）、『日本人』とは何者か』（松岡正剛、赤坂真理、斎藤環、中沢新一）など）を参照した。

- 日本に住む外国人が増えることに対する危機感は、「治安が悪くなる」、「公共マナーが悪くなる」という2点に集約されること、外国人への寛容度が高い層ほどそうした危機感を持つが、それを上回るメリットを見出していることが明らかにされる。

- 大きな分析フレームと、その分析結果をまとめると、以下のようになる。

- 基本的な生活実態を踏まえた【Part1】後、「外国人への寛容性」に影響を与える要因分析を行う【Part2】。そこで、「外国人との交流度」と、地域で認められているという「被承認度」の2つが、「愛国主義」や、「海外旅行経験」などよりも、「外国人への寛容度」との相関が高い、という結論を得ることになる。つまり、思想・信条の一部や、海外に関する経験よりも、日常生活での「交流」と、「自分が認められている実感」の方が、外国人に対して寛容さを育むということである。

- そのことを踏まえて、「被承認意識」がどういった要因から生じていそうかを分析【Part3】し、「困った時に頼れる地域の友人の数」と、「地域の交流の活発さ」が重要であることを確認する。

- その結果を踏まえ、「外国人との交流度」が、どういった効果をもたらすのか、どのような“街のアーキテクチャー”から生まれてくるのかを分析する【Part4】。大まかに言えば、交流度が高いほど、外国人増加のメリット、デメリット両方の理解が進み、「地元への愛着度」や「日本の推奨意向」を高めること、『官能都市』（HOME'S総研、2015年）で見出した、官能度の高い街が在日外国人との「交流」を促すことを確認する。

寛容度調査分析レポート

i 調査概要

■ 調査方法：インターネット調査

- ・日本人調査は、株式会社マーケティングアプリケーションズ、外国人調査は、株式会社マクロミル、それぞれのインターネット・リサーチパネルを利用。

■ 調査対象

【日本人調査】

- ・在日外国人の人口比率が高い市区町村に居住する18～79歳までの男女2000名。

【外国人調査】

- ・関東7都道府県（東京都、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、東海4県（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）、京都市・大阪府・兵庫県に居住する、国籍が中国、台湾、朝鮮、韓国、フィリピン、米国、ブラジル（表記と順序は法務省「在留外国人統計」に基づく）である、18～79歳の男女1500名。

■ 日本人調査の調査対象地域の抽出と回収サンプル数の設定

- 市区町村別の在留外国人の人口比率は、平成27年国勢調査（総務省）における総人口（日本人＋外国人＋日本人・外国人の別「不詳」）を分母とし、在留外国人統計（法務省）における2016年6月末現在の在留外国人総数を分子として算出した。
 - ・総人口は1億2709万4745人、在留外国人総数は230万7388人で、在留外国人比率は1.82%。
 - ・市区町村の区分は、東京23区、政令指定都市の区、及び市町村である。
- 各市区町村の「在留外国人の人口比率」を上位から順番に並べ、累積在留外国人総数の割合が50%を超えるまでの自治体を調査対象地域と設定した。結果、調査対象自治体の数は220となった。
- この220自治体に居住する18～79歳までの男女について、各性年代ごとに200名ずつ回収した。
 - ・年代は、「29歳以下」「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳以上」の5区分である。

■ 外国人調査の調査対象条件と回収サンプル数の設定

- 居住都道府県と年齢以外に、「在留資格」を保有していること、「在留資格」が「短期滞在」ではないことを調査対象条件とした。
- 国籍は、「中国、台湾」（以下、「中国（香港・台湾を含む）」と表記）、「朝鮮、韓国」（以下、「韓国・北朝鮮」と表記）、「フィリピン」、「米国」、「ブラジル」に分類し、それぞれ300名ずつ回収した。

■ 調査対象時期：2017年2月1日（水）～2月13日（月）

■ 調査実施機関：株式会社アンド・ディ

■ データ補正（ウェイトバック）

- 外国人調査の分析にあたっては、在留資格の人数構成比を反映したウェイトバック係数を用いている。
- 具体的には、在留外国人統計（法務省）における2016年6月末現在の総在留外国人の総数から、「短期滞在」資格の人数を差し引いた人数に基づいて調整している。
 - ・在留資格の区分は、調査票の選択肢に合わせている。
 - ・ウェイトバック係数を掛けたため、本レポート中の各セグメントの調査数を合算しても全体の調査数にはならないケースがある。

■ 調査対象自治体一覧

No	都道府県	調査対象市区町村	在留外国人 総数	総人口	外国人 比率	累積 構成比
1	福島県	富岡町	57	-		0.00
2	福島県	大熊町	47	-		0.00
3	福島県	双葉町	26	-		0.01
4	福島県	浪江町	47	-		0.01
5	福島県	飯館村	39	41	95.12	0.01
6	福島県	葛尾村	6	18	33.33	0.01
7	大阪府	大阪市 生野区	27,862	130,167	21.40	1.22
8	長野県	川上村	957	4,607	20.77	1.26
9	群馬県	大泉町	7,231	41,202	17.55	1.57
10	長野県	南牧村	487	3,408	14.29	1.59
11	東京都	新宿区	40,943	333,560	12.27	3.37
12	神奈川県	横浜市 中区	16,104	148,312	10.86	4.07
13	大阪府	大阪市 浪速区	7,354	69,766	10.54	4.38
14	愛知県	名古屋市中区	8,147	83,203	9.79	4.74
15	北海道	占冠村	112	1,211	9.25	4.74
16	兵庫県	神戸市 中央区	12,452	135,153	9.21	5.28
17	東京都	豊島区	26,476	291,167	9.09	6.43
18	大阪府	大阪市 東成区	6,840	80,563	8.49	6.73
19	大阪府	大阪市 中央区	7,781	93,069	8.36	7.06
20	東京都	港区	20,270	243,283	8.33	7.94
21	東京都	荒川区	17,629	212,264	8.31	8.71
22	岐阜県	美濃加茂市	4,575	55,384	8.26	8.90
23	東京都	台東区	14,738	198,073	7.44	9.54
24	兵庫県	神戸市 長田区	7,193	97,912	7.35	9.85
25	茨城県	常総市	4,358	61,483	7.09	10.04
26	大阪府	大阪市 西成区	7,682	111,883	6.87	10.38
27	埼玉県	蕨市	4,942	72,260	6.84	10.59
28	愛知県	知立市	4,582	70,501	6.50	10.79
29	岐阜県	可児市	6,381	98,695	6.47	11.07
30	岐阜県	坂祝町	529	8,202	6.45	11.09
31	静岡県	菊川市	2,918	46,763	6.24	11.21
32	愛知県	高浜市	2,800	46,236	6.06	11.34
33	神奈川県	川崎市 川崎区	13,296	223,378	5.95	11.91
34	神奈川県	愛川町	2,351	40,343	5.83	12.01
35	東京都	福生市	3,378	58,395	5.78	12.16
36	京都府	京都市 南区	5,774	99,927	5.78	12.41
37	沖縄県	恩納村	605	10,652	5.68	12.44
38	東京都	北区	18,983	341,076	5.57	13.26
39	大阪府	大阪市 天王寺区	4,207	75,729	5.56	13.44
40	愛知県	小牧市	8,124	149,462	5.44	13.79
41	群馬県	伊勢崎市	11,219	208,814	5.37	14.28
42	群馬県	昭和村	388	7,347	5.28	14.30
43	愛知県	碧南市	3,767	71,346	5.28	14.46
44	東京都	江東区	26,074	498,109	5.23	15.59
45	愛知県	名古屋市中区	7,643	146,745	5.21	15.92
46	三重県	木曽岬町	326	6,357	5.13	15.94
47	埼玉県	川口市	29,311	578,112	5.07	17.21
48	東京都	千代田区	2,934	58,406	5.02	17.33
49	三重県	伊賀市	4,498	90,581	4.97	17.53
50	愛知県	岩倉市	2,314	47,562	4.87	17.63
51	山梨県	中央市	1,497	31,124	4.81	17.69
52	茨城県	八千代町	1,058	22,021	4.80	17.74
53	兵庫県	神戸市 兵庫区	5,120	106,956	4.79	17.96
54	東京都	中野区	15,208	328,215	4.63	18.62
55	東京都	渋谷区	10,292	224,533	4.58	19.07
56	静岡県	湖西市	2,740	59,789	4.58	19.18
57	神奈川県	横浜市 南区	8,901	194,827	4.57	19.57
58	茨城県	鉾田市	2,190	48,147	4.55	19.67
59	東京都	中央区	6,388	141,183	4.52	19.94
60	東京都	江戸川区	30,421	681,298	4.47	21.26
61	埼玉県	戸田市	6,038	136,150	4.43	21.52
62	東京都	墨田区	11,358	256,274	4.43	22.01
63	千葉県	千葉市 美浜区	6,557	148,718	4.41	22.30
64	愛知県	西尾市	7,329	167,990	4.36	22.62
65	滋賀県	湖南市	2,331	54,289	4.29	22.72
66	群馬県	太田市	9,359	219,807	4.26	23.12
67	長野県	白馬村	380	8,929	4.26	23.14
68	茨城県	大洗町	718	16,886	4.25	23.17
69	神奈川県	横浜市 西区	4,150	98,532	4.21	23.35
70	北海道	猿払村	113	2,684	4.21	23.36
71	大阪府	大阪市 西区	3,861	92,430	4.18	23.52
72	福井県	越前市	3,390	81,524	4.16	23.67
73	東京都	文京区	9,105	219,724	4.14	24.06
74	愛媛県	上島町	295	7,135	4.13	24.08
75	茨城県	下妻市	1,788	43,293	4.13	24.15
76	東京都	葛飾区	18,224	442,913	4.11	24.94
77	北海道	雄武町	186	4,525	4.11	24.95
78	北海道	倶知安町	612	15,018	4.08	24.98
79	東京都	足立区	27,233	670,122	4.06	26.16
80	愛知県	名古屋市中区	3,171	78,043	4.06	26.30

No	都道府県	調査対象市区町村	在留外国人 総数	総人口	外国人 比率	累積 構成比
81	愛知県	飛島村	178	4,397	4.05	26.30
82	大阪府	大阪市 平野区	7,893	196,633	4.01	26.65
83	愛知県	名古屋市 中村区	5,334	133,206	4.00	26.88
84	栃木県	真岡市	3,179	79,539	4.00	27.02
85	神奈川県	横浜市 鶴見区	11,346	285,356	3.98	27.51
86	愛知県	豊橋市	14,899	374,765	3.98	28.15
87	静岡県	浜松市 南区	4,010	100,870	3.98	28.33
88	静岡県	袋井市	3,400	85,789	3.96	28.47
89	北海道	二セツ町	196	4,958	3.95	28.48
90	静岡県	磐田市	6,565	167,210	3.93	28.77
91	山梨県	昭和町	763	19,505	3.91	28.80
92	東京都	板橋区	21,884	561,916	3.89	29.75
93	愛知県	豊明市	2,688	69,127	3.89	29.87
94	北海道	留寿都村	74	1,907	3.88	29.87
95	大阪府	大阪市 北区	4,760	123,667	3.85	30.07
96	京都府	京都市 左京区	6,474	168,266	3.85	30.36
97	静岡県	浜松市 中区	9,056	237,443	3.81	30.75
98	茨城県	結城市	1,946	51,594	3.77	30.83
99	滋賀県	愛荘町	783	20,778	3.77	30.87
100	静岡県	吉田町	1,095	29,093	3.76	30.91
101	茨城県	坂東市	2,024	54,087	3.74	31.00
102	茨城県	つくば市	8,462	226,963	3.73	31.37
103	愛知県	名古屋市 昭和区	3,985	107,170	3.72	31.54
104	三重県	鈴鹿市	7,300	196,403	3.72	31.86
105	神奈川県	綾瀬市	3,139	84,460	3.72	31.99
106	千葉県	富里市	1,829	49,636	3.68	32.07
107	愛知県	豊田市	15,539	422,542	3.68	32.75
108	愛知県	名古屋市 南区	4,994	136,935	3.65	32.96
109	栃木県	小山市	5,982	166,760	3.59	33.22
110	岐阜県	瑞穂市	1,931	54,354	3.55	33.31
111	大阪府	大阪市 東淀川区	6,167	175,530	3.51	33.57
112	大分県	別府市	4,283	122,138	3.51	33.76
113	京都府	京都市 上京区	2,974	85,113	3.49	33.89
114	埼玉県	上里町	1,057	30,565	3.46	33.93
115	大阪府	大阪市 西淀川区	3,299	95,490	3.45	34.08
116	愛知県	安城市	6,335	184,140	3.44	34.35
117	群馬県	碓氷村	334	9,780	3.42	34.36
118	大阪府	東大阪市	16,994	502,784	3.38	35.10
119	三重県	いなべ市	1,529	45,815	3.34	35.17
120	静岡県	掛川市	3,820	114,602	3.33	35.33
121	愛知県	弥富市	1,436	43,269	3.32	35.40
122	兵庫県	神戸市 灘区	4,513	136,088	3.32	35.59
123	大阪府	大阪市 淀川区	5,802	176,201	3.29	35.84
124	埼玉県	八潮市	2,839	86,717	3.27	35.97
125	三重県	亀山市	1,640	50,254	3.26	36.04
126	愛知県	名古屋市 千種区	5,320	164,696	3.23	36.27
127	静岡県	清水町	1,036	32,118	3.23	36.31
128	山梨県	山中湖村	167	5,208	3.21	36.32
129	茨城県	境町	772	24,517	3.15	36.35
130	福岡県	福岡市 博多区	7,167	228,441	3.14	36.66
131	愛知県	蟹江町	1,158	37,085	3.12	36.71
132	千葉県	成田市	4,086	131,190	3.11	36.89
133	東京都	品川区	11,979	386,855	3.10	37.41
134	神奈川県	中井町	299	9,679	3.09	37.42
135	長野県	南相木村	31	1,005	3.08	37.42
136	大阪府	大阪市 城東区	5,048	164,697	3.07	37.64
137	大阪府	大阪市 港区	2,501	82,035	3.05	37.75
138	滋賀県	甲賀市	2,769	90,901	3.05	37.87
139	山梨県	忍野村	273	8,968	3.04	37.88
140	岐阜県	輪之内町	303	9,973	3.04	37.90
141	千葉県	銚子市	1,954	64,415	3.03	37.98
142	愛知県	蒲都市	2,452	81,100	3.02	38.09
143	愛知県	名古屋市 北区	4,937	163,579	3.02	38.30
144	愛知県	名古屋市 熱田区	1,976	65,895	3.00	38.39
145	東京都	大田区	21,420	717,082	2.99	39.31
146	福岡県	福岡市 東区	9,132	306,015	2.98	39.71
147	東京都	目黒区	8,271	277,622	2.98	40.07
148	千葉県	市川市	14,287	481,732	2.97	40.69
149	京都府	京都市 伏見区	8,290	280,655	2.95	41.05
150	千葉県	東金市	1,781	60,652	2.94	41.12
151	千葉県	芝山町	218	7,431	2.93	41.13
152	長野県	箕輪町	739	25,241	2.93	41.17
153	愛知県	東浦町	1,441	49,230	2.93	41.23
154	岐阜県	垂井町	805	27,556	2.92	41.26
155	愛知県	豊川市	5,308	182,436	2.91	41.49
156	広島県	東広島市	5,589	192,907	2.90	41.74
157	千葉県	松戸市	13,920	483,480	2.88	42.34
158	岐阜県	大垣市	4,587	159,879	2.87	42.54
159	大阪府	忠岡町	496	17,298	2.87	42.56
160	広島県	江田島市	696	24,339	2.86	42.59

No	都道府県	調査対象市区町村	在留外国人 総数	総人口	外国人 比率	累積 構成比
161	愛知県	豊山町	434	15,177	2.86	42.61
162	愛知県	みよし市	1,755	61,810	2.84	42.68
163	広島県	広島市 中区	3,872	136,640	2.83	42.85
164	香川県	多度津町	661	23,366	2.83	42.88
165	静岡県	牧之原市	1,288	45,547	2.83	42.94
166	群馬県	草津町	184	6,518	2.82	42.94
167	岐阜県	土岐市	1,630	57,827	2.82	43.02
168	茨城県	行方市	976	34,909	2.80	43.06
169	神奈川県	厚木市	6,292	225,714	2.79	43.33
170	長野県	御代田町	423	15,184	2.79	43.35
171	北海道	浜頓別町	108	3,881	2.78	43.35
172	愛知県	瀬戸市	3,582	129,046	2.78	43.51
173	福島県	橋本町	27	975	2.77	43.51
174	静岡県	御前崎市	902	32,578	2.77	43.55
175	埼玉県	本庄市	2,155	77,881	2.77	43.64
176	千葉県	千葉市 中央区	5,666	205,070	2.76	43.89
177	神奈川県	川崎市 幸区	4,415	160,890	2.74	44.08
178	大阪府	大阪市 都島区	2,872	104,727	2.74	44.20
179	広島県	海田町	785	28,667	2.74	44.24
180	三重県	川越町	403	14,752	2.73	44.26
181	京都府	京都市 下京区	2,258	82,668	2.73	44.35
182	三重県	津市	7,639	279,886	2.73	44.68
183	愛知県	刈谷市	4,078	149,765	2.72	44.86
184	北海道	愛別町	81	2,976	2.72	44.86
185	大阪府	堺市 堺区	3,973	148,205	2.68	45.04
186	三重県	四日市市	8,312	311,031	2.67	45.40
187	群馬県	千代田町	302	11,318	2.67	45.41
188	山梨県	甲府市	5,144	193,125	2.66	45.63
189	滋賀県	長浜市	3,146	118,193	2.66	45.77
190	北海道	佐呂間町	142	5,362	2.65	45.78
191	愛知県	大山市	1,963	74,308	2.64	45.86
192	京都府	京都市 右京区	5,390	204,262	2.64	46.09
193	神奈川県	大和市	6,140	232,922	2.64	46.36
194	沖縄県	南大東村	35	1,329	2.63	46.36
195	岐阜県	北方町	478	18,169	2.63	46.38
196	京都府	京都市 東山区	1,027	39,044	2.63	46.43
197	愛知県	名古屋市 中川区	5,793	220,281	2.63	46.68
198	愛知県	南知多町	488	18,707	2.61	46.70
199	愛知県	岡崎市	9,929	381,051	2.61	47.13
200	埼玉県	和光市	2,097	80,826	2.59	47.22
201	長野県	北相木村	20	774	2.58	47.22
202	大阪府	八尾市	6,932	268,800	2.58	47.52
203	群馬県	館林市	1,976	76,667	2.58	47.61
204	愛知県	半田市	3,002	116,908	2.57	47.74
205	大阪府	大阪市 此花区	1,711	66,656	2.57	47.81
206	栃木県	足利市	3,827	149,452	2.56	47.98
207	大阪府	大阪市 住之江区	3,147	122,988	2.56	48.11
208	大阪府	大阪市 住吉区	3,935	154,239	2.55	48.28
209	京都府	久御山町	403	15,805	2.55	48.30
210	大阪府	大阪市 東住吉区	3,197	126,299	2.53	48.44
211	長野県	宮田村	223	8,821	2.53	48.45
212	埼玉県	三郷市	3,426	136,521	2.51	48.60
213	東京都	杉並区	14,122	563,997	2.50	49.21
214	兵庫県	神戸市 東灘区	5,317	213,634	2.49	49.44
215	沖縄県	北谷町	703	28,308	2.48	49.47
216	大阪府	大阪市 阿倍野区	2,666	107,626	2.48	49.59
217	香川県	宇多津町	469	18,952	2.47	49.61
218	愛知県	大府市	2,206	89,157	2.47	49.70
219	静岡県	浜松市 東区	3,177	128,555	2.47	49.84
220	神奈川県	横浜市 神奈川区	5,899	238,966	2.47	50.10

※「在留外国人総数」は「2016年6月末現在の在留外国人統計」より、「総人口」は「平成27年国勢調査結果」より。

※ 外国人比率は「在留外国人総数」を「総人口」で割った値。本表はこのスコアは大きい順に並べている。

但し、上位4自治体は避難区域に指定されており、平成22年基準人口を元に社会動態を加味する総人口が「0人」となっている。

※ 累積構成比は全国の在留外国人総数（230万7388人）に対する割合を示している。

ii 回答者プロフィール

① 性別

■性別・年齢(全体／単一回答・実数回答)

					(%)					(歳)
			男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均年齢
調査数										
日本人・計			2000		20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	44.65
外国人・計			1500		37.6	40.5	13.4	7.2	1.4	34.18
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	268	24.1	75.9	52.3	39.5	4.3	3.8	—	30.51
	韓国・北朝鮮	325	29.1	70.9	29.3	57.3	4.9	8.5	—	33.95
	フィリピン	234	40.7	59.3	43.4	37.4	16.6	2.6	—	32.70
	米国	337	53.0	47.0	21.7	40.1	17.9	14.2	6.1	39.09
	ブラジル	336	45.7	54.3	45.6	27.5	21.9	5.0	—	33.42
※外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt					0.1.1

② 居住エリア

■居住エリア(都道府県)(全体／単一回答)

			北海道・東北	北関東	一都三県	甲信・北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
調査数											
日本人・計			2000	0.1	3.9	51.7	1.2	19.9	19.7	0.9	2.7

			関東7都県	北関東	一都三県	関東以外	東海4県	京阪神	
調査数									
外国人・計			1500	79.5	6.9	72.6	20.5	8.8	11.7
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	268	94.2	4.9	89.3	5.8	0.6	5.2	
	韓国・北朝鮮	325	86.2	2.7	83.5	13.8	1.6	12.2	
	フィリピン	234	68.0	7.9	60.1	32.0	13.5	18.5	
	米国	337	86.2	7.6	78.6	13.8	3.6	10.3	
	ブラジル	336	62.8	11.3	51.5	37.2	24.3	12.9	
※外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

0.1.2

③ 職業

- 日本人で最も多いのは、「公務員・正社員」で3割強を占める。
- 在日外国人も「公務員・正社員」は2割弱だが、「契約社員・嘱託社員」が25%を占め、最も多い。
- また、「自営業」も10%を占めており、日本人の比率より高い。

■職業(全体／単一回答)

Q3/S7,あなたの職業はどれにあてはまりますか。



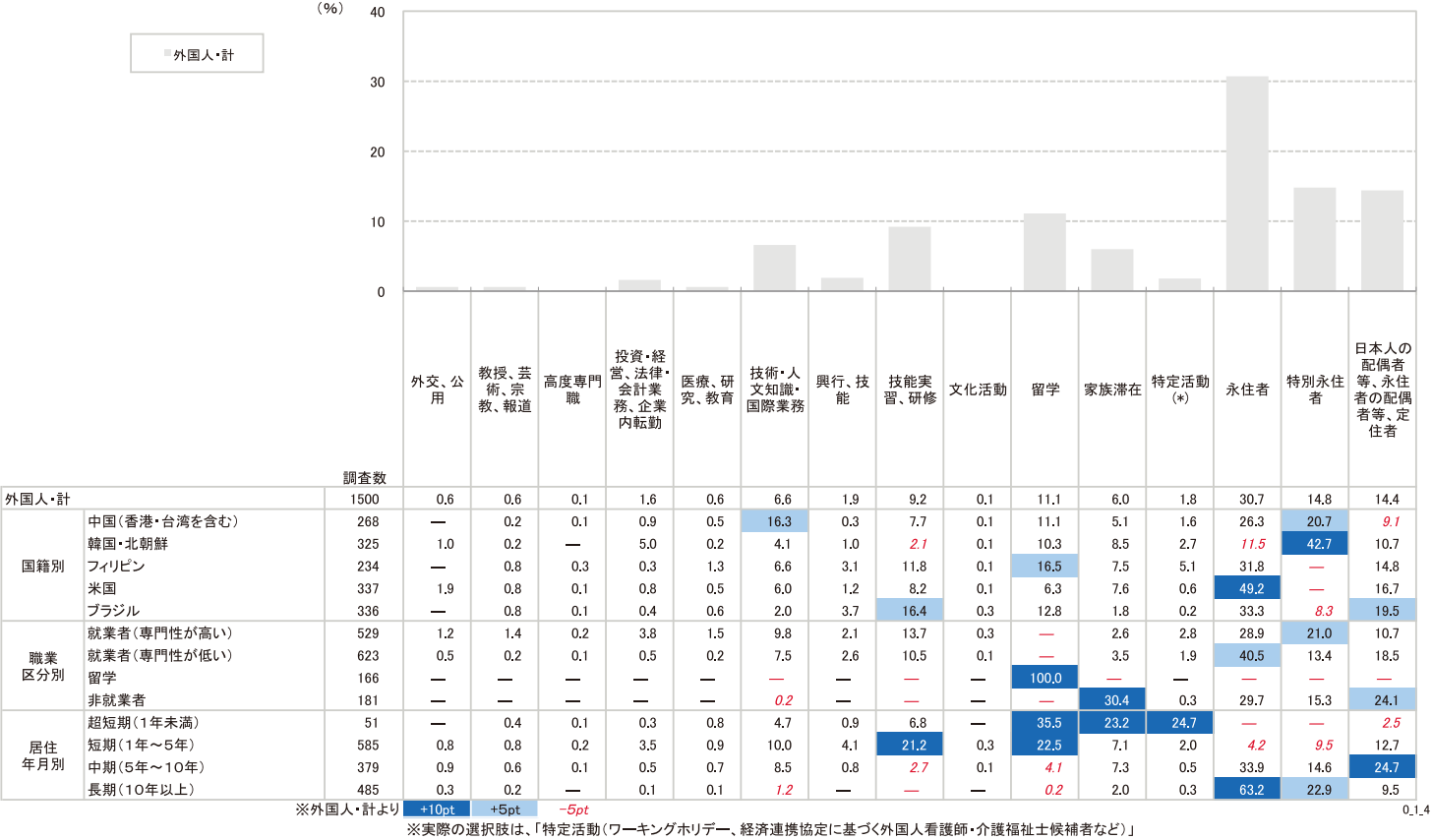
※日本人・計/外国人・計より +10pt +5pt -5pt 0,1,3

4 在留資格

最も多い在留資格は「永住者」で、3割を占める。「特別永住者」、「定住者」が、それぞれ15% 弱で続く。また、「留学」も11%を占めている（本報告書では、在留資格人数比でウェイトバックを行っている）。

■在留資格(全体／単一回答)

S6.あなたの在留資格をお答えください。※日本国籍の方は、「日本国籍なので、在留資格を取得していない」をお選びください。

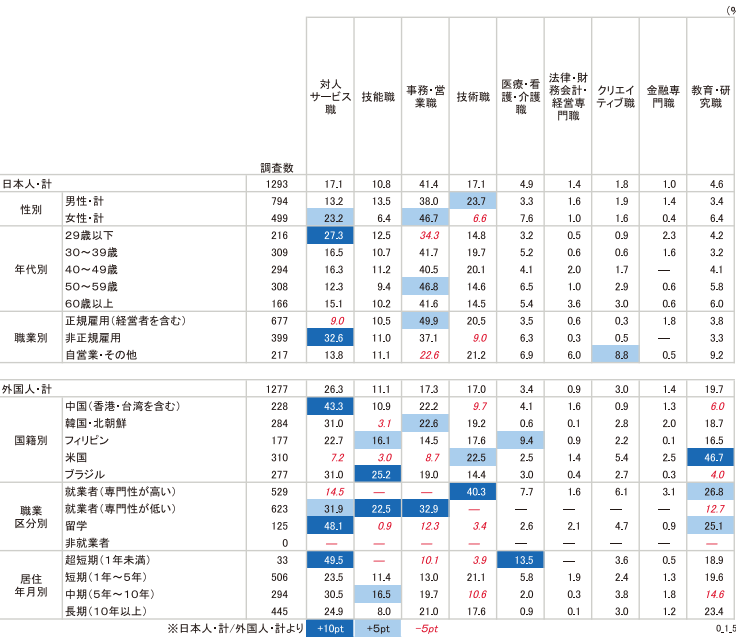
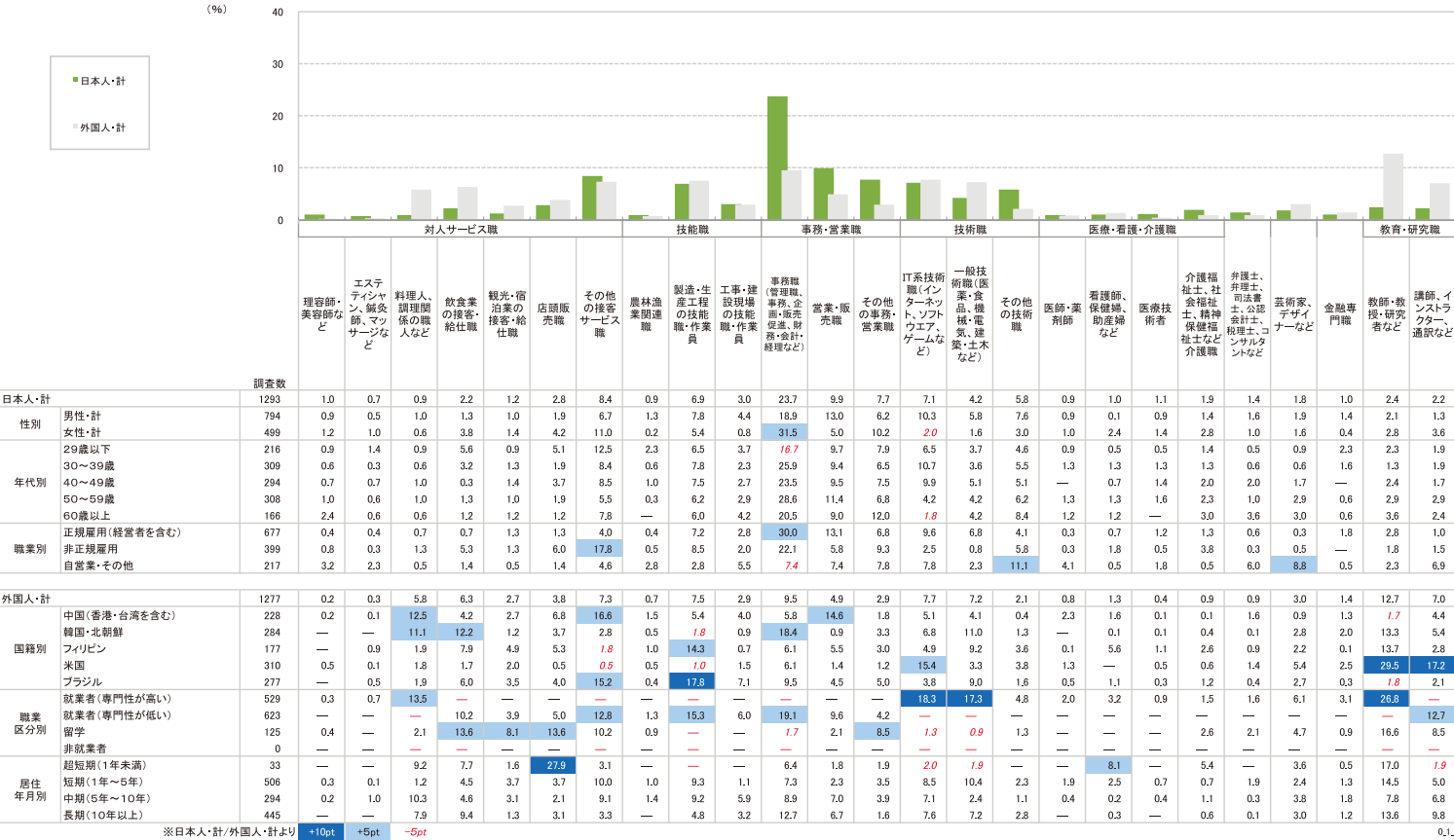


⑤ 職 種

- ☐ 日本人で最も多いのは、「事務職（管理職、事務、企画・販売促進、財務・会計・経理など）」で24%。「事務・営業職」で4割強を占める。
- ☐ 在日外国人では、「飲食業の接客・給仕職」、「料理人、調理関係の職人など」といった「対人サービス職」が26%、「教師・教授・研究者など」、「講師、インストラクター、通訳など」の「教育・研究職」が2割弱を占める。

■職種(就業者／単一回答)

Q4./S8.現在の勤務先でのあなたの職種は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。※近いものをどれかひとつお選びください。



PART 1 基本分析編

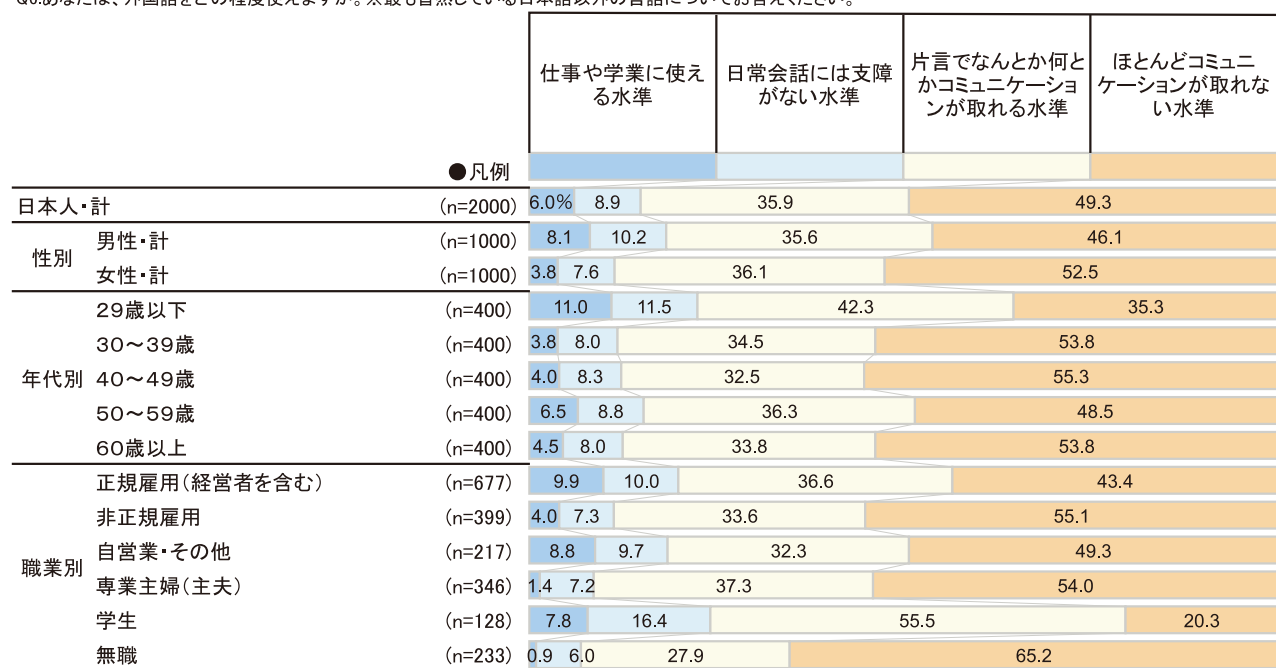
1 日本人の海外との接触状況

① 外国語習熟度

□「仕事や学業に使える水準」、「日常会話には支障がない水準」という、滑らかにコミュニケーションができる人は、15%程度。「ほとんどコミュニケーションが取れない水準」が5割である。

■外国語習熟度(全体／単一回答)

Q6.あなたは、外国語をどの程度使えますか。※最も習熟している日本語以外の言語についてお答えください。



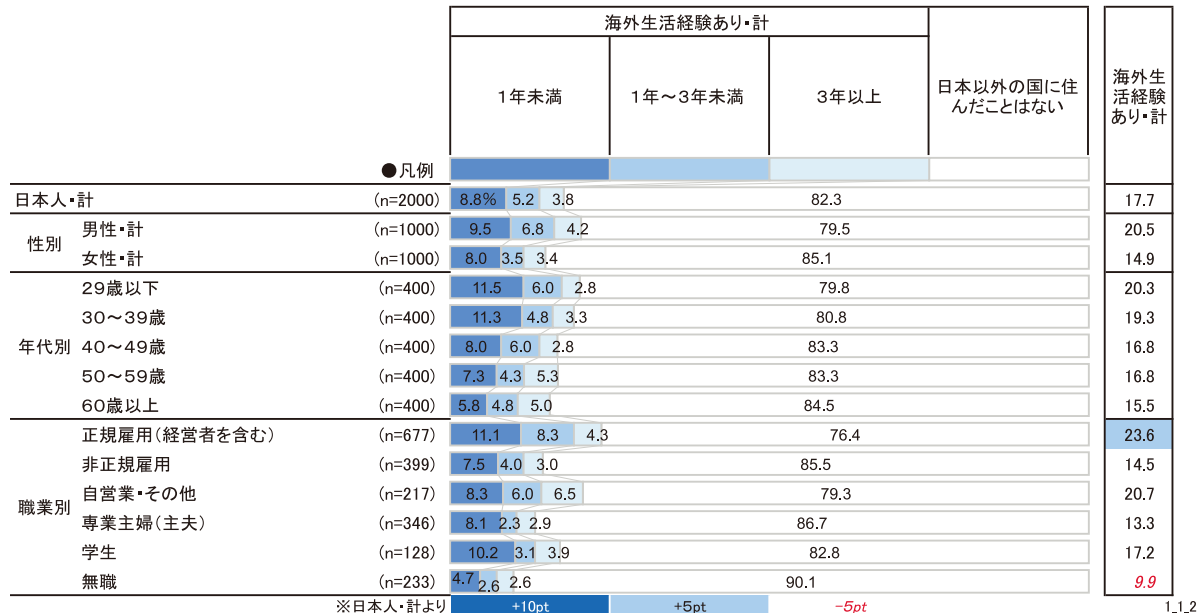
1_1.1

② 海外生活経験

□ 海外生活経験のある人は2割弱。年齢層が低い層ほど高く、「正規雇用」、「自営業・その他」は2割を超える。

■海外生活経験(全体／単一回答)

Q7.あなたはこれまでに、どのくらい長く日本以外の国に住んだことはありますか。※1ヶ月以上、同じ都市・エリアに滞在することを「住む」としてお答えください。※複数回にわたって住んだことがある方は、通算の期間をお答えください。

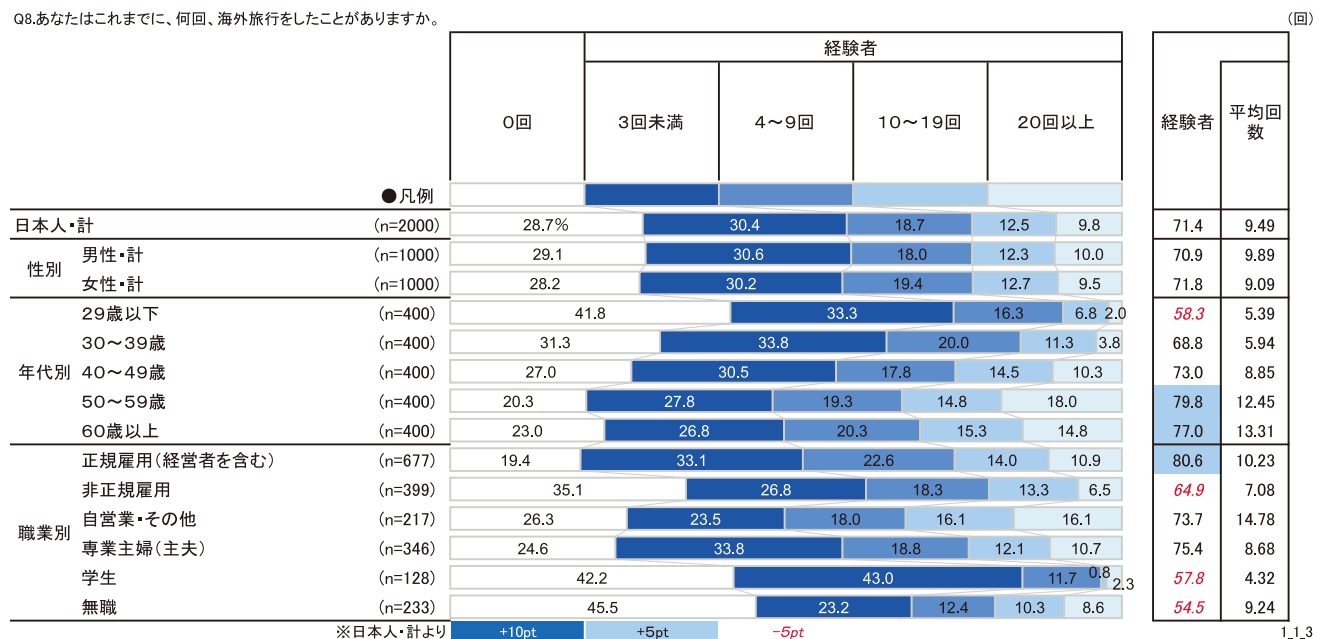


③ 海外旅行経験

□ 海外旅行経験がある人は、7割強である。概ね年齢層が高くなるにつれて、スコアも上がる。「正規雇用」、「自営業・その他」、「専業主婦(主夫)」が7割を大きく超える。

■海外旅行経験(全体／実数回答)

Q8.あなたはこれまでに、何回、海外旅行をしたことがありますか。



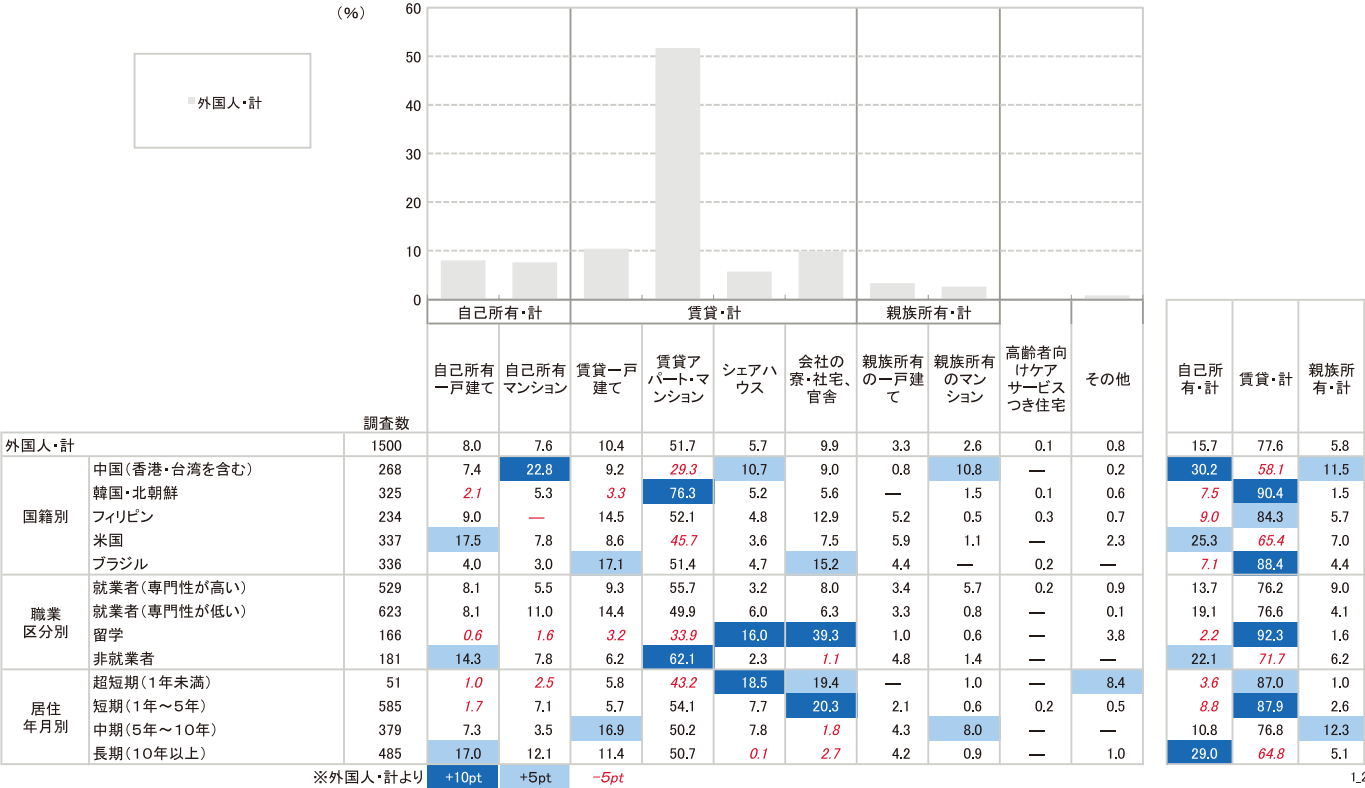
2 外国人の住まいの実態

① 住居タイプ

- 在日外国人の住居タイプで最も多いのは、「賃貸アパート・マンション」で5割強。「賃貸・計」が8割弱で、大半を占めている。
- 外国人の国籍別には、「中国」の「シェアハウス」、「親族所有のマンション」が各1割を超えていること、「米国」の「自己所有一戸建て」が2割弱あること、「ブラジル」の「会社の寮・社宅」が15%で高いこと、などが特徴である。
- また、居住年月が短い層は、「シェアハウス」、「会社の寮・社宅」が高いのに対し、長くなるにつれ、「賃貸一戸建て」、「自己所有一戸建て」が増えている。

■住居タイプ(全体／単一回答)

Q14.あなたは現在、どのようなお住まいに住んでいらっしゃいますか。

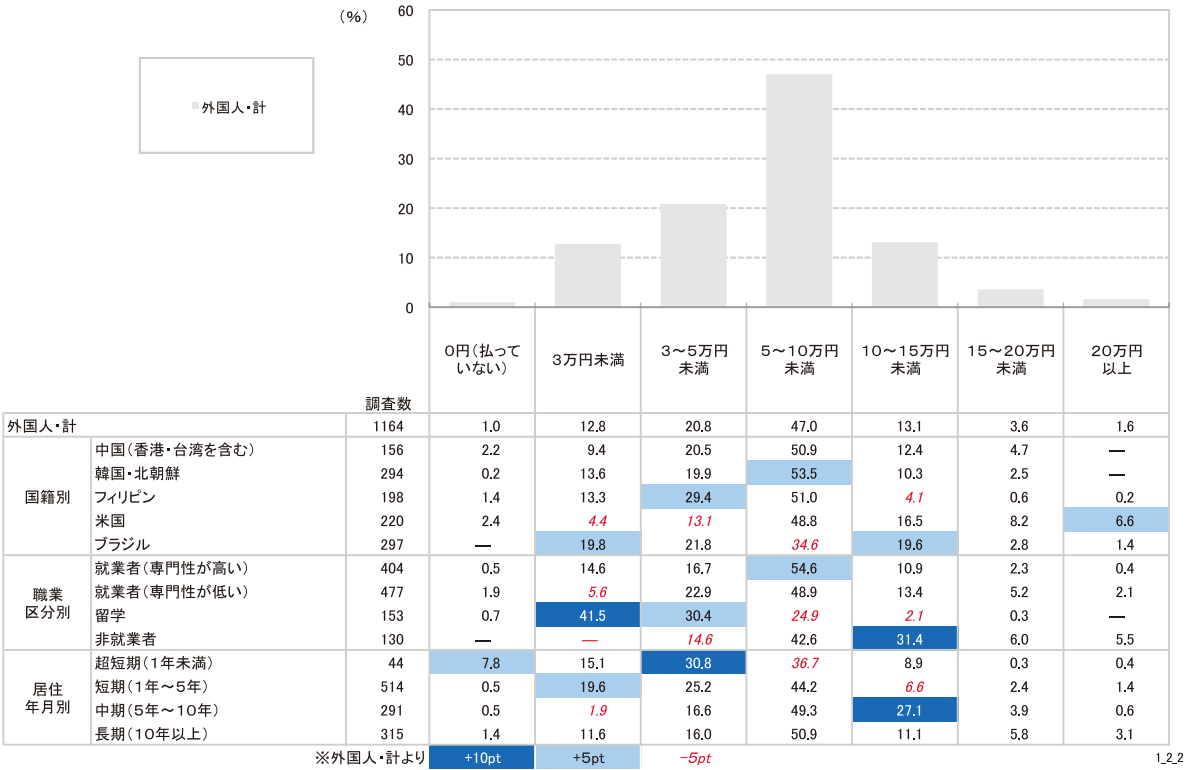


② 月額賃料

- 在日外国人の賃貸居住者の月額賃料のボリュームゾーンは、「5～10万円未満」で5割弱を占める。その前後のカテゴリー、「3～5万円未満」が2割弱、「10～15万円未満」が13%。
- どの国籍の場合でも、「5～10万円未満」のスコアが最も多いが、「フィリピン」では「3～5万円未満」が3割を占め、「米国」では「20万円以上」が多く、「ブラジル」は、「3万円未満」と「10～15万円未満」とが高いことなどが特徴である。

■月額賃料(賃貸住宅居住者／単一回答)

Q15.現在のあなたの住居の月額賃料はいくらぐらいですか。※ご自分の世帯で実際に支払っている費用をお答えください。※ルームシェアしている方はあなたの負担分をお答えください。

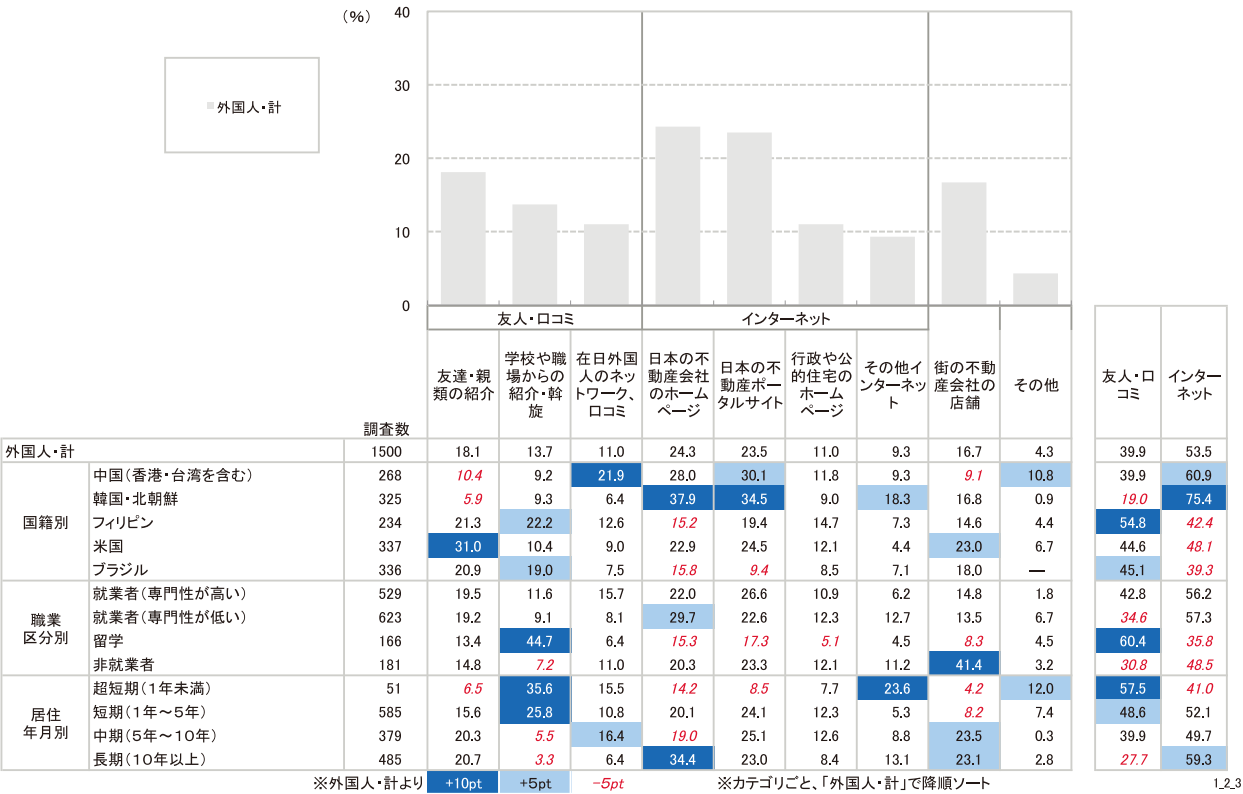


③ 情報メディア

- 在日外国人の「住まい探しの情報源」で多いのは、「日本の不動産会社のホームページ」、「日本の不動産ポータルサイト」で、それぞれ2割を超える。「街の不動産会社の店舗」も17%と高い。
- ・ 国籍別にみると、「中国」は「在日外国人のネットワーク、口コミ」が、「韓国・北朝鮮」では「日本の不動産会社のホームページ」や「日本の不動産ポータルサイト」が、「米国」では「友達・親類の紹介」が高いのが特徴となっている。

■情報メディア(全体／複数回答)

Q16.今の住まいを探す時に使った情報源は何ですか。

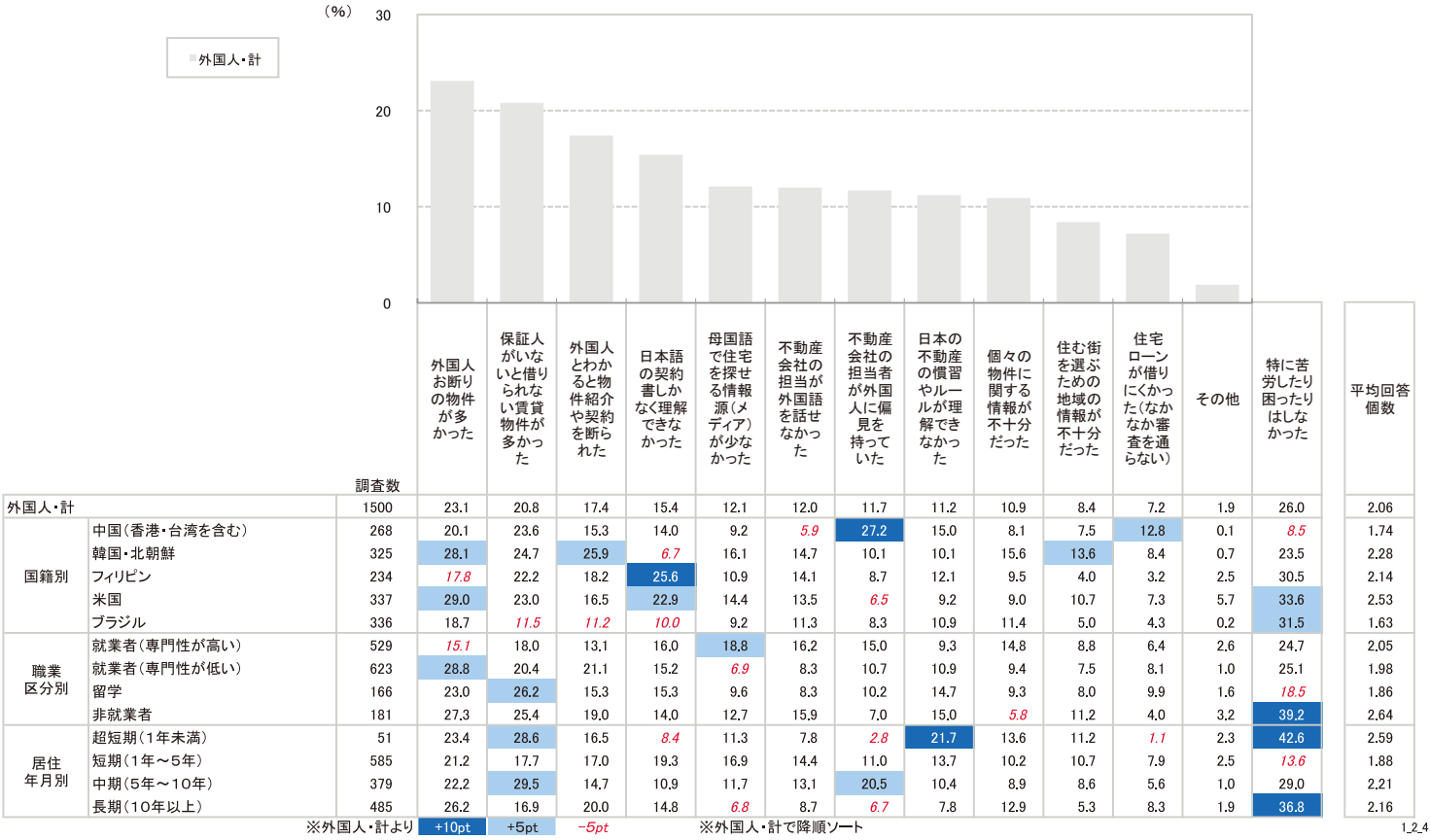


④ 困ったこと【住まい探し】

- 在日外国人が「住まい探しで困ったこと」のトップは、「外国人お断りの物件が多かった」であり、「保証人がいないと借りられない賃貸物件が多かった」とともに、2割を超える。「外国人とわかると物件紹介や契約を断られた」、「日本語の契約書しかなく理解できなかった」が続く。日本の商習慣や、日本語の壁の前に、そもそも門前払いされて困った経験のある外国人が2割前後いることになる。なお、「特に苦労したり困ったりはしなかった」は全体の4分の1程度である。
- ・ 国籍別にみると、「中国」は「不動産会社の担当者が外国人に偏見を持っていた」が高く、「韓国・北朝鮮」は「外国人お断りの物件が多かった」や「外国人とわかると物件紹介や契約を断られた」が高い。「フィリピン」は「日本語の契約書しかなく理解できなかった」が高い。また、他の設問において、比較的不満の少ない「米国」の、「外国人お断りの物件が多かった」、「日本語の契約書しかなく理解できなかった」のスコアが高い点も注目されよう。

■困ったこと【住まい探し】(全体／複数回答)

Q17.あなたが日本での住居を探す時、苦労したり困ったりした点はありませんか。あてはまるものをすべてお選びください。



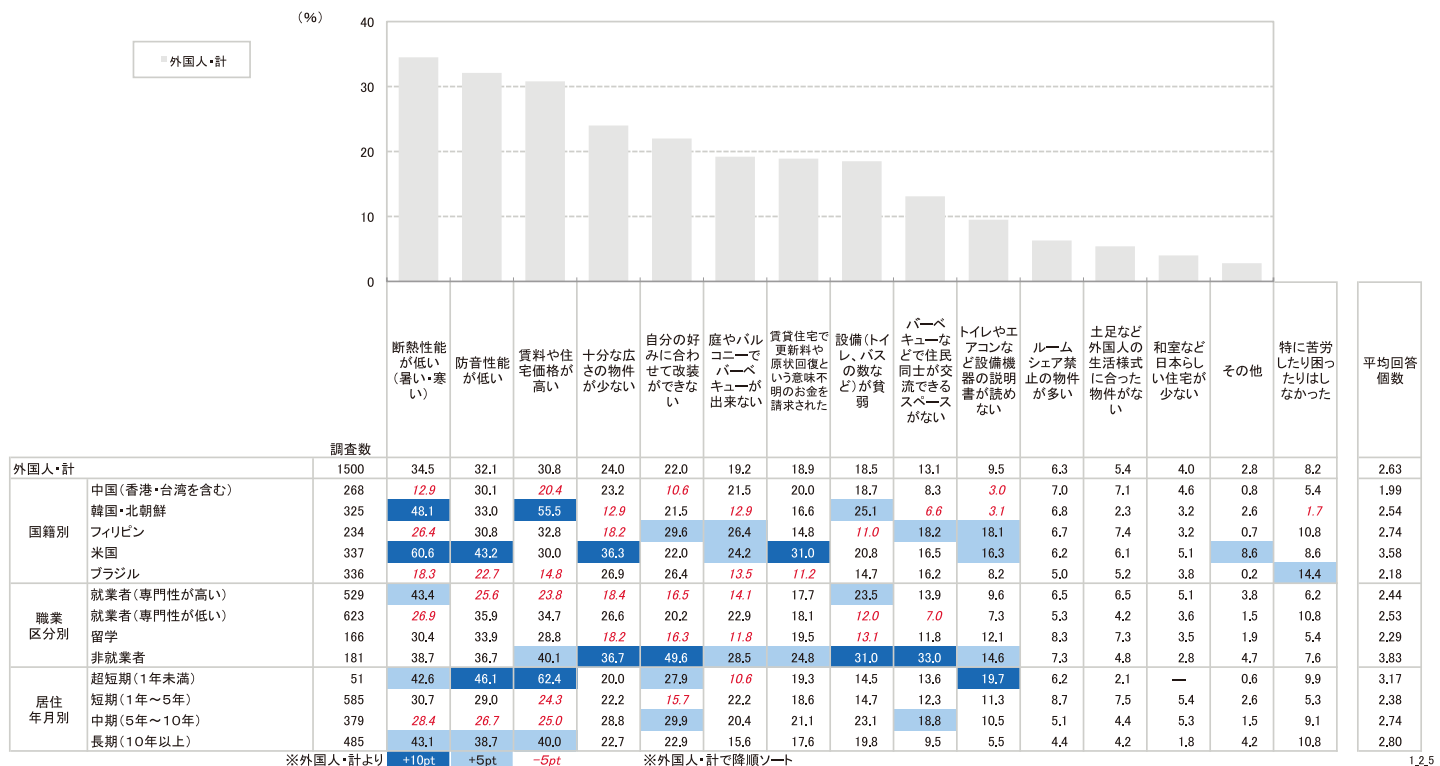
⑤ 困ったこと【ハード面】

□ 在日外国人の「住んでから困ったハード面」では、「断熱性能が低い（暑い・寒い）」がトップであり、「防音性能が低い」、「賃料や住宅価格が高い」が3割以上で続く。「十分な広さの物件が少ない」や、「自分の好みに合わせて改装ができない」が2割を超えている。

- ・ 国籍別にみると、「中国」は総じて不満が少ない。平均回答個数が最も多いのは「米国」であり、「断熱性能が低い（暑い・寒い）」、「防音性能が低い」、「十分な広さの物件が少ない」、「賃貸住宅で更新料や原状回復という意味不明のお金を請求された」などが特徴的に高い。特に、「断熱性能が低い（暑い・寒い）」は、スコアが6割に達する。
- ・ また、職業区分別の「非就業者」では、「自分の好みに合わせて改装ができない」が5割、「十分な広さの物件が少ない」、「設備（トイレ、バスの数など）が貧弱」、「バーベキューなどで住民同士が交流できるスペースがない」が3割を超えている。

■困ったこと【ハード面】(全体／複数回答)

Q18.あなたが、日本の住宅に実際に住んでみて、不満に思うことはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。※過去すべてのお住まいについてお答えください。



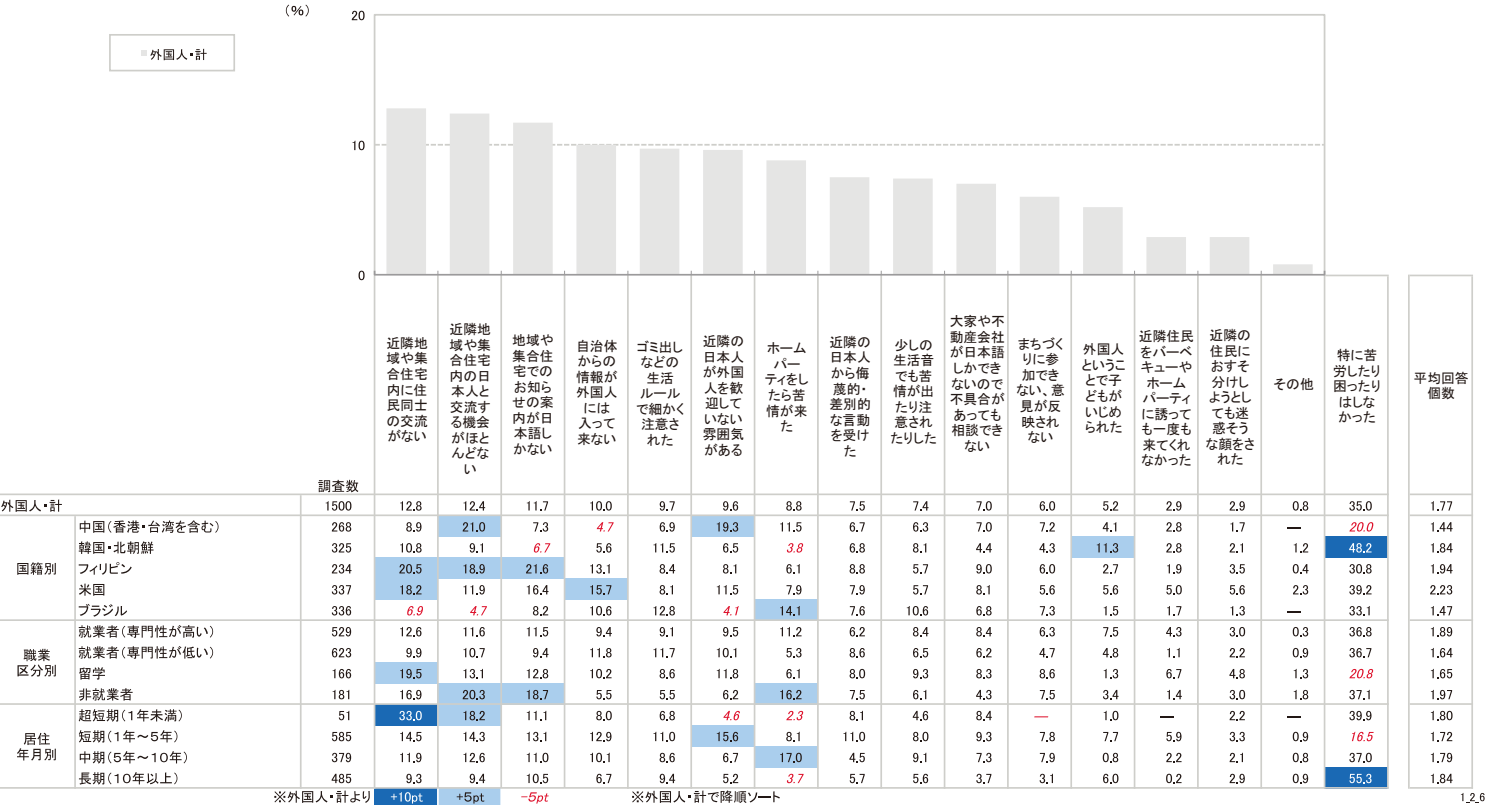
6 困ったこと【ソフト面】

□ 在日外国人の「住んでから困ったソフト面」では、「近隣地域や集合住宅内に住民同士の交流がない」、「近隣地域や集合住宅内の日本人と交流する機会がほとんどない」という、近隣コミュニティ内での交流の少なさに関する項目や、「地域や集合住宅でのお知らせの案内が日本語しかない」、「自治体からの情報が外国人には入って来ない」などの、ある程度公的な情報のモノリングルを指摘する項目が、10%以上のスコアだった。前項「住んでから困ったハード面」と比べると、「特に苦労したり困ったりはしなかった」が35%と高い。

・国籍別にみると、「中国」では「近隣地域や集合住宅内の日本人と交流する機会がほとんどない」や「近隣の日本人が外国人を歓迎していない雰囲気がある」などが2割前後と高く、「フィリピン」では、「地域や集合住宅でのお知らせの案内が日本語しかない」、「近隣地域や集合住宅内に住民同士の交流がない」、「近隣地域や集合住宅内の日本人と交流する機会がほとんどない」が、「米国」では「近隣地域や集合住宅内に住民同士の交流がない」、「自治体からの情報が外国人には入って来ない」が高い。なお、「ブラジル」は、「ホームパーティをしたら苦情が来た」が14%でトップである。

■困ったこと【ソフト面】(全体／複数回答)

Q19.あなたが今住んでいる地域や集合住宅のコミュニティについて、苦労したり困ったりした点はありませんか。あてはまるものをすべてお選びください。※過去すべてのお住まいについてお答えください。



3 地域コミュニティでの生活

① 地域で頼れる友人の数

□ 在日外国人の「住んでいる近隣地域・集合住宅内にいる、困ったときに頼れる親しい人」の平均人数は7.3人（頼れる親しい人がいる人ベース、以下同じ）。

- ・ 国籍別みると大きな差がみられる。多いのは「フィリピン」、「米国」であり、それぞれ13.6人、12.7人と2桁の数値であるが、「中国」、「韓国・北朝鮮」、「ブラジル」は、各3.7人、2.9人、3.9人である。
- ・ 職業区分別に「就業者（専門性が高い）」は9.3人だが、「就業者（専門性が低い）」は6.8人と少なくなっている。
- ・ 居住年月別には、超短期を除き、年月が長くなるほど「住んでいる近隣地域・集合住宅内にいる、困ったときに頼れる親しい人」の平均人数も増える。

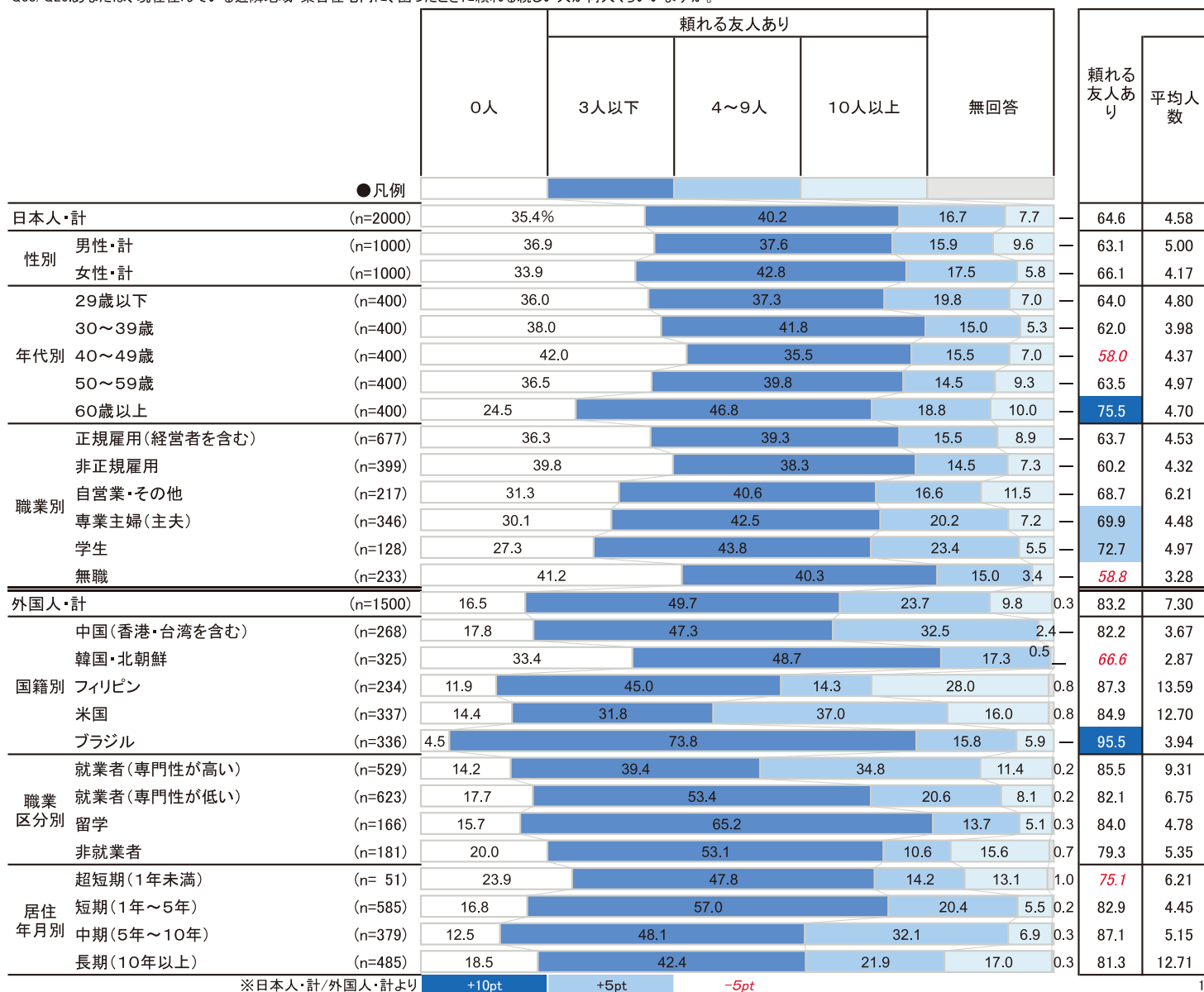
□ 同じ質問を日本人にも設定している。日本人の「住んでいる近隣地域・集合住宅内にいる、困ったときに頼れる親しい人」の平均人数は4.6人であり、在日外国人よりも少ない。念のため書き添えるが、この平均人数は、日本人も含む「親しい人」である。

- ・ 性別でみると、男性の方が女性よりも多く、年代別には30歳代が少ない。

■ 地域で頼れる友人の数（全体／実数回答）

Q38/Q20.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内に、困ったときに頼れる親しい人が何人くらいいますか。

（人）



② 地域での交流の活発さ

- 住んでいる近隣地域・集合住宅内での現在の交流の活発度を、主観的に評価してもらった。在日外国人の、「とても盛んだと思う」と「まあ盛んなほうだと思う」を合わせた「交流が盛ん・計」は37%。「交流がない・計」とほぼ拮抗している。
- ・ 国籍別にみると、その評価が大きく分かれた。「中国」と「韓国・北朝鮮」は、「交流が盛ん・計」が2割を切っており、相対的に低い。これに対して、「フィリピン」の「交流が盛ん・計」は5割、「米国」は4割、「ブラジル」は6割程度のスコアがある。
- 日本人の場合、「交流が盛ん・計」は21%であり、在日外国人より15ポイント以上低い。これは前項分析と符合する結果である。

■地域での交流の活発さ(全体／単一回答)

Q39/Q21.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内は、地域住民同士の交流が盛んだと思いますか。

		交流が盛ん・計			交流がない・計		交流が盛ん・計	交流がない・計
		とても盛んだと思う	まあ盛んなほうだと思う	どちらともいえない	あまり交流があるとは思わない	まったく交流がないと思う		
●凡例								
日本人・計		(n=2000)	2.6% 18.4	34.6	28.8	15.7	21.0	44.5
性別	男性・計	(n=1000)	2.9 19.6	32.7	29.3	15.5	22.5	44.8
	女性・計	(n=1000)	2.3 17.2	36.4	28.2	15.9	19.5	44.1
年代別	29歳以下	(n=400)	4.5 20.5	28.3	24.8	22.0	25.0	46.8
	30～39歳	(n=400)	2.3 17.3	30.8	27.5	22.3	19.5	49.8
	40～49歳	(n=400)	3.3 16.8	33.3	28.8	18.0	20.0	46.8
	50～59歳	(n=400)	2.3 15.8	41.5	30.0	10.5	18.0	40.5
	60歳以上	(n=400)	0.8 21.8	39.0	32.8	5.8	22.5	38.5
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	3.7 19.5	31.6	27.6	17.6	23.2	45.2
	非正規雇用	(n=399)	2.5 15.8	34.8	28.6	18.3	18.3	46.9
	自営業・その他	(n=217)	1.4 20.3	36.4	26.3	15.7	21.7	41.9
	専業主婦(主夫)	(n=346)	2.9 18.5	39.0	29.2	10.4	21.4	39.6
	学生	(n=128)	3.1 22.7	22.7	34.4	17.2	25.8	51.6
	無職	(n=233)	— 15.5	40.8	30.9	12.9	15.5	43.8
外国人・計		(n=1500)	8.4 28.4	28.9	22.4	11.9	36.8	34.3
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	(n=268)	0.3 17.8	26.1	43.5	12.3	18.1	55.8
	韓国・北朝鮮	(n=325)	3.9 12.8	22.8	26.1	34.3	16.8	60.4
	フィリピン	(n=234)	13.1 36.4	32.4	14.0	4.1	49.5	18.1
	米国	(n=337)	8.4 31.4	29.5	26.4	4.3	39.8	30.7
	ブラジル	(n=336)	15.9 43.5	33.9	3.6	3.1	59.4	6.7
職業区分別	就業者(専門性が高い)	(n=529)	9.9 27.9	33.0	15.3	13.9	37.8	29.2
	就業者(専門性が低い)	(n=623)	7.0 31.5	22.4	27.9	11.3	38.5	39.2
	留学	(n=166)	8.9 30.7	34.2	16.6	9.6	39.6	26.2
	非就業者	(n=181)	8.5 17.2	34.6	29.3	10.4	25.7	39.7
居住年月別	超短期(1年未満)	(n= 51)	3.2 12.6	27.0	32.5	24.7	15.8	57.2
	短期(1年～5年)	(n=585)	9.0 32.4	29.3	21.8	7.5	41.4	29.3
	中期(5年～10年)	(n=379)	4.7 28.7	34.5	22.8	9.3	33.4	32.2
	長期(10年以上)	(n=485)	11.1 25.1	24.4	21.6	17.8	36.2	39.4
※日本人・計/外国人・計より			+10pt +5pt	-5pt				

1.3.2

③ 地域での被承認意識

- 自分の住んでいる地域で、「十分認められていると感じる」と「ある程度認められていると感じる」とを合わせた「被承認意識あり・計」は、日本人で3割強、外国人で45%となっている。外国人の方がスコアが高い。
- ・日本人の場合、「30～39歳」、「40～49歳」の層の「被承認意識あり・計」のスコアが低い。
- 外国人を国籍別にみると、「中国」の「被承認意識あり・計」が4割を切っているのに対し、「ブラジル」は7割を超えているのが目立つ。
- ・居住年月別にみると、「被承認意識あり・計」が最も高いのは「中期（5年～10年）」の層であり、長く住むことが、そのまま「地域から認められている」という認識につながらないことがわかる。

■ 地域での被承認意識(全体／単一回答)

Q41/Q23.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。

			被承認意識あり・計		どちらともいえない	被承認意識なし・計		被承認意識あり・計	被承認意識なし・計
			十分認められていると感じる	ある程度認められていると感じる		何となく認められていないと感じる	まったく認められていないと思う		
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	4.6%	26.1	44.8	12.1	12.5	30.7	24.6
性別	男性・計	(n=1000)	5.1	24.1	45.3	12.5	13.0	29.2	25.5
	女性・計	(n=1000)	4.1	28.0	44.3	11.7	11.9	32.1	23.6
年代別	29歳以下	(n=400)	5.8	24.3	41.0	13.5	15.5	30.0	29.0
	30～39歳	(n=400)	3.8	18.0	46.3	15.0	17.0	21.8	32.0
	40～49歳	(n=400)	3.0	21.5	48.5	9.8	17.3	24.5	27.0
	50～59歳	(n=400)	3.3	26.8	51.3	10.5	8.3	30.0	18.8
	60歳以上	(n=400)	7.3	39.8	37.0	11.8	4.3	47.0	16.0
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	4.7	24.8	44.5	12.3	13.7	29.5	26.0
	非正規雇用	(n=399)	3.3	23.6	46.4	14.3	12.5	26.8	26.8
	自営業・その他	(n=217)	6.9	25.3	45.2	10.1	12.4	32.3	22.6
	専業主婦(主夫)	(n=346)	5.2	32.1	44.2	9.8	8.7	37.3	18.5
	学生	(n=128)	3.9	28.9	44.5	13.3	9.4	32.8	22.7
	無職	(n=233)	3.9	24.0	43.8	12.4	15.9	27.9	28.3
外国人・計		(n=1500)	9.0	35.5	34.0	13.1	8.4	44.5	21.5
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	(n=268)	0.6	35.2	42.1	18.0	4.0	35.9	22.0
	韓国・北朝鮮	(n=325)	3.2	11.8	46.5	18.6	19.9	15.0	38.5
	フィリピン	(n=234)	12.2	34.2	40.0	7.3	6.4	46.3	13.7
	米国	(n=337)	10.8	39.9	24.0	18.8	6.4	50.7	25.3
	ブラジル	(n=336)	17.3	55.1	21.2	2.2	4.3	72.3	6.5
職業区分別	就業者(専門性が高い)	(n=529)	8.9	38.5	29.4	13.7	9.5	47.4	23.2
	就業者(専門性が低い)	(n=623)	9.1	34.7	37.5	10.2	8.5	43.8	18.7
	留学	(n=166)	6.4	32.6	39.9	14.1	7.0	39.0	21.1
	非就業者	(n=181)	11.3	32.0	29.8	20.7	6.2	43.3	26.9
居住年月別	超短期(1年未満)	(n= 51)	1.0	13.6	62.5	14.9	8.0	14.6	22.9
	短期(1年～5年)	(n=585)	7.0	35.4	39.0	12.2	6.5	42.3	18.7
	中期(5年～10年)	(n=379)	10.1	45.8	27.8	11.3	5.1	55.9	16.4
	長期(10年以上)	(n=485)	11.4	29.9	29.8	15.4	13.4	41.3	28.9
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

④ 地域への愛着度

□ 地域への愛着度（「地域への愛着あり・計」）は、日本人よりも外国人の方が高い。

- ・日本人の場合、「30～39歳」の同スコアが低く、「専業主婦（主夫）」で高くなっている。
- ・外国人を国籍別にみると、「中国」の同スコアが39%と低く、「韓国・北朝鮮」、「米国」、「ブラジル」が7割を超えて高いのが特徴である。
- ・職業区分別には、「就業者（専門性が高い）」が高い。
- ・居住年月が長くなると、「とても感じている」のスコアは上昇するが、「中期（5年～10年）」の層の「地域への愛着あり・計」は6割にとどまる。

■地域への愛着度（全体／単一回答）

Q43/Q24.あなたは、現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。

			地域への愛着あり・計		どちらともいえない	地域への愛着なし・計			地域への愛着あり・計	地域への愛着なし・計
			とても感じている	まあ感じている		あまり感じていない	まった感じていない			
●凡例										
日本人・計			(n=2000)	12.6%	44.1	25.9	10.4	7.1	56.7	17.5
性別	男性・計	(n=1000)	11.6	42.1	28.2	10.8	7.3	53.7	18.1	
	女性・計	(n=1000)	13.6	46.0	23.6	9.9	6.9	59.6	16.8	
年代別	29歳以下	(n=400)	15.3	37.8	24.5	12.3	10.3	53.0	22.5	
	30～39歳	(n=400)	7.3	41.0	28.8	12.0	11.0	48.3	23.0	
	40～49歳	(n=400)	10.5	44.0	27.0	10.3	8.3	54.5	18.5	
	50～59歳	(n=400)	12.8	46.3	27.8	8.8	4.5	59.0	13.3	
	60歳以上	(n=400)	17.3	51.3	21.5	8.5	1.5	68.5	10.0	
職業別	正規雇用（経営者を含む）	(n=677)	13.4	43.4	26.7	9.2	7.2	56.9	16.4	
	非正規雇用	(n=399)	10.3	43.4	30.3	10.8	5.3	53.6	16.0	
	自営業・その他	(n=217)	13.8	41.5	24.0	13.8	6.9	55.3	20.7	
	専業主婦（主夫）	(n=346)	13.0	49.1	21.7	9.2	6.9	62.1	16.2	
	学生	(n=128)	15.6	41.4	23.4	12.5	7.0	57.0	19.5	
	無職	(n=233)	10.7	43.3	25.3	10.3	10.3	54.1	20.6	
外国人・計			(n=1500)	17.6	49.2	18.1	13.6	1.6	66.8	15.1
国籍別	中国（香港・台湾を含む）	(n=268)	3.9	34.7	19.5	39.9	2.0	38.6	41.9	
	韓国・北朝鮮	(n=325)	13.4	56.9	24.9	4.6	0.2	70.4	4.8	
	フィリピン	(n=234)	15.3	48.0	22.6	13.0	1.0	63.3	14.1	
	米国	(n=337)	18.1	55.7	12.7	10.1	3.4	73.8	13.6	
	ブラジル	(n=336)	33.8	47.5	12.6	4.9	1.2	81.3	6.1	
職業区分別	就業者（専門性が高い）	(n=529)	15.6	59.2	11.8	11.6	1.8	74.9	13.4	
	就業者（専門性が低い）	(n=623)	18.7	44.0	22.1	14.4	0.8	62.7	15.2	
	留学	(n=166)	5.8	55.3	25.6	10.2	3.2	61.0	13.4	
	非就業者	(n=181)	30.6	32.1	15.7	19.5	2.2	62.6	21.7	
居住年月別	超短期（1年未満）	(n= 51)	3.1	52.3	18.4	22.9	3.2	55.5	26.1	
	短期（1年～5年）	(n=585)	9.4	52.9	19.0	16.6	2.1	62.3	18.8	
	中期（5年～10年）	(n=379)	24.1	36.4	17.3	19.7	2.4	60.5	22.2	
	長期（10年以上）	(n=485)	24.0	54.3	17.5	4.1	0.1	78.3	4.1	
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt					

1_3_4

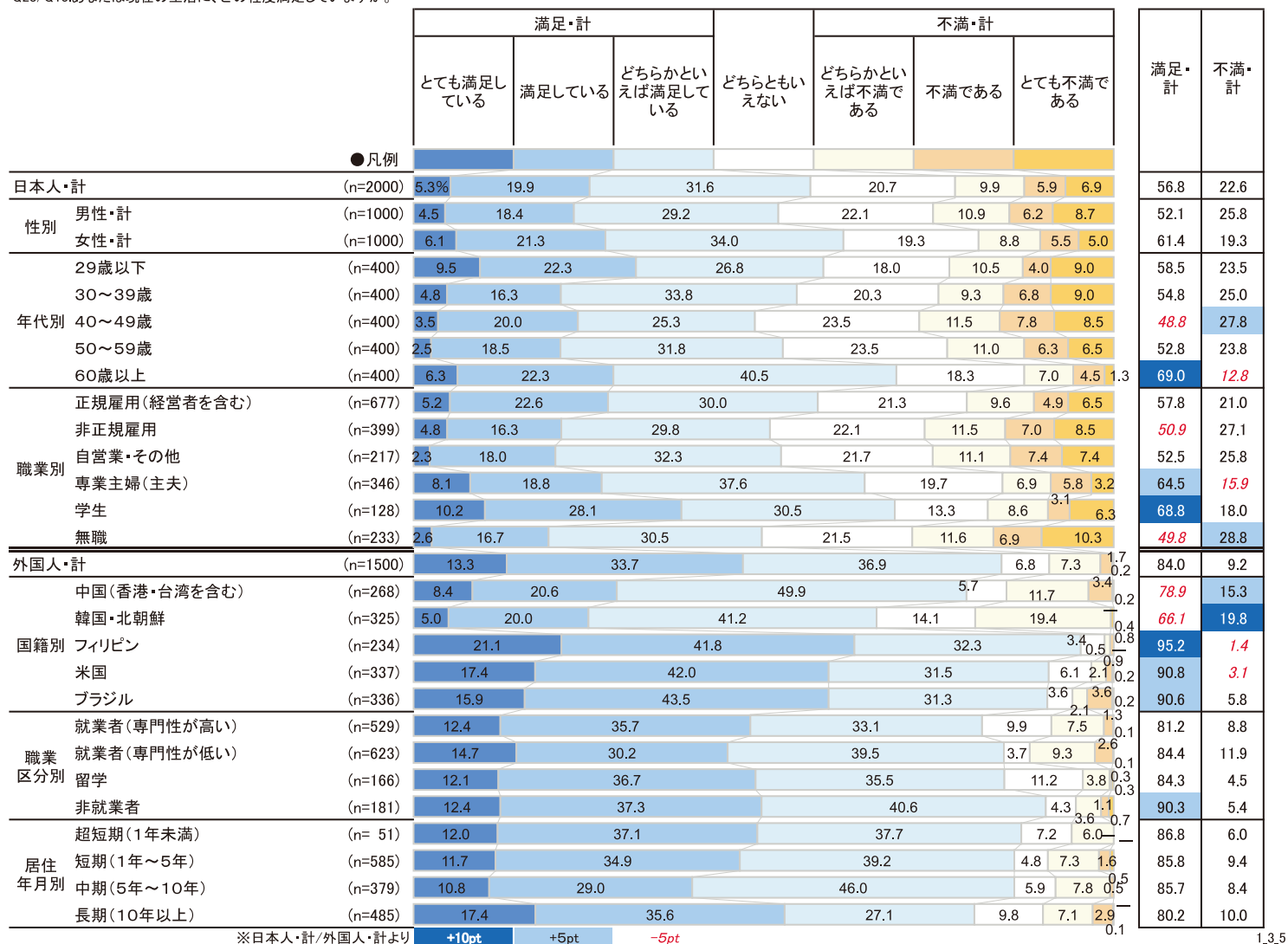
⑤ 生活満足度

□ 日頃の生活の満足度を聞いた結果、在日外国人の「とても満足している」と「満足している」を合わせた「満足・計」は84%である。

・「韓国・北朝鮮」の「満足・計」が66%と低いが、「フィリピン」、「米国」、「ブラジル」は9割を超えている。

■生活満足度(全体／単一回答)

Q28/Q13.あなたは現在の生活に、どの程度満足していますか。



⑥ 今後の交流希望

- 住んでいる近隣地域・集合住宅内での今後の交流の希望を聞いた。在日外国人の、「とても交流していきたいと思う」と「まあ交流していきたいと思う」を合わせた「交流希望あり・計」は54%。「交流希望なし・計」は20%である。
- ・国籍別にみると、「韓国・北朝鮮」の「交流希望あり・計」が34%にとどまり、「交流希望なし・計」を10ポイント程度下回ったが、その他の国籍では、「交流希望あり・計」が5割を超えている。
 - ・職業区分別にみると、「就業者（専門性が高い）」の「交流希望あり・計」が63%であり、「就業者（専門性が低い）」は同47%に大差をつけて高い。「留学」は同59%であり、高いスコアである。
- 日本人の場合も、在日外国人と同様、「住んでいる近隣地域・集合住宅内で、他の住民との交流を希望するか」を聞いた。外国人に限らず、「他の住民」との交流希望である。
- 「交流希望あり・計」は33%であり、在日外国人の同スコアを20ポイント程度下回っている。そもそも、日本人自体の、近隣との交流意向が高くないことになる。先にみた、近隣住民との交流実態において、在日外国人よりも交流度が低いことを確認したが、今後の希望においても低いことがわかる。

■地域での今後の交流希望(全体／単一回答)

Q40/Q22.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内で、他の住民と交流を今後もっと深めていきたいと思いますか。

		交流希望あり・計			交流希望なし・計			交流希望あり・計	交流希望なし・計
		とても交流していきたいと思う	まあ交流していきたいと思う	どちらともいえない	あまり交流したいとは思わない	まったく交流したいとは思わない			
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	3.7%	28.9	36.7	19.2	11.6	32.6	30.8
性別	男性・計	(n=1000)	4.7	29.4	36.7	16.5	12.7	34.1	29.2
	女性・計	(n=1000)	2.7	28.4	36.6	21.9	10.4	31.1	32.3
年代別	29歳以下	(n=400)	6.8	29.0	29.8	18.0	16.5	35.8	34.5
	30～39歳	(n=400)	3.5	24.8	34.3	22.0	15.5	28.3	37.5
	40～49歳	(n=400)	2.0	26.5	36.0	21.5	14.0	28.5	35.5
	50～59歳	(n=400)	3.5	26.0	43.5	18.8	8.3	29.5	27.0
	60歳以上	(n=400)	2.8	38.3	39.8	15.8	3.5	41.0	19.3
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	5.2	28.2	36.3	18.0	12.3	33.4	30.3
	非正規雇用	(n=399)	3.3	24.1	39.1	22.3	11.3	27.3	33.6
	自営業・その他	(n=217)	2.8	33.2	31.8	19.4	12.9	35.9	32.3
	専業主婦(主夫)	(n=346)	2.6	35.8	33.5	20.8	7.2	38.4	28.0
	学生	(n=128)	5.5	32.8	31.3	21.1	9.4	38.3	30.5
	無職	(n=233)	1.7	22.7	45.5	13.7	16.3	24.5	30.0
外国人・計		(n=1500)	11.4	42.2	26.2	16.2	3.9	53.6	20.1
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	(n=268)	2.7	49.4	23.4	22.4	2.1	52.1	24.5
	韓国・北朝鮮	(n=325)	5.0	29.2	21.9	33.6	10.2	34.2	43.9
	フィリピン	(n=234)	19.5	42.5	27.0	9.9	1.2	61.9	11.1
	米国	(n=337)	9.8	49.2	26.1	11.6	3.3	59.0	14.9
	ブラジル	(n=336)	20.8	41.7	32.2	3.5	1.8	62.5	5.3
職業区分別	就業者(専門性が高い)	(n=529)	10.3	52.8	19.2	11.8	5.9	63.1	17.7
	就業者(専門性が低い)	(n=623)	10.3	37.2	27.4	22.2	3.0	47.4	25.1
	留学	(n=166)	21.4	37.4	29.4	8.6	3.2	58.8	11.8
	非就業者	(n=181)	9.7	33.0	39.7	15.5	2.2	42.7	17.6
居住年月別	超短期(1年未満)	(n= 51)	21.3	31.4	25.7	13.2	8.5	52.7	21.7
	短期(1年～5年)	(n=585)	15.9	43.6	25.6	12.8	2.2	59.4	15.0
	中期(5年～10年)	(n=379)	6.0	47.3	36.6	8.4	1.7	53.3	10.1
	長期(10年以上)	(n=485)	9.4	37.7	19.0	26.7	7.3	47.0	34.0
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

1_3_6

4 日本人と外国人の交流実態

① 友人の有無と平均人数

□ 在日外国人のうち、日本人の友人が「いる」と回答したのは9割。1割は日本人の友人がいないことになる。

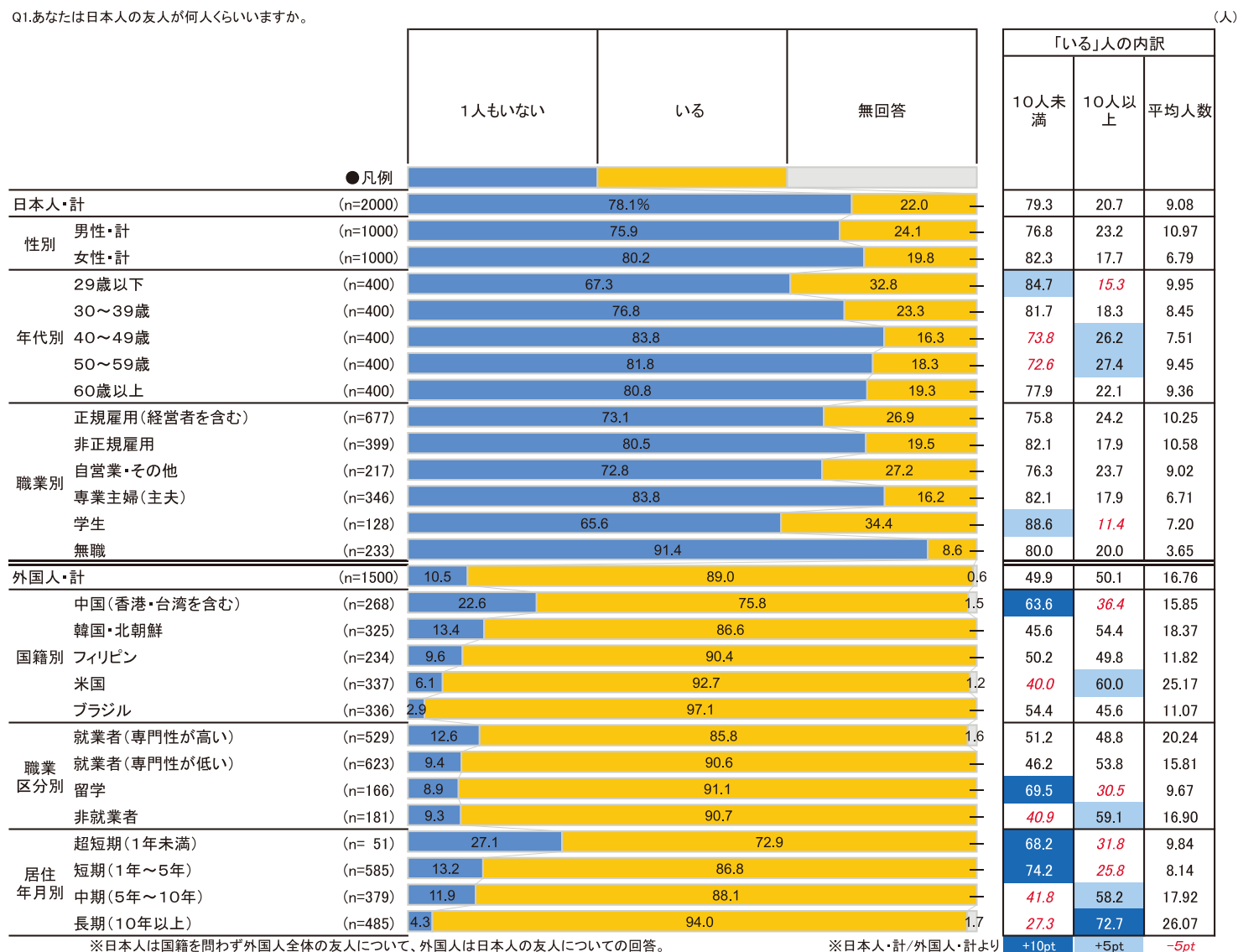
- ・国籍別にみると、「中国」では「いない」が2割を超える。「韓国・北朝鮮」、「フィリピン」も1割前後が「いない」と回答しており、「米国」や「ブラジル」と比べて高い。
- ・なお、日本人の友人が「いる」と回答した人の「日本人の友人」の平均人数は16.8人。「10人以上」がちょうど半数を占める。これを国籍別にみると、「米国」が最も多く25人。「韓国・北朝鮮」が18人、「中国」も16人で続いており、日本人の友人が「いる」人と「いない」人との差が大きいことがうかがえる。

□ 一方、日本人のうち、外国人の友人が「いる」と回答したのは22%である。また、「いる」と回答した人の「外国人の友人」の平均人数は9.1人であり、在日外国人との差が大きい。

■友人の有無と平均人数(全体／単一回答、人数は実数回答)

Q9.あなたは日本に住んでいる外国人に、友人が何人くらいいますか。

Q1.あなたは日本人の友人が何人くらいいますか。



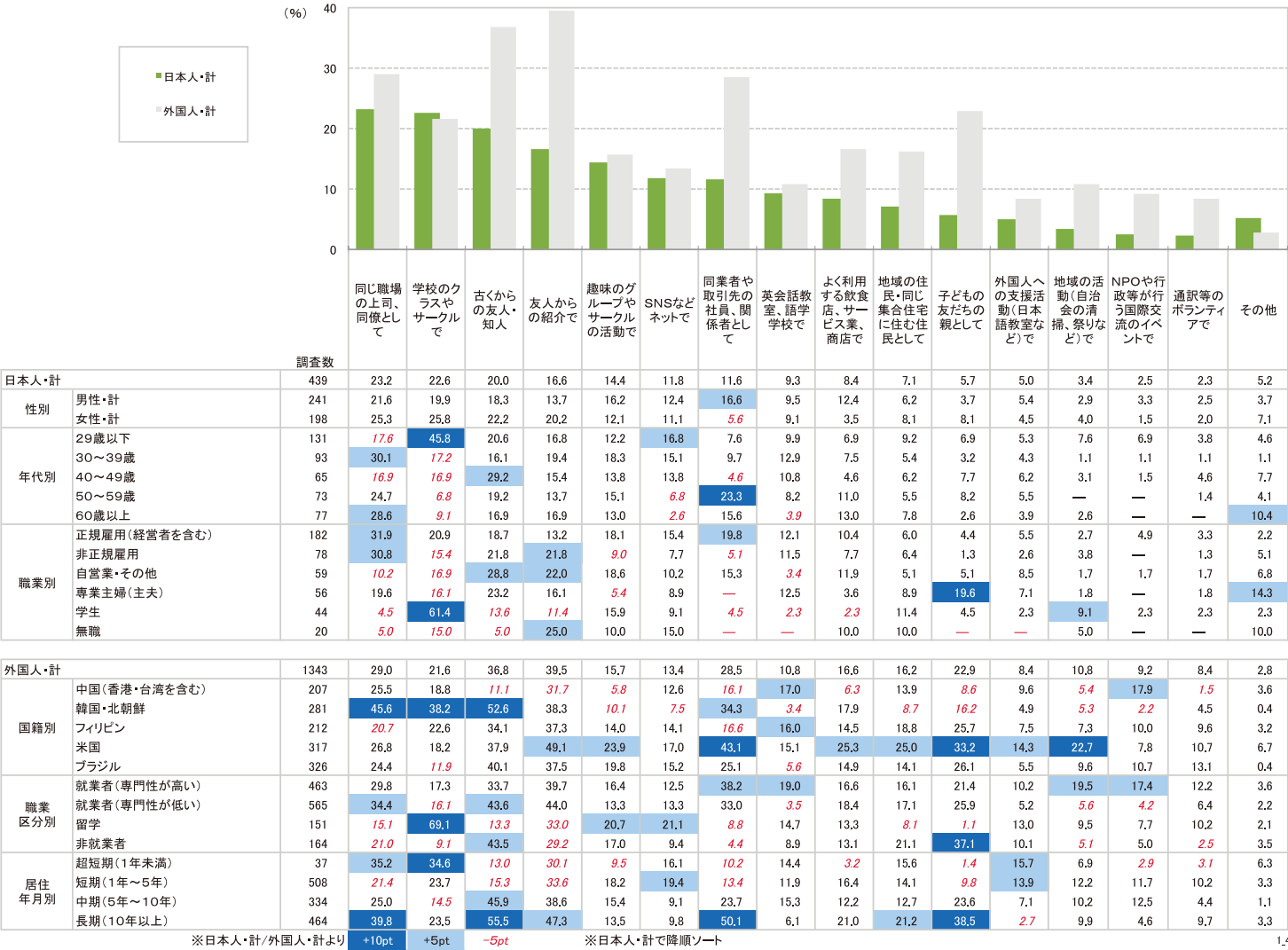
② 出合いの経路

- 在日外国人の場合、「友人からの紹介で」が4割でトップ。「古くからの友人・知人」が3割台、「同じ職場の上司、同僚として」、「同業者や取引先の社員、関係者として」などの仕事関係の項目が3割弱、「子どもの友だちの親として」、「学校のクラスやサークルで」が2割強で続く。
 - ・ 国籍別にみると、総じて「米国」のスコアが高い。「米国」は、「友人からの紹介で」、「同業者や取引先の社員、関係者として」の他にも、「地域の住民・同じ集合住宅に住む住民として」、「地域の活動（自治会の清掃、祭りなど）」が高く、地域起点の経路が多いことがわかる。「中国」は、仕事関係の項目のスコアが低い、「NPOや行政等が行う国際交流のイベントで」や「英会話教室、語学学校で」が高い。また「韓国・北朝鮮」は、「同じ職場の上司、同僚として」、「学校のクラスやサークルで」が高い。
 - ・ 職業区分別にみると、「就業者（専門性が高い）」の方が「就業者（専門性が低い）」よりも、友人を作る経路がたくさんあることがわかる。「友人からの紹介で」や「同じ職場の上司、同僚として」は、むしろ「就業者（専門性が低い）」の方が高いが、「地域の活動（自治会の清掃、祭りなど）」などは、「就業者（専門性が高い）」の方が高くなっている。
- 日本人の場合、「同じ職場の上司、同僚として」、「学校のクラスやサークルで」が2割強で高い。「古くからの友人・知人」が20％で続く。それ以外の項目は、ほぼ在日外国人を下回っている。

■出合いの経路(外国人・日本人の友人がいる人／複数回答)

Q10.あなたの日本に住んでいる外国人の友人は、どのようなところで知り合いましたか。

Q2.あなたの日本人の友人は、どのようなところで知り合いましたか。



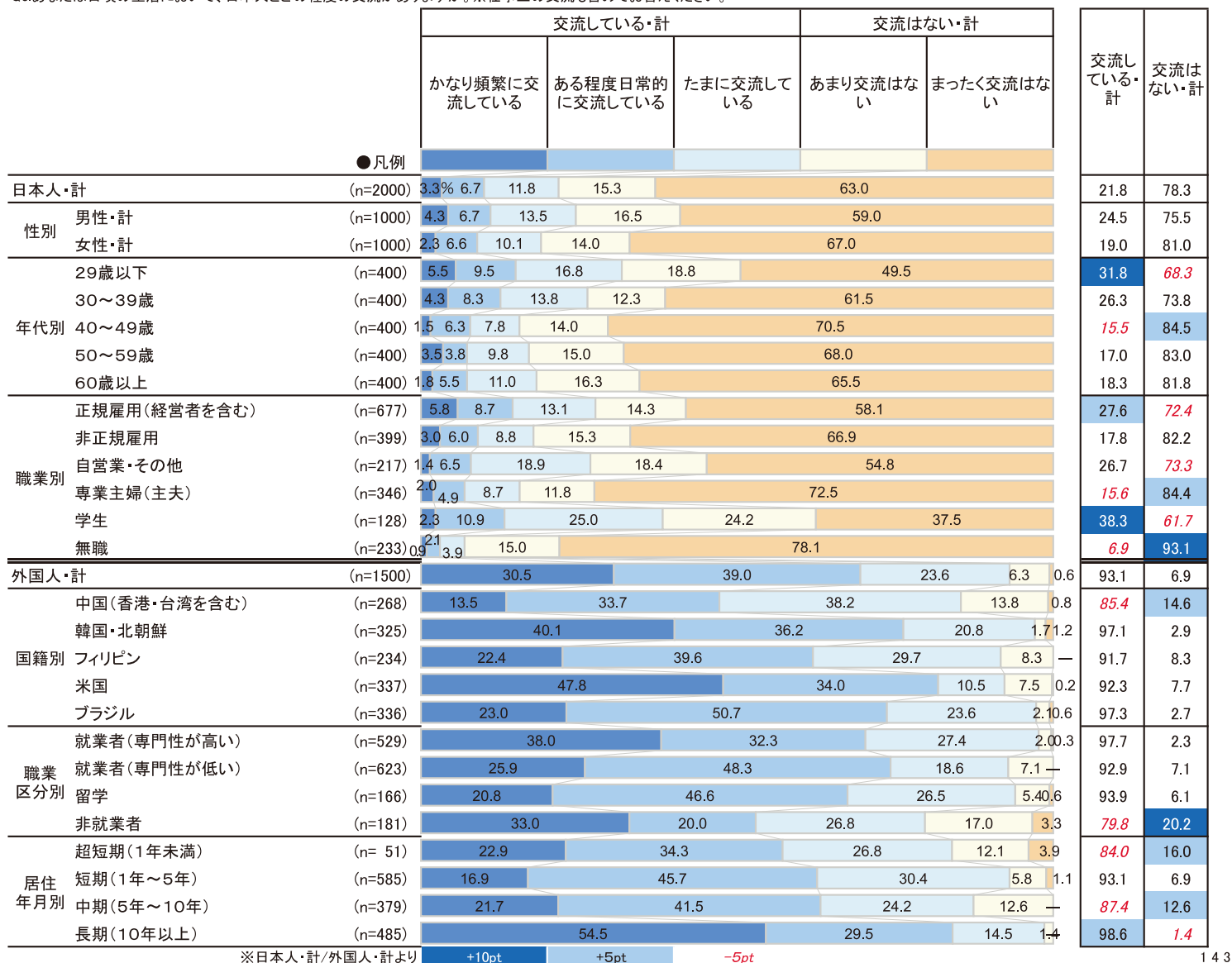
③ 交流の活発さ

- 在日外国人の場合、「かなり頻繁に交流している」と「ある程度日常的に交流している」を合わせると7割程度。「あまり交流はない」と「まったく交流はない」を合わせた「交流はない・計」は7%に過ぎない。
- ・国籍別にみると、「中国」の「交流はない・計」が15%とやや高い。職業区分別には「就業者（専門性が高い）」の「交流している・計」が高い一方で、「非就業者」の「交流はない・計」が高くなっている。また、居住年月別に（長期を除けば）特段の傾向はみられない。
- 日本人の場合、「かなり頻繁に交流している」と「ある程度日常的に交流している」を合わせたスコアは1割。「あまり交流はない」と「まったく交流はない」を合わせた「交流はない・計」が8割弱を占めている。
- ・男性の方が「交流している・計」が高く、29歳以下、30歳代の若年層も同様に高いが、40歳代以上は「交流はない・計」が8割以上になる。職業別にみると、「正規雇用」と「自営業・その他」、「学生」とで「交流している・計」が高く、「非正規雇用」と「専業主婦（主夫）」の「交流している・計」が低くなっている。

■ 交流の活発さ(全体／単一回答)

Q11.あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。

Q3.あなたは日頃の生活において、日本人とどの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。



4 交流の内容

⇒ 各選択肢作成にあたっては「会社・仕事」、「子ども（学校）」、「日常生活（飲食）」、「日常生活（住まい）」、「日常生活（イベント）」の5ジャンルの「つながりの起点」を想定しているが、厳密には定義していない。

- 在日外国人の場合、「TwitterやFacebookなどのSNSで日本人とやりとりする」、「同じアパートや近所に住む日本人と挨拶を交わす」が3割弱で高い。「同僚や取引先の日本人社員と仕事帰りによく飲みに行く」、「飲食店で日本人の店員やお客さんと親しく話す」、「子どもが日本人の子どもとよく遊んでいる」、「趣味やスポーツのサークルで日本人と一緒に楽しんでいる」、「近所の商店街や公園などで日本人と会話を交わす」などが2割前後で続く。
- 日本人の場合、そもそも外国人の友人が「いる」人が少ないため、各項目のスコア水準が低い。

■ 交流の内容(全体／複数回答)

Q15.あなたは普段の生活において、日本に住んでいる外国人とどのような交流をしていますか。あてはまるものすべてをお選びください。
Q7.あなたは普段の生活において、日本人とどのような交流をしていますか。あてはまるものすべてをお選びください。



※日本人・計で降順ソート

1_4.4

⑤ 今後の交流希望

□ 在日外国人の「日本人との交流希望」をみると、「とても交流したいと思う」と「まあ交流したいと思う」を合わせた「交流希望あり・計」は77%である。「交流希望なし・計」は6%にとどまる。

- ・国籍別には、「中国」の「交流希望あり・計」が約半数にとどまる以外は、すべて8割を超える。職業区分別には、「非就業者」の「交流希望あり・計」が高い。
- ・なお、居住年月別が長くなれば、「交流希望あり・計」も高くなるという、リニアな傾向はみられない。

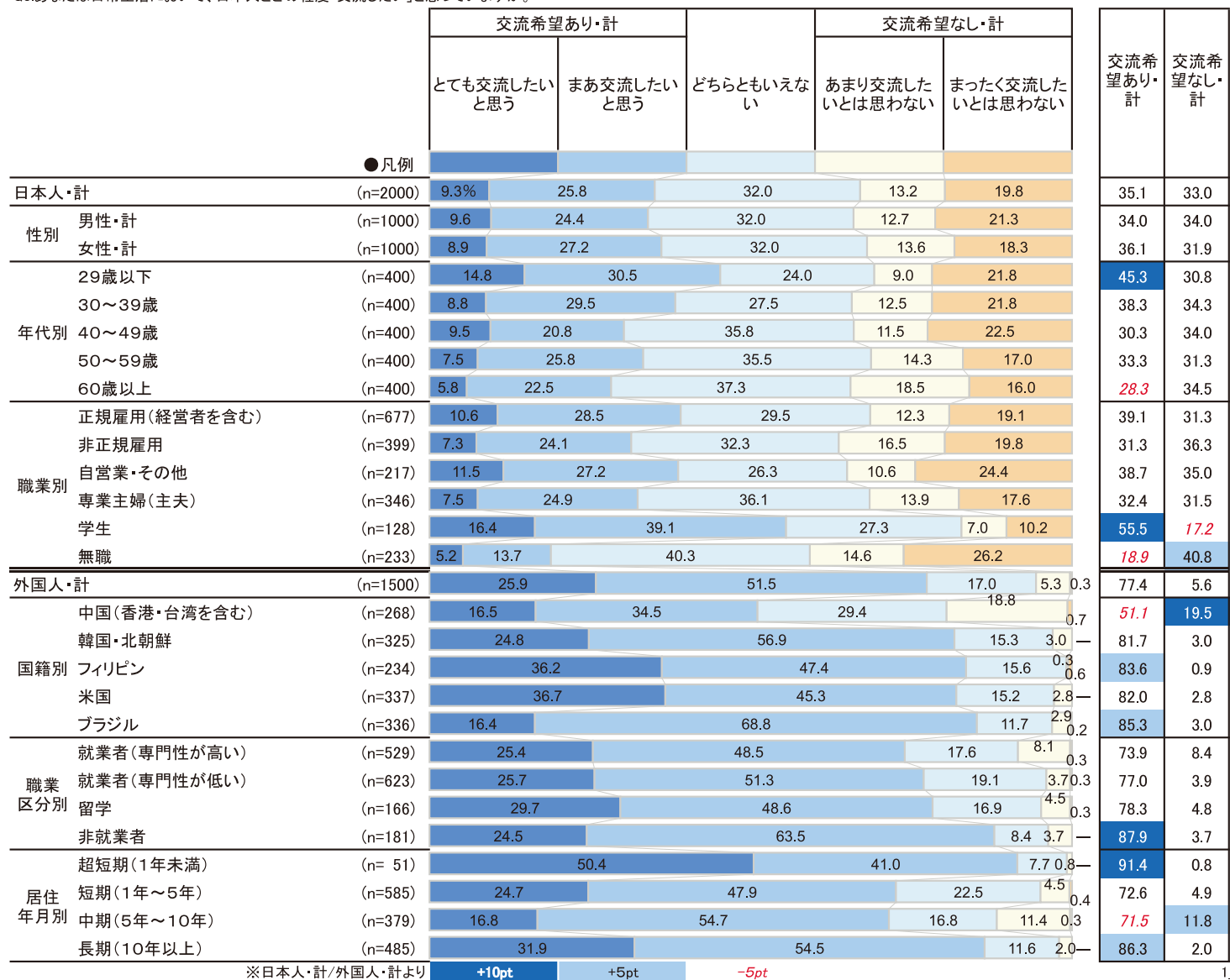
□ 日本人の「外国人との交流希望」をみると、「交流希望あり・計」は35%であり、在日外国人の半分以下のスコアである。「交流希望なし・計」は33%であり、「交流希望あり・計」と、ほぼ同水準である。

- ・年代が低いほど、「交流希望あり・計」が高くなる傾向がみられ、「学生」の同スコアが5割を超えるなどの特徴はあるものの、在日外国人と比べれば、相当に低い。

■今後の交流希望(全体／単一回答)

Q17.あなたは日常生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度「交流したい」と思っていますか。

Q8.あなたは日常生活において、日本人とどの程度「交流したい」と思っていますか。



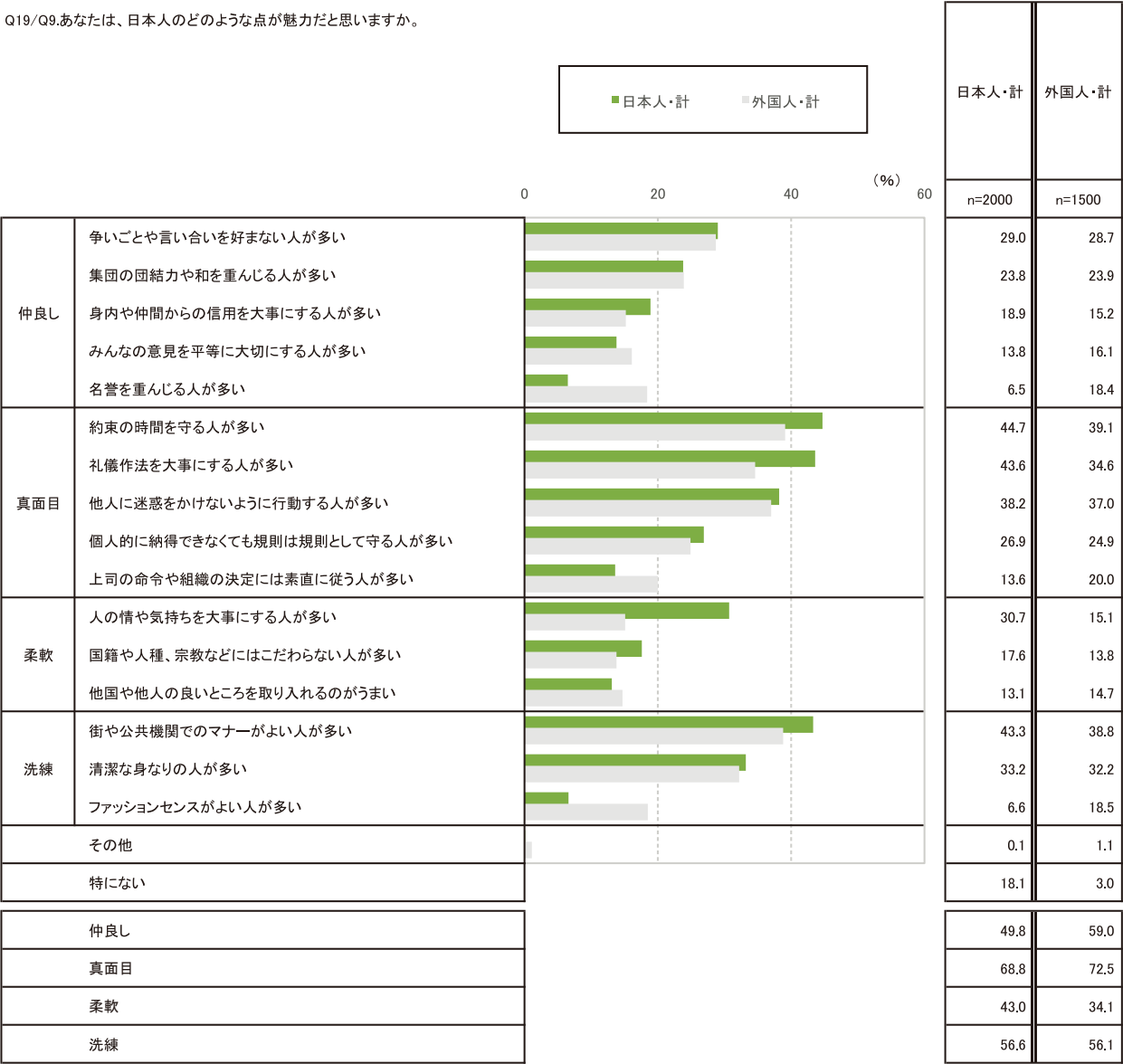
5 在日外国人へのまなざし

① 日本人の良いところ

- ⇒「日本人の良いところ」についての選択肢は、次項の「日本人の残念なところ」と必ずしも一対ではないが、『仲良し／内向き』『真面目／神経質』『柔軟／無頓着』『洗練／外面』という4つの因子を想定し、それぞれポジティブに立ち現れる場合もあれば、ネガティブに評価される場合もある、という考え方で構成されている。
- 日本人のデータから確認しよう。トップは、「約束の時間を守る人が多い」、2番目は「礼儀作法を大事にする人が多い」という、『真面目』に属する項目であり、4割を超える。3位は「街や公共機関でのマナーがよい人が多い」で、『洗練』に属する項目だが、相手・他人に迷惑をかけないように配慮するという意味では、『真面目』に近いものだ。4位は「他人に迷惑をかけないように行動する人が多い」であり、『真面目』さを評価している日本人が多いことがわかる。
- これらの「日本人の良さ」の順序は、在日外国人でも大きくは変わらず、評価にズレが少ないことがわかる。ただし、全般に、日本人のスコアの方が高い。

■日本人の良いところ(全体／複数回答)

Q19/Q9.あなたは、日本人のどのような点が魅力だと思いますか。



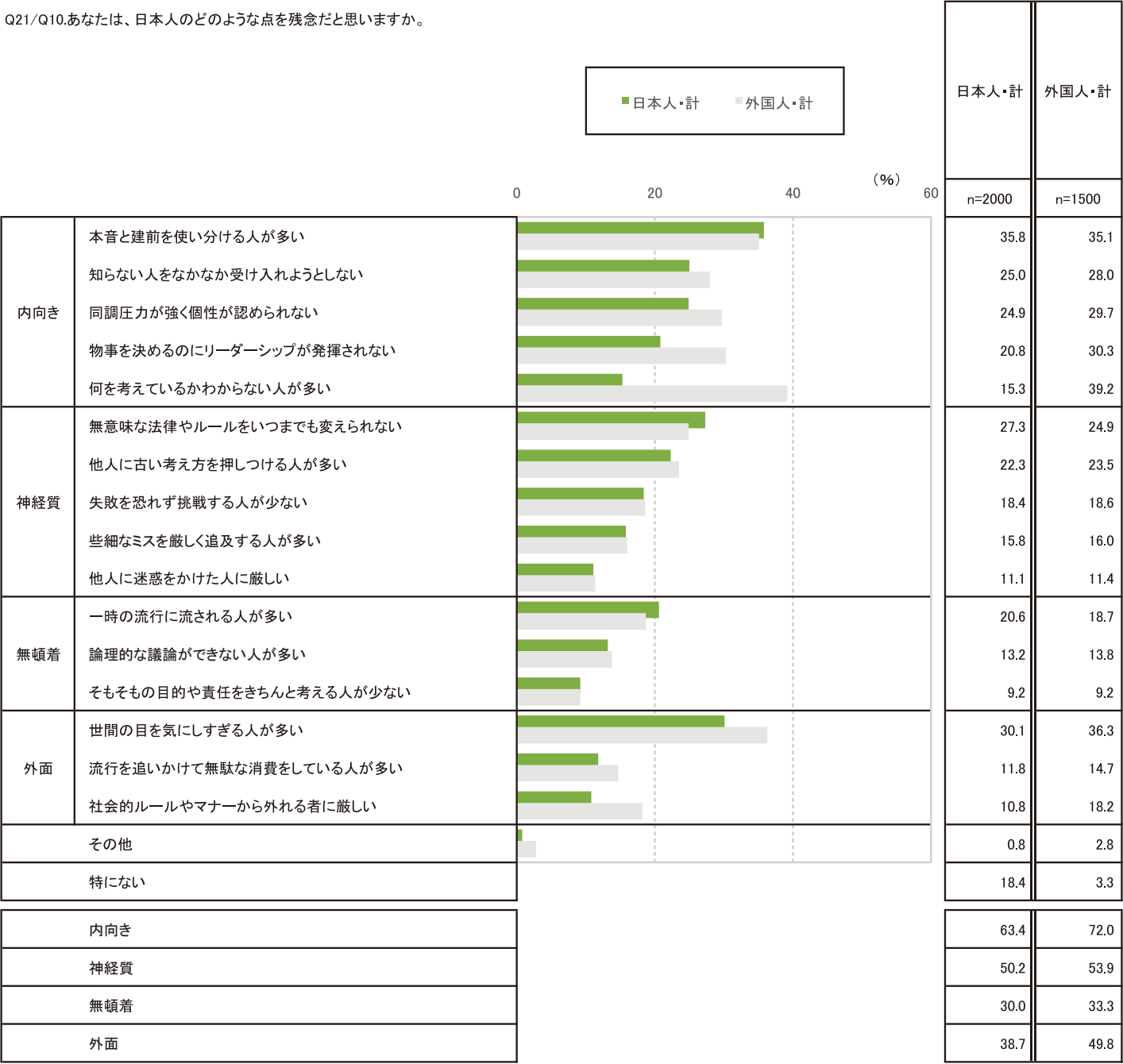
※カテゴリーごと、日本人・計で降順ソート
※「仲良し」「真面目」「柔軟」「洗練」のスコアは、各領域の選択肢に1つでも回答のあったものの数を集計

② 日本人の残念なところ

- 在日外国人が考える、「日本人の残念なところ」でスコアが高いのは、『内向き』とタイトルした因子の項目群である。
- 「何を考えているかわからない人が多い」、「本音と建前を使い分ける人が多い」、「物事を決めるのにリーダーシップが発揮されない」など、いわゆる閉鎖的な集団主義に関する項目が、軒並み3割強のスコアである。その他、「世間の目を気にしすぎる人が多い」も36%を超えている。
- 『内向き』因子の項目群のスコアが高いこと、「世間の目を気にしすぎる人が多い」が高いことなど、在日外国人の評価と同じであり、この点にズレはない。ただし、スコア自体は在日外国人の方が高く、特に、「何を考えているかわからない人が多い」などの『内向き』因子の項目群と、「社会的ルールやマナーから外れる者に厳しい」などの『外面』因子の項目群での差が大きくなっている。

■日本人の残念なところ(全体／複数回答)

Q21/Q10.あなたは、日本人のどのような点を残念だと思いますか。



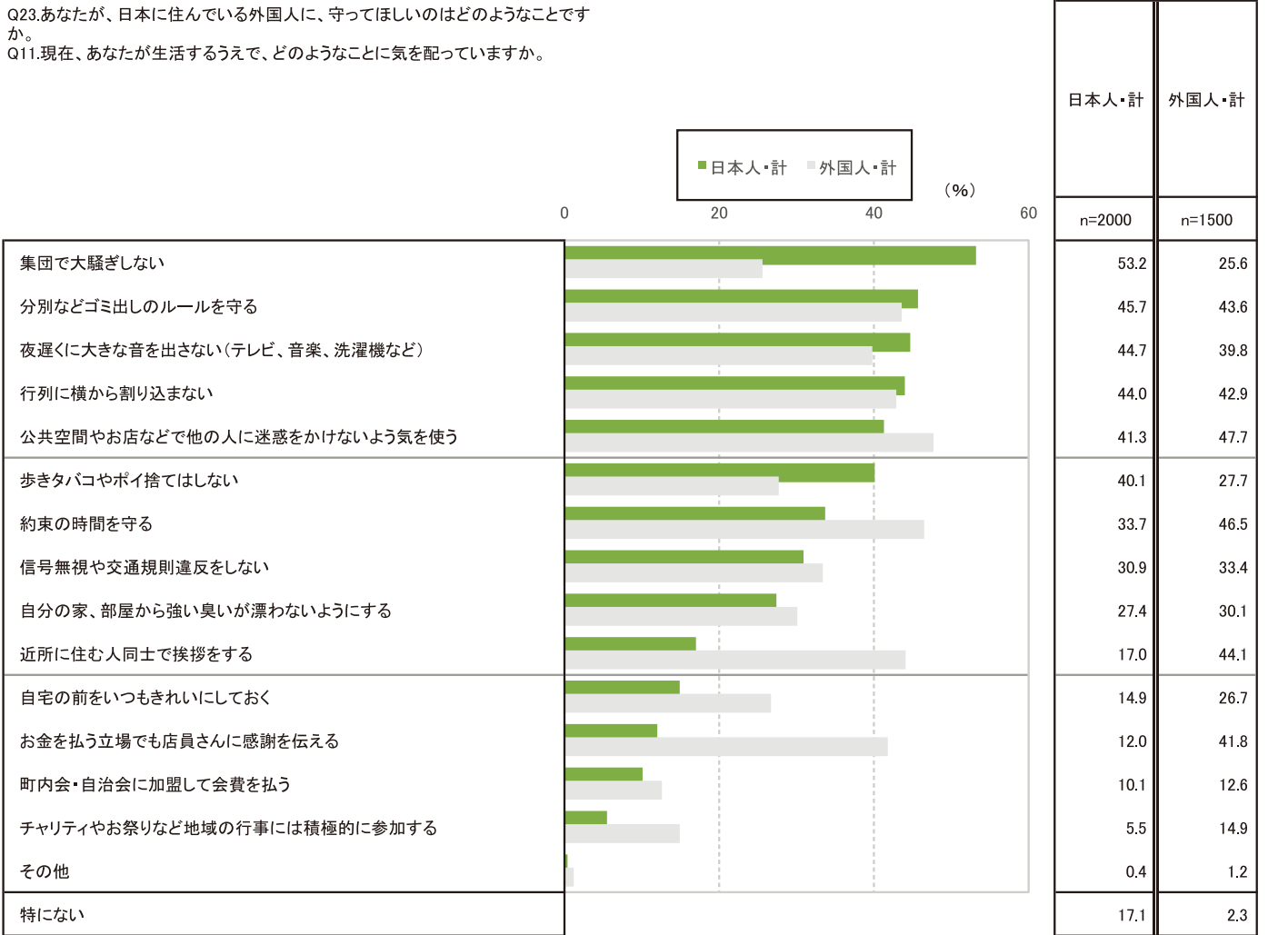
※カテゴリーごと、日本人・計で降順ソート
※「内向き」「神経質」「無頓着」「外面」のスコアは、各領域の選択肢に1つでも回答のあったものの数を集計

③「日本人が外国人に守ってほしいこと」vs「在日外国人が気を配っていること」

- 本設問の選択肢は、さまざまな先行研究で「日本人と在日外国人との間でおこったトラブル」を分類し、作成したものである。
- 日本人が外国人に守ってほしいことのトップは、「集団で大騒ぎしない」で5割を超える。
- 「分別などゴミ出しのルールを守る」、「夜遅くに大きな音を出さない」、「行列に横から割り込まない」、「公共空間やお店などで他の人の迷惑をかけないように気をつかう」、「歩きタバコやポイ捨てはしない」が、4割以上のスコアで続いている。
- これに対して、在日外国人が「気を配っていること」では、スコアが高い順に、「公共空間やお店などで他の人に迷惑をかけないように気を使う」、「約束の時間を守る」、「近所に住む人同士で挨拶をする」、「分別などゴミ出しのルールを守る」、「行列に横から割り込まない」、「お金を払う立場でも店員さんに感謝を伝える」となっており、いずれも4割以上のスコアがある。
- 日本人が外国人に守ってほしいことのトップである「集団で大騒ぎしない」については、外国人のスコアが相当に低い。日本人の3位である「夜遅くに大きな音を出さない」も5ポイント程度の差があり、「音」に対して日本人と外国人とでギャップがある、と言ってよさそうだ。
- また、「歩きタバコやポイ捨てはしない」も10ポイント以上、日本人のスコアが高い。
- ただし、「近所に住む人同士で挨拶をする」、「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」など、コミュニティ形成に関する項目では、外国人が日本人を大きく上回っている。

■「日本人が外国人に守ってほしいこと」vs「在日外国人が気を配っていること」(全体／複数回答)

Q23.あなたが、日本に住んでいる外国人に、守ってほしいのはどのようなことですか。
Q11.現在、あなたが生活するうえで、どのようなことに気を配っていますか。



④ 外国人への寛容度

- 「外国人への寛容度」を測定するために、5つの指標を設定した。「外国人が隣人になることに抵抗はない」、「自分または家族や親戚が外国人と結婚することに抵抗はない」は、個人的な外国人との距離感、「外国人の価値観や行動の違いは違いとして尊重したい」、「外国人増加による日本への影響は、時代の変化として受け入れるべきだ」は多文化主義、「外国人に「郷に入っては郷に従え」を強制すべきではない」は同化主義を念頭においたものだ。
- 「外国人の価値観や行動の違いは違いとして尊重したい」、「外国人増加による日本への影響は、時代の変化として受け入れるべきだ」は、「思う・計」のスコアが5割前後と高く、続いて、「自分または家族や親戚が外国人と結婚することに抵抗はない」、「外国人が隣人になることに抵抗はない」が、同4割前後を占める。ただし、「外国人に「郷に入っては郷に従え」を強制すべきではない」は、「そう思わない・計」(28%)の方が唯一高い項目となっている。
- ・5つの指標の「思う・計」を属性別にみると、男性より女性の方が高く、年代別には、29歳以下と60歳以上のスコアが高くなっている。最も低いのは40歳代である。なお、「学生」は、他の職業よりもすべての項目においてスコアが高い。

■外国人への寛容度【あてはまる・計】(全体／単一回答)

Q31.あなたの日頃の様子についてお伺いします。以下にあげる、「日本に住む外国人に対する考え方や態度」は、どの程度ご自分にあてはまりますか。



⑤ 外国人の承認度を配っていること

□ 日本人は、在日外国人をどの程度コミュニティの一員として認めているだろうか。「十分認めている」と「ある程度認めている」とを合わせた、「承認意識あり・計」は37%である。

■外国人の承認度(全体／単一回答)

Q42.あなたは、自分が住んでいる地域に住む外国人を、どの程度「地域社会の一員」として認めたいと思いますか。

		承認意識あり・計		どちらともいえない	承認意識なし・計		承認意識あり・計	承認意識なし・計	
		十分認めている	ある程度認めている		あまり認めていない	まったく認めていない			
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	5.6%	31.2	48.0	8.3	6.9	36.8	15.2
性別	男性・計	(n=1000)	5.8	30.2	47.1	9.9	7.0	36.0	16.9
	女性・計	(n=1000)	5.4	32.2	48.9	6.7	6.8	37.6	13.5
年代別	29歳以下	(n=400)	9.5	32.3	41.5	7.8	9.0	41.8	16.8
	30～39歳	(n=400)	4.0	28.3	49.3	10.0	8.5	32.3	18.5
	40～49歳	(n=400)	4.0	28.3	51.3	8.3	8.3	32.3	16.5
	50～59歳	(n=400)	4.0	31.3	50.8	8.0	6.0	35.3	14.0
	60歳以上	(n=400)	6.5	36.0	47.3	7.5	2.8	42.5	10.3
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	5.5	29.7	48.7	9.9	6.2	35.2	16.1
	非正規雇用	(n=399)	6.3	27.8	49.6	9.8	6.5	34.1	16.3
	自営業・その他	(n=217)	4.6	35.5	41.0	9.2	9.7	40.1	18.9
	専業主婦(主夫)	(n=346)	4.0	36.1	50.3	5.2	4.3	40.2	9.5
	学生	(n=128)	10.9	42.2	34.4	6.3	6.3	53.1	12.5
	無職	(n=233)	5.2	24.0	53.6	6.0	11.2	29.2	17.2
※日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

⑥ 外国人増加への評価

- 外国人が増えることについての評価を質問している。
- 「とても良いと思う」と「良いと思う」を合わせた「良いと思う・計」は25%。「良いと思わない・計」の31%より低い。
 - ・ 男性の方が女性より「良いと思う・計」が高い。年代別にみると、29歳以下が同39%で、「良いと思わない・計」よりも高いスコアであるが、30歳代では28%、40歳代以上では2割弱である。
 - ・ 職業別にみると、「学生」で「良いと思う・計」が高く、「専業主婦(主夫)」と「無職」で低い。また、「正規雇用」の「良いと思う・計」と「良いと思わない・計」は、ほぼ拮抗している。

■外国人増加への評価(全体／単一回答)

Q24.あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか。

			良いと思う・計			良いと思わない・計			良いと思 う・計	良いと思わ ない・計
			とても 良いと思う	良いと思う	どちらとも いえない	あまり良いとは思 わない	まったく良いとは思 わない			
●凡例										
日本人・計			(n=2000)	4.9%	20.1	44.2	18.6	12.4	25.0	30.9
性別	男性・計		(n=1000)	6.5	19.8	42.9	17.7	13.1	26.3	30.8
	女性・計		(n=1000)	3.3	20.3	45.4	19.4	11.6	23.6	31.0
年代別	29歳以下		(n=400)	12.0	27.0	31.5	16.5	13.0	39.0	29.5
	30～39歳		(n=400)	3.5	24.0	40.8	17.3	14.5	27.5	31.8
	40～49歳		(n=400)	3.5	16.0	46.5	18.8	15.3	19.5	34.0
	50～59歳		(n=400)	3.5	15.5	50.0	18.0	13.0	19.0	31.0
	60歳以上		(n=400)	2.0	17.8	52.0	22.3	6.0	19.8	28.3
職業別	正規雇用(経営者を含む)		(n=677)	6.1	22.0	43.1	16.2	12.6	28.1	28.8
	非正規雇用		(n=399)	5.5	19.0	45.4	16.8	13.3	24.6	30.1
	自営業・その他		(n=217)	3.2	18.0	42.9	20.3	15.7	21.2	35.9
	専業主婦(主夫)		(n=346)	1.4	17.6	50.0	21.4	9.5	19.1	30.9
	学生		(n=128)	12.5	35.2	31.3	12.5	8.6	47.7	21.1
	無職		(n=233)	3.0	13.3	44.6	25.8	13.3	16.3	39.1
※日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				1.5	

1_5_6

7 外国人増加へのポジティブな評価

□ 外国人が増えることへの肯定的評価において、トップは「日本人の国際感覚が養われる」。その他、「日本人が気がつかなかった日本の魅力が発見される」、「日本の良さ・魅力を海外に発信してくれる」、「いろいろな文化が混ざり合って地域が楽しくなる」が2割以上で続く。

■外国人が増えることへのポジティブな評価(全体／複数回答)

(9%)

Q25.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましい影響がある」と思うのはどのようなことですか。

	日本人・計	性別		年代別						職業別					
		男性・計	女性・計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上		正規雇用（経営者を含む）	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦（主夫）	学生	無職
	n=2000	n=1000	n=1000	n= 400	n= 400	n= 400	n= 400	n= 400		n= 677	n= 399	n= 217	n= 346	n= 128	n= 233
日本人の国際感覚が養われる	28.9	26.1	31.7	29.8	24.0	23.3	29.0	38.5		25.8	28.3	26.7	35.8	31.3	29.2
日本人が気がつかなかった日本の魅力が発見される	24.2	21.8	26.6	26.0	21.3	19.3	22.5	32.0		19.6	23.8	28.6	27.7	31.3	24.9
日本の良さ・魅力を海外に発信してくれる	22.8	20.5	25.0	23.3	16.8	20.0	21.3	32.5		19.5	20.8	24.0	27.5	29.7	23.6
いろいろな文化が混ざり合って地域が楽しくなる	22.1	20.9	23.3	25.5	20.0	19.3	20.0	25.8		21.0	18.8	21.2	25.4	31.3	21.9
新しい知識や技術が日本経済を活性化する	17.1	17.2	17.0	20.3	16.3	14.8	13.8	20.5		16.5	15.0	15.7	18.8	23.4	17.6
いろいろな国籍の人が身近にいと生活が楽しくなる	14.5	13.9	15.1	18.0	15.5	9.8	14.8	14.5		13.6	14.8	12.9	13.3	30.5	11.2
面白い飲食店や商店が増える	13.1	13.6	12.5	18.0	13.0	12.3	9.8	12.3		12.4	12.3	12.9	13.0	21.1	12.0
人種が混ざり合って優れた人材が輩出される	12.7	13.0	12.3	15.5	11.3	13.5	9.5	13.5		11.7	15.3	12.4	12.4	15.6	9.9
日本人がやりたがらない仕事をしてくれる	11.6	11.9	11.2	12.0	11.5	10.3	10.0	14.0		10.6	10.5	16.1	11.0	12.5	12.0
外国人向けの新しい商売が増える	11.5	13.5	9.5	16.8	13.3	9.0	9.0	9.5		11.1	10.3	12.9	9.8	21.1	10.7
日本の人口減少の対策になる	11.2	13.6	8.7	12.8	11.0	9.0	10.3	12.8		12.0	10.8	12.4	8.1	13.3	11.6
地域に若い人が増えて活気が出る	10.1	11.4	8.8	10.8	9.8	7.0	8.8	14.3		9.5	10.5	8.3	10.7	16.4	8.6
人口が増えて自治体の税収が増える	9.8	10.8	8.8	13.8	8.5	11.5	4.0	11.3		9.6	9.0	11.5	6.9	17.2	10.3
日本の文化を維持・継承してくれる人が増える	8.5	8.3	8.7	9.0	8.8	6.5	6.8	11.5		6.5	10.0	8.3	9.5	10.9	9.0
その他	0.3	0.4	0.1	0.3	0.3	0.3	0.0	0.5		0.1	0.0	0.9	0.3	0.0	0.4
好ましい影響はない	27.3	28.6	26.0	22.8	28.3	31.3	31.3	23.0		26.6	31.1	28.6	24.3	14.1	33.5
		10.0		※「日本人・計」より10ポイント以上高い						※日本人・計で降順ソート					
		5.0		※「日本人・計」より5ポイント以上高い											
		5.0		※「日本人・計」より5ポイント以上低い											

1_5.7

⑧ 外国人増加へのネガティブな評価

□ 外国人が増えることへの否定的評価においては、「治安が悪くなる」、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」の2つが4割台であり、突出している。離れて、「日本語が通じない人が増えて不便になる」、「日本の土地が外国人に買い漁られる」が2割弱である。

- ・「治安が悪くなる」、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」は、年代が上がるにつれて、スコアも上昇する。職業別にみると、「治安が悪くなる」、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」が高いのは、「専業主婦（主夫）」と「無職」である。「無職」は、同時に「外国人に対応するための行政コストが増える」も高い。「治安が悪くなる」、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」が低かった「学生」は、「日本人の雇用が奪われる」が高い。なお、「正規雇用」の「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」は、「学生」と同程度に低い。

■外国人が増えることへのネガティブな評価(全体／複数回答)

(%)

Q26.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましくない影響がある」と思うのはどのようなことですか。

	日本人・計	性別		年代別					職業別					
		男性・計	女性・計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用（経営者を含む）	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦（主夫）	学生	無職
	n=2000	n=1000	n=1000	n= 400	n= 400	n= 400	n= 400	n= 400	n= 677	n= 399	n= 217	n= 346	n= 128	n= 233
治安が悪くなる	48.3	44.9	51.6	40.5	45.0	49.5	50.0	56.3	43.9	47.1	47.0	57.5	37.5	56.2
公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する	41.4	38.0	44.7	33.8	37.3	40.8	43.3	51.8	36.3	41.4	41.0	47.7	35.2	50.2
日本語が通じない人が増えて不便になる	19.2	19.9	18.4	21.0	20.8	18.8	14.5	20.8	19.1	17.5	18.9	17.9	22.7	22.3
日本の土地が外国人に買い漁られる	17.5	15.7	19.3	14.0	16.8	16.3	18.5	22.0	13.7	17.3	24.0	20.8	15.6	18.9
日本社会に溶け込もうとしない人が増える	15.9	17.5	14.3	17.0	15.0	15.5	13.0	19.0	14.6	16.5	19.4	13.0	19.5	17.6
自己主張の激しい人ばかりが増える	15.6	15.4	15.8	10.5	13.5	18.0	13.5	22.5	13.6	15.8	15.7	18.2	8.6	21.0
外国人に対応するための行政コストが増える	15.2	15.9	14.4	15.5	14.5	13.5	14.5	17.8	14.0	14.5	14.7	14.5	16.4	20.2
日本人の雇用が奪われる	14.4	13.7	15.1	20.8	15.3	13.8	11.5	10.8	12.9	16.3	12.9	10.7	25.0	16.7
日本の慣習や考え方が変わってしまう	11.1	10.3	11.8	12.5	10.0	11.0	10.0	11.8	10.3	11.0	9.2	11.6	16.4	11.2
日本の伝統や文化がすたれる	9.4	10.0	8.8	11.8	10.0	9.3	6.3	9.8	8.3	10.5	11.1	9.0	10.2	9.4
賃金が下がる・上がらない	8.5	9.4	7.6	12.5	11.0	8.0	5.3	5.8	7.5	10.8	10.6	6.4	13.3	6.0
日本の純粋性が損なわれる	8.4	8.8	8.0	9.3	10.0	9.5	4.8	8.5	7.8	7.5	9.7	8.4	12.5	8.2
社会の一体感が薄れる	7.5	8.0	6.9	8.0	6.5	7.8	6.5	8.5	6.1	7.3	7.4	7.5	12.5	9.0
見た目や肌の色が違う日本人が増えると違和感がある	5.8	5.9	5.7	6.5	6.5	5.3	4.0	6.8	5.5	5.0	6.9	5.5	8.6	6.0
その他	0.5	0.4	0.6	0.5	0.3	0.5	0.3	1.0	0.3	0.0	0.9	0.9	0.0	1.3
好ましくない影響はない	21.6	23.8	19.4	24.8	20.3	21.5	23.0	18.5	21.4	26.1	25.3	15.0	20.3	21.5
		10.0		※「日本人・計」より10ポイント以上高い					※日本人・計で降順ソート					1,5,8
		5.0		※「日本人・計」より5ポイント以上高い										
		5.0		※「日本人・計」より5ポイント以上低い										

⑨「日本」推奨意向

⇒ 日本人に対して、日本に住んでいない外国人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいか、在日外国人に対して、母国の人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいかを質問した。

□ 日本人の「勧めたいと思う・計」は18%であり、「勧めたいと思わない・計」の33%より15ポイント程度低い。

- ・「勧めたいと思う・計」は、女性より男性が高い。また、29歳以下では「勧めたいと思う・計」が32%であり、「勧めたいと思わない・計」と同スコアであるのに対し、30歳代では19%、40歳代以上では12～14%にとどまる。
- ・職業別にみると、「学生」と「正規雇用」の「勧めたいと思う・計」が高く、「専業主婦(主夫)」と「無職」が低いのが特徴である。

□ 在日外国人の「勧めたいと思う・計」は60%であり、日本人よりも40ポイント以上高い。

- ・「勧めたいと思わない・計」は13%にとどまる。
- ・「勧めたいと思う・計」は、国籍別で差がある。「中国」は同35%で、「勧めたいと思わない・計」よりも低い。「韓国・北朝鮮」も「勧めたいと思う・計」は40%である。
- ・職業区分別にみると、「就業者(専門性が低い)」の「勧めたいと思う・計」が低めである。
- ・居住年月別にみると、「超短期」を除き、居住年月が長くなるにつれ、「勧めたいと思う・計」のスコアが低くなる。

■「日本」推奨意向(全体／単一回答)

Q27.あなたは、日本に住んでいない外国人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいと思いますか。

Q12.あなたは、母国の人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいと思いますか。

		勧めたいと思う・計		どちらとも いえない	勧めたいと思わない・計		勧めたい と思う・ 計	勧めたい と思わ ない・計
		強く 勧めたい と思う	勧めたい と思う		あまり 勧めたいとは 思わない	まったく 勧めたいとは 思わない		
●凡例								
日本人・計		(n=2000)	3.2% 14.8	48.9	16.3	16.9	18.0	33.2
性別	男性・計	(n=1000)	4.2 16.2	47.4	15.0	17.2	20.4	32.2
	女性・計	(n=1000)	2.1 13.4	50.4	17.6	16.5	15.5	34.1
年代別	29歳以下	(n=400)	7.8 24.0	36.5	15.5	16.3	31.8	31.8
	30～39歳	(n=400)	2.3 16.8	48.0	15.5	17.5	19.0	33.0
	40～49歳	(n=400)	3.0 10.8	51.0	13.5	21.8	13.8	35.3
	50～59歳	(n=400)	2.0 10.0	57.0	15.3	15.8	12.0	31.0
	60歳以上	(n=400)	0.8 12.5	52.0	21.8	13.0	13.3	34.8
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	4.4 19.6	46.1	13.1	16.7	24.1	29.8
	非正規雇用	(n=399)	2.3 12.5	49.9	19.3	16.0	14.8	35.3
	自営業・その他	(n=217)	2.8 12.4	49.8	16.1	18.9	15.2	35.0
	専業主婦(主夫)	(n=346)	1.7 9.2	55.5	19.1	14.5	11.0	33.5
	学生	(n=128)	7.0 28.9	39.8	14.1	10.2	35.9	24.2
	無職	(n=233)	1.3 7.3	49.8	17.6	24.0	8.6	41.6
外国人・計		(n=1500)	19.3	40.3	27.6	11.4	59.6	12.8
国籍別	中国(香港・台湾を含む)	(n=268)	7.3 27.7	28.1	36.2	0.7	35.0	36.9
	韓国・北朝鮮	(n=325)	8.7 31.1	47.0	12.1	1.1	39.7	13.3
	フィリピン	(n=234)	29.4 48.3	21.5	0.2	77.7	0.8	
	米国	(n=337)	18.1 46.7	28.1	6.5	0.6	64.9	7.1
	ブラジル	(n=336)	33.2 47.5	12.2	3.8	3.3	80.7	7.2
職業 区分別	就業者(専門性が高い)	(n=529)	14.9 45.7	29.0	10.3	0.2	60.6	10.4
	就業者(専門性が低い)	(n=623)	18.1 36.0	27.8	15.8	2.3	54.1	18.1
	留学	(n=166)	22.7 45.7	26.5	4.2	1.0	68.4	5.1
	非就業者	(n=181)	33.0 34.8	23.9	6.4	1.8	67.9	8.2
居住 年月別	超短期(1年未満)	(n= 51)	19.4 28.0	47.3	5.3	—	47.4	5.3
	短期(1年～5年)	(n=585)	16.9 49.3	22.4	9.8	1.6	66.2	11.4
	中期(5年～10年)	(n=379)	17.0 42.6	23.3	15.9	1.3	59.6	17.1
	長期(10年以上)	(n=485)	24.0 29.1	35.2	10.6	1.1	53.1	11.8
※日本人・計/外国人・計より		+10pt	+5pt	-5pt				

1_5_9

PART 2 寛容分析編

何が外国人への寛容を生むか？

0 はじめに

① 外国人への寛容度の指標化

- 本パートでは、前パートで取り上げた「外国人への寛容度」に関する5つの指標を主成分得点化（詳細は以下参照）し、「寛容度・高」、「寛容度・中」、「寛容度・低」の3つにグルーピングし、クロス集計することで、「外国人への寛容度」に影響を与える項目を把握していく。

〔補注〕「外国人への寛容度」指標の算出

すでに提示した外国人に対する寛容度指標を再掲する。

外国人に対する寛容度	
1	外国人が隣人になることに抵抗はない
2	外国人の価値観や行動の違いは違いとして尊重したい
3	外国人に「郷に入っては郷に従え」を強制すべきではない
4	外国人増加による日本への影響は時代の変化として受け入れるべきだ
5	自分または家族や親戚が外国人と結婚することに抵抗はない

- 寛容度指標の算出手続きは以下の通りである。

- ① 調査では、5項目それぞれについて、『『日本に住む外国人に対する考え方や態度』は、どの程度自分にあてはまるか』を5段階の選択肢で尋ねている（単一回答）。まず、回答データを得点化するために、それぞれの選択肢に5～1点を付与した。選択肢と配点の関係は以下の通りである。

1. よくあてはまる> 5点
2. ある程度あてはまる> 4点
3. どちらともいえない> 3点
4. あまりあてはまらない> 2点
5. まったくあてはまらない> 1点

- ② 次に、これら5つの回答データを統合し、新たな統合指標（＝寛容度指標）を作り出すために主成分分析を行った。結果として、1つの主成分に統合された（主成分の説明力は65%）。

※ 主成分分析は、多くの変数に重みをつけて小数の合成変数を作る分析手法。重みのつけ方は、合成変数ができるだけ多く元の変数の情報量を含むように処理される。

- ③ 最後に、主成分分析の結果を元に、各回答者がどの程度主成分に影響されているか、すなわち、どの程度外国人への寛容度が高いかを数値化するために、主成分得点を算出した（主成分得点は平均が0、標準偏差が1になるように算出される）。

- この主成分得点（寛容度得点）が、上位25%（500人）を「寛容度が高い」、中位50%（1000人）を「寛容度が中程度」、下位25%（500人）を「寛容度が低い」と分類し、各設問とクロス集計を行った。

1 個人属性と寛容性

① 基本的属性

- 「外国人の寛容度」別にみると、「寛容度・高」の層において、「女性」の比率が高い。
- 同様に、年代別では「29歳以下」と「60歳以上」が高く、職業においては「非正規雇用」、「学生」の比率が高い。

■性別・年齢(全体／単一回答・実数回答)

			(%)					(歳)		
			男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均年齢
調査数										
日本人・計			2000	50.0	50.0	20.0	20.0	20.0	20.0	44.65
寛容度別	寛容度が高い	500	46.8	53.2	26.8	16.6	13.4	18.0	25.2	44.3
	寛容度が中程度	1000	52.0	48.0	17.0	20.5	20.9	22.8	18.8	45.3
	寛容度が低い	500	49.2	50.8	19.2	22.4	24.8	16.4	17.2	43.6
※日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt	2_1_1				

■職業(全体／単一回答)

Q3.あなたの職業はどれにあてはまりますか。

Q3.あなたの職業はどれにあてはまりますか。															(%)	
			経営者・ 役員	公務員・ 正社員	契約社員・嘱託社員	派遣社員	アルバイト・パート	自営業	医師、 弁護士 などの 士業	フリーランス・ 自由業	NPO、 NGOなど 市民団体 職員	専業主婦 (主夫)	学生	無職 (専業主婦 (主夫) 以外)	その他の 職業	
調査数																
日本人・計			2000	1.7	32.2	4.4	2.7	13.0	6.0	1.1	1.9	—	17.3	6.4	11.7	2.0
寛容度別	寛容度が高い	500	2.4	27.0	5.0	2.6	15.0	5.4	1.2	3.2	—	15.6	11.0	10.0	1.6	
	寛容度が中程度	1000	1.7	34.3	3.7	2.6	12.5	6.3	0.8	1.0	—	18.8	4.8	11.5	2.0	
	寛容度が低い	500	1.0	33.0	5.0	2.8	11.8	5.8	1.4	2.2	—	16.0	5.0	13.6	2.4	
※日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt											2.1_1_2

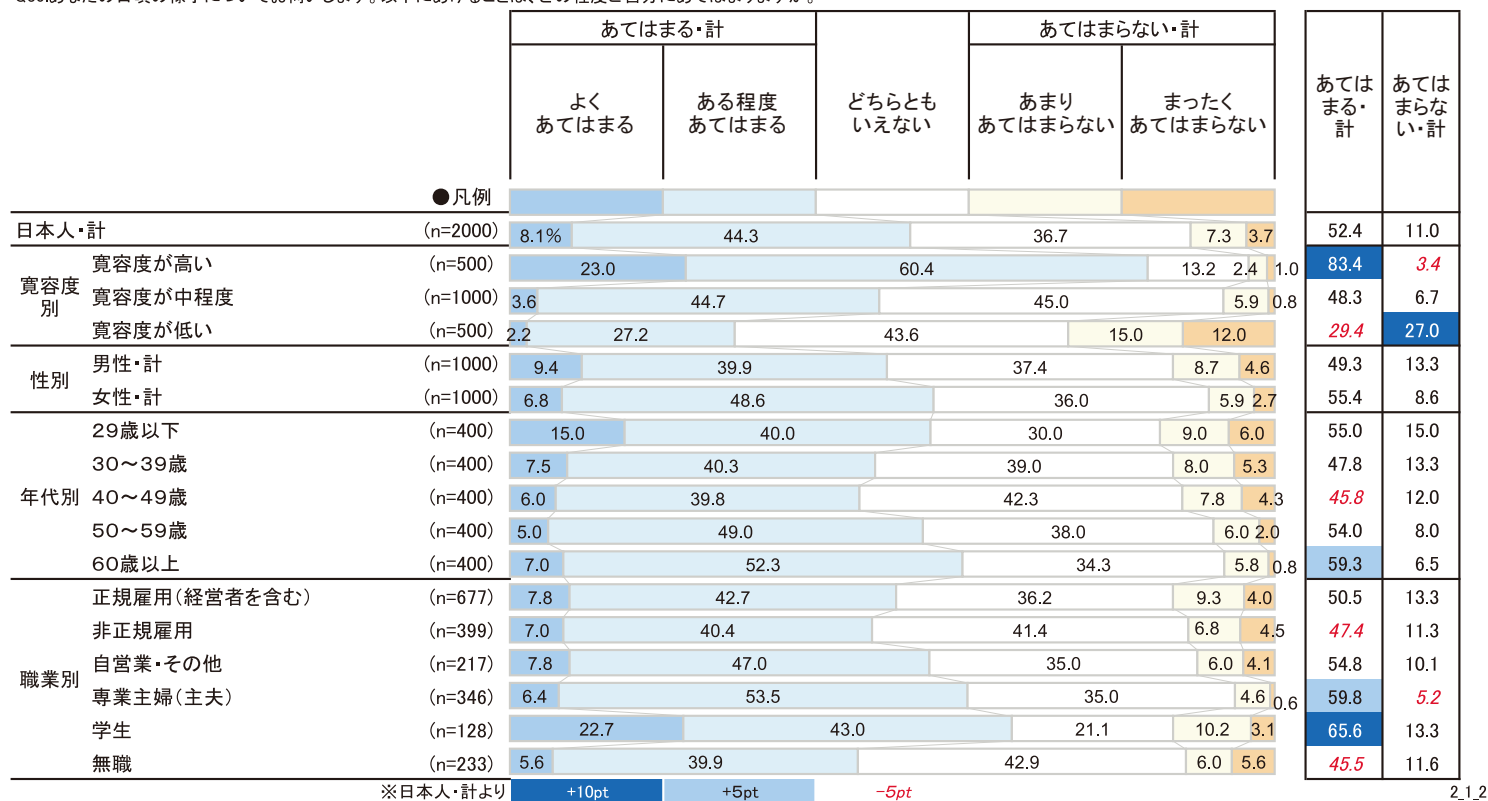
② 一般的寛容度

⇒ ここでは、外国人、日本人に関係なく、すべての人に対してどの程度「寛容」であるかを示す指標として、「自分と価値観や判断が異なる人の存在や意見をなるべく認めようとしている」を設定し、5段階であてはまり度を測定した。

- 「よくあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた「あてはまる・計」は5割強、「あてはまらない・計」は1割強である。
- 「あてはまる・計」を属性別にみると、男性より女性の方が高く、「30～39歳」、「40～49歳」のスコアが低いことがわかる。また、職業別では「専業主婦（主夫）」、「学生」の同スコアが高い。
- これを、「外国人への寛容度」別にみると、外国人への寛容度が高いほど一般的寛容度が高いという、顕著な傾向がみられる。「寛容度・高」の層では、「あてはまる・計」は8割を超えている。

■ 一般的寛容度：自分と価値観や判断が異なる人の存在や意見をなるべく認めようとしている（全体／単一回答）

Q30.あなたの日頃の様子についてお伺いします。以下にあげることは、どの程度ご自分にあてはまりますか。



2_1_2

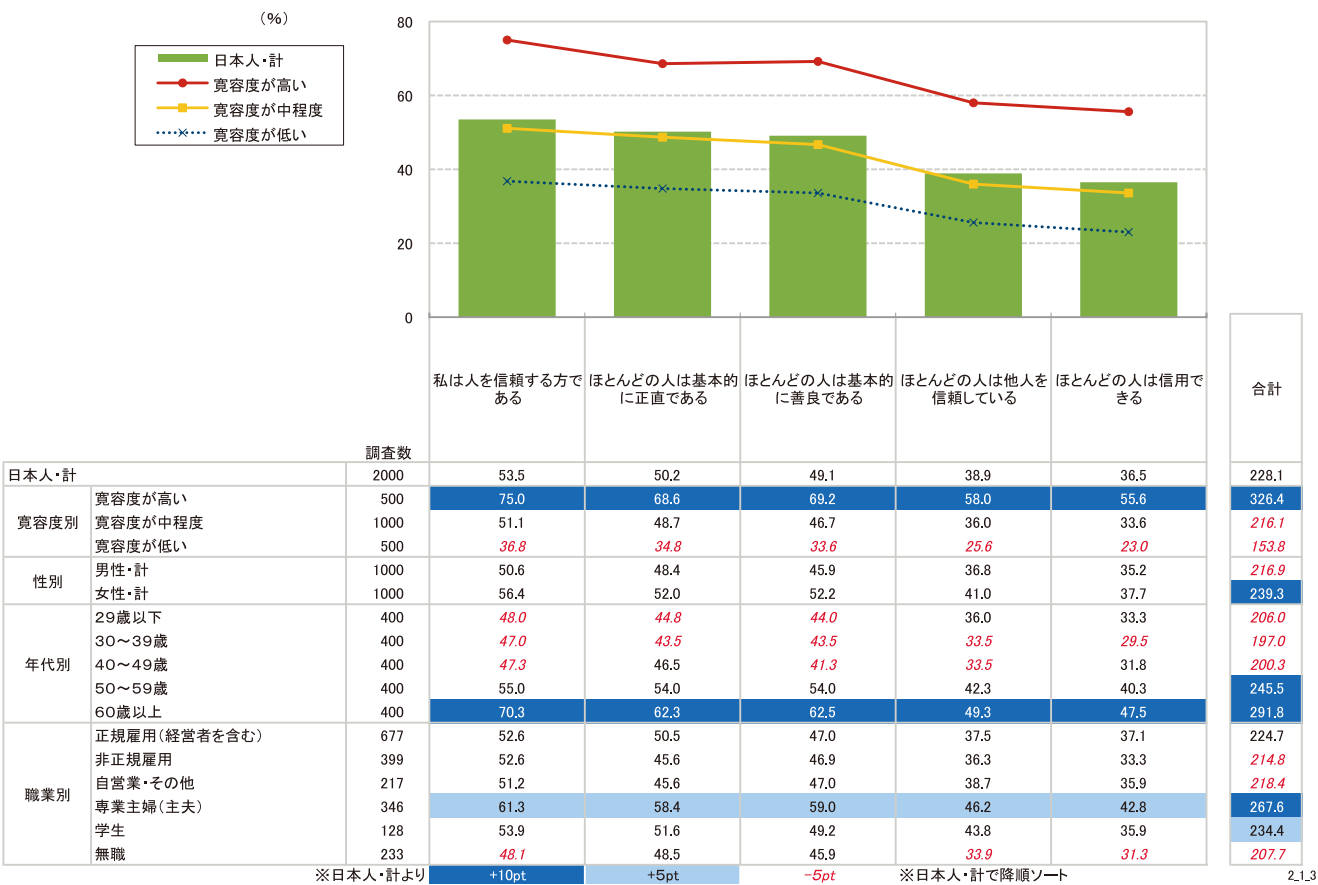
③ 一般的信頼度

⇒ 社会心理学者・山岸俊男の提示した、「一般的信頼」の測定項目をそのまま用いた。「一般的信頼」指標が高いほど、外部に開かれた社会において有効な知性の高さを示す、というものである。（詳細は、先行研究レビューを参照されたい）

- 「外国人への寛容度」が高い層ほど、この「一般的信頼」の5指標の「あてはまる・計」のスコアが高い。
- 年代別にみると、「50～59歳」「60歳以上」の高齢層で高く、職業別にみると、「専業主婦（主夫）」「学生」層で高いことがわかる。就業者の中では、「正規雇用」のスコアが高い。

■ 一般的信頼度【あてはまる・計】（全体／単一回答）

Q29.以下にあげる考え方に対して、あなたの考え方はどの程度あてはまりますか。



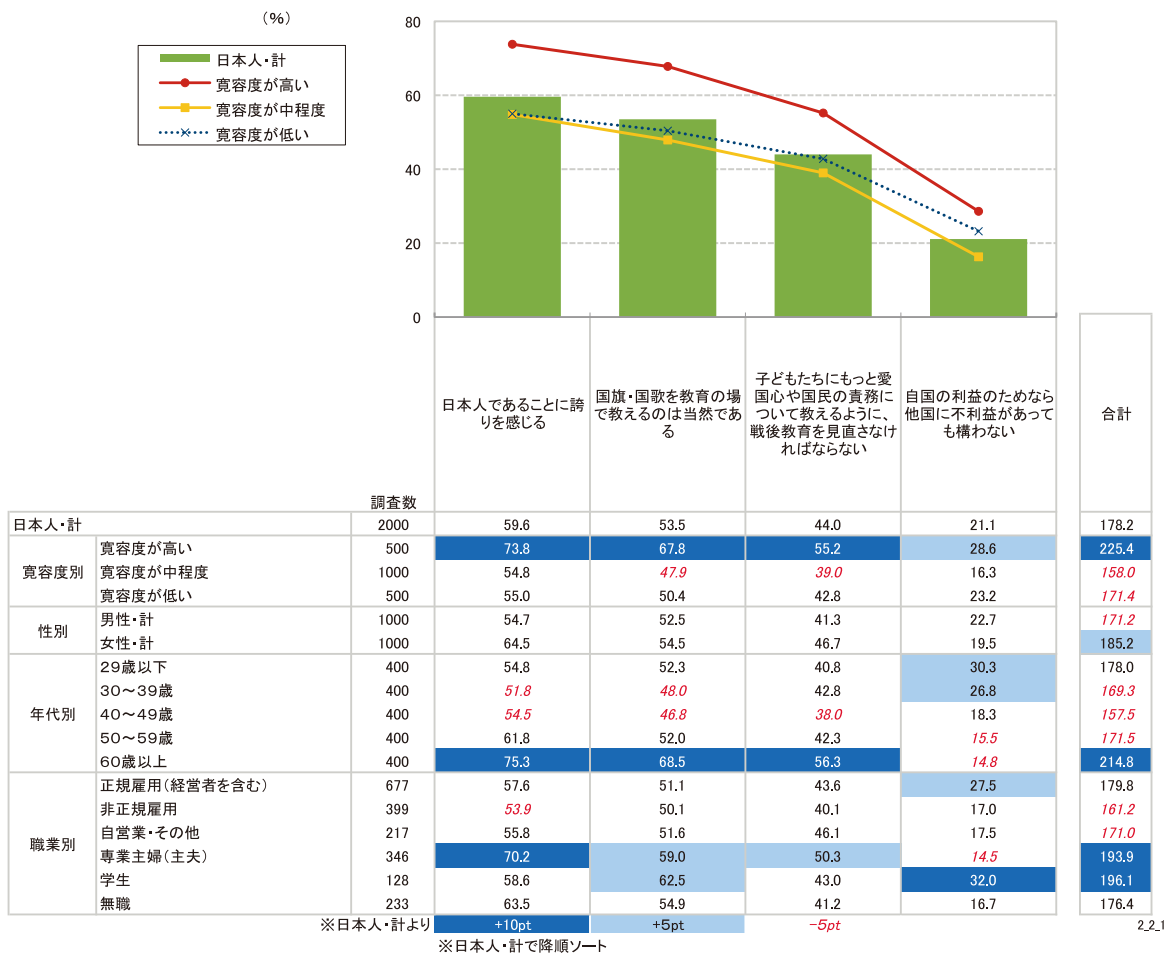
2 ナショナリズム意識と寛容性

① 愛国主義指標

- 愛国主義指標、純化主義指標、排外主義指標については、先行研究で取り上げた、『外国人へのまなざしと政治意識』で用いられた設問を、ほぼそのまま設定している。
- 愛国主義の各指標をみると、「国旗・国歌を教育の場で教えるのは当然である」、「日本人であることに誇りを感じる」、「子どもたちにもっと愛国心や国民の責務について教えるように、戦後教育を見直さなければならない」の「そう思う・計」のスコアは4～6割であり、「そう思わない・計」を大きく上回る。「自国の利益のためなら他国に不利益があっても構わない」のみ、「そう思う・計」を「そう思わない・計」が上回っており、他国との関係においては、「ジャパン・ファースト」ではない考え方の方が多いことになる。
- ・ これらを、「外国人への寛容度」別にみると、「自国の利益のためなら他国に不利益があっても構わない」が29%にとどまる以外は、すべて「寛容度・高」の層のスコアが高くなっている。しかし、どの項目も「寛容度・中」のスコアが最も低く、「愛国主義」と「外国人への寛容度」との相関は低いことがわかる。

■愛国主義指標【あてはまる・計】(全体／単一回答)

Q32.以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



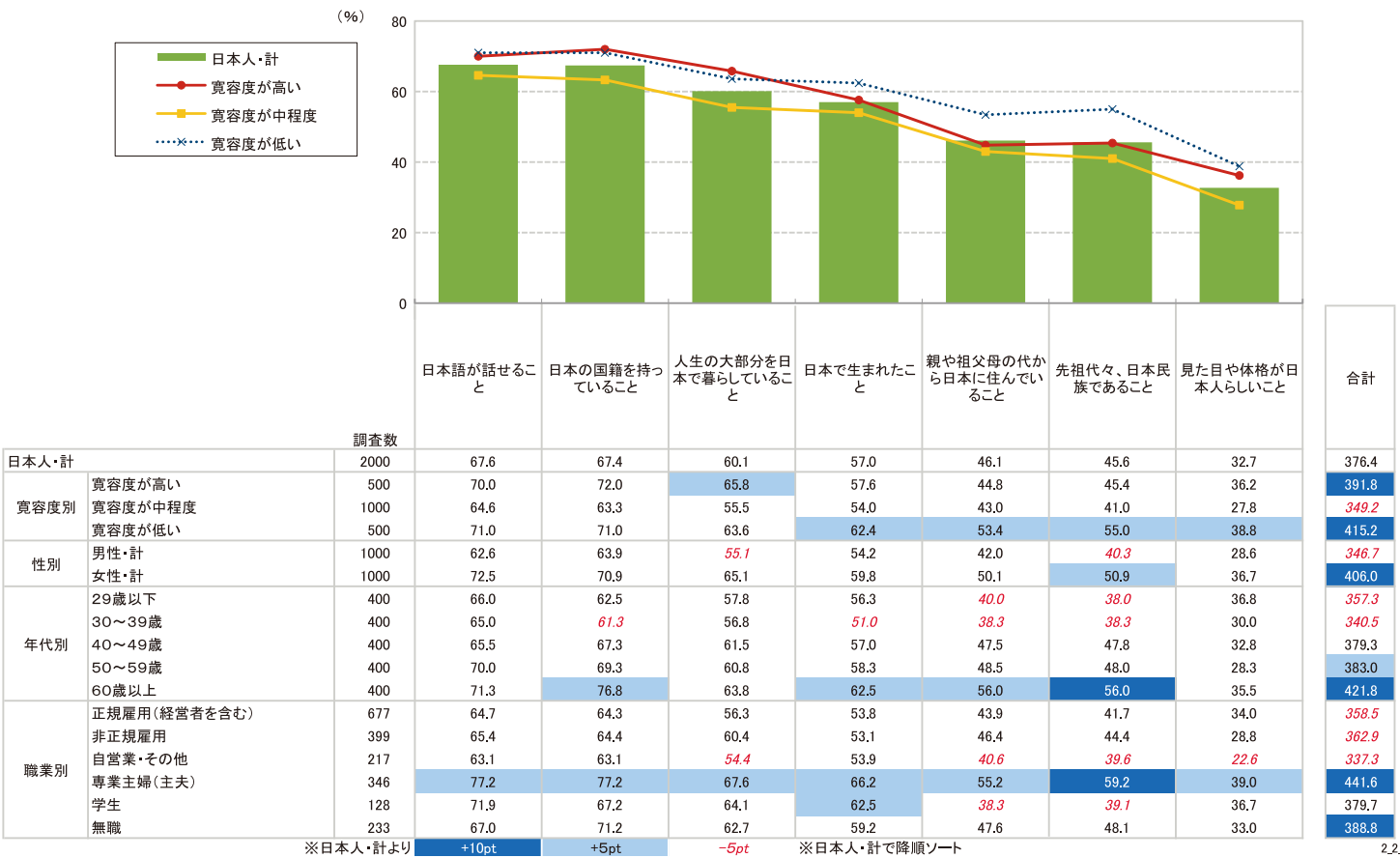
2.2.1

② 純化主義指標

- 純化主義指標は、日本人としてみなすための条件の重要度を聞いている。「重要である・計」が高いのは、「日本語が話せること」、「日本の国籍を持っていること」であり、7割弱を占める。「人生の大部分を日本で暮らしていること」、「日本で生まれたこと」も6割程度で続いている。
- これを「外国人への寛容度」別にみると、7つの指標のうち5指標において、「寛容度・低」のスコアが最も高い。ただし、どの項目も「寛容度・中」のスコアが最も低く、「純化主義」と「外国人への寛容度」との相関は低いことがわかる。

■純化主義指標【重要である・計】(全体／単一回答)

Q33.ある人を本当に日本人であると見なすためには、以下にあげるようなことが「重要だ」という意見と「重要ではない」という意見があります。それぞれについてあなたはどの程度重要だと思いますか。



③ 排外主義指標

- 排外主義指標は、外国人受け入れに否定的な表現項目と肯定的な表現項目とが混在している。
- 否定的な表現項目のうち、「不法滞在している外国人を国外退去させるために、日本政府はもっと厳しく取り締まるべきだ」、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる」についての「あてはまる・計」は5割前後のスコアであるのに対し、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人は日本人から仕事を奪う」は26%にとどまる。
- 肯定的な表現項目のうち、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人が増えれば日本は新しい考えや文化をもっと受け入れるようになる」、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人は全体として日本の経済に役立つ」の「あてはまる・計」は4割を超えている。「日本に定住しようと思って日本に来る外国人はもっと増えた方が良い」は2割強にとどまる。
- これらの項目を「外国人への寛容度」別にみると、否定的な表現項目について最もスコアが高いのは「寛容度・低」の層である。また、肯定的な表現項目について最もスコアが高いのは「寛容度・高」の層であり、逆相関の関係にあることがわかる。排外主義と外国人への寛容度は、対立している。

■排外主義指標【あてはまる・計】(全体／単一回答)

Q34. 以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



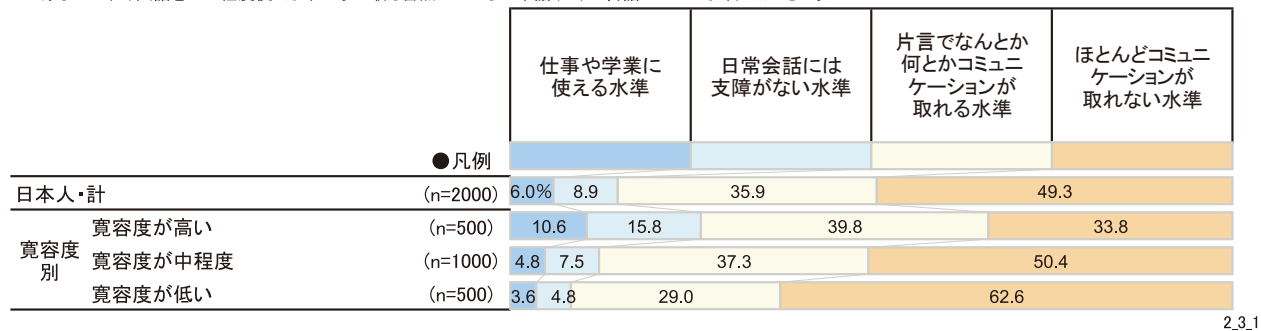
3 外国人との交流経験と寛容度

① 外国語習熟度

□「寛容度・高」では、「日常会話に支障がない程度」以上に外国語に習熟している人が25%を超え、語学力も関係することがわかる。ただし同層でも、「ほとんどコミュニケーションが取れない」人が34%いることは注目されよう。

■外国語習熟度(全体／単一回答)

Q6.あなたは、外国語をどの程度使えますか。※最も習熟している日本語以外の言語についてお答えください。

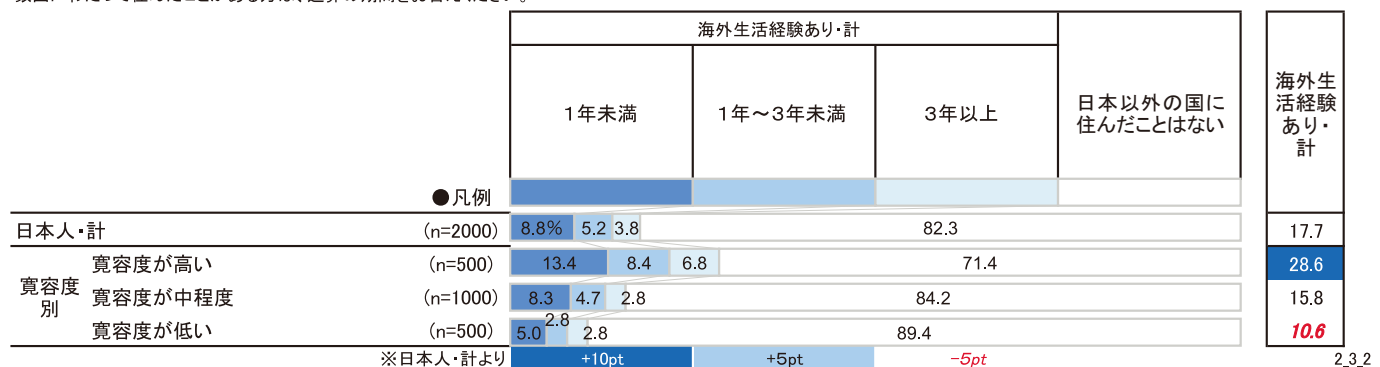


② 海外生活経験

□「寛容度・高」では、海外での生活経験がある人が3割弱を占め、全体平均よりも10ポイント程度高い。「外国人への寛容度」と「海外生活経験」との相関は高い。

■海外生活経験(全体／単一回答)

Q7.あなたはこれまでに、どのくらい長く日本以外の国に住んだことはありますか。※1ヶ月以上、同じ都市・エリアに滞在することを「住む」としてお答えください。※複数回にわたって住んだことがある方は、通算の期間をお答えください。



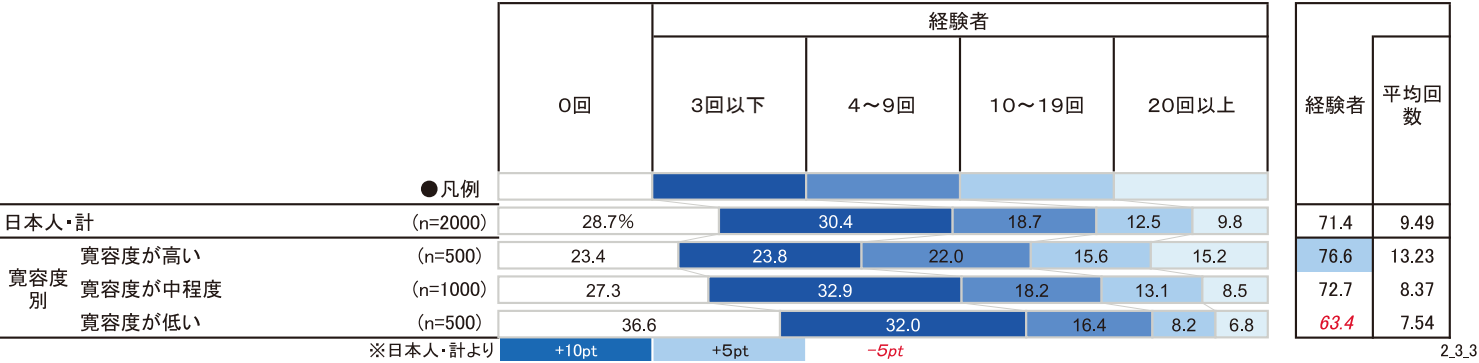
3 外国人との交流経験と寛容度

③ 海外旅行経験

□「寛容度・高」の、海外旅行の平均回数は13.2回であり、全体平均を上回る。「外国人への寛容度」と「海外旅行経験」との相関は高い。

■海外旅行経験(全体／実数回答)

Q8.あなたはこれまでに、何回、海外旅行をしたことがありますか。

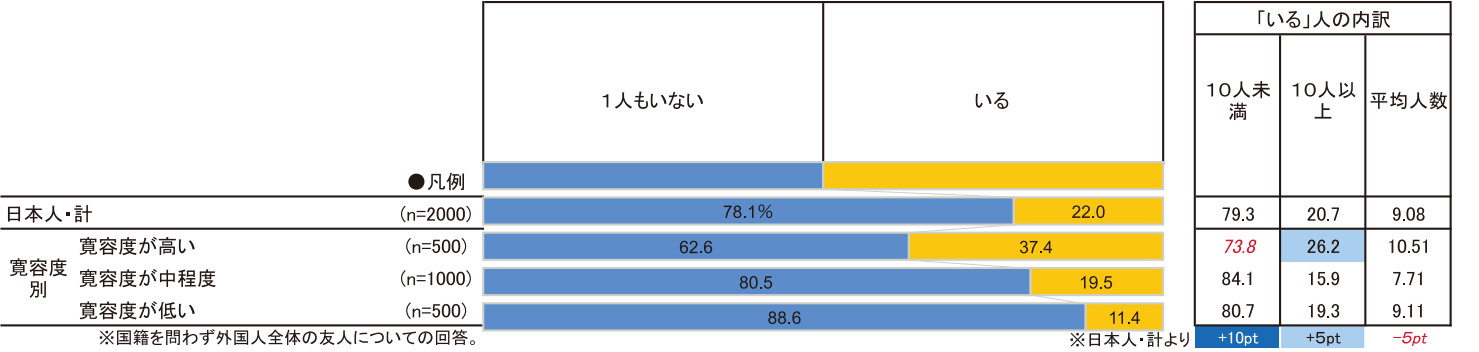


④ 外国人の友人の有無と平均人数

□「外国人への寛容度」が高いほど、外国人の友人が「いる」と回答する人が多く、「寛容度・高」の層では4割弱に達する。また、友人の平均人数も10.5人であり、他の層よりも高くなっている。

■外国人の友人の有無と平均人数(全体／単一回答、人数は実数回答)

Q9.あなたは日本に住んでいる外国人に、友人が何人くらいいますか。



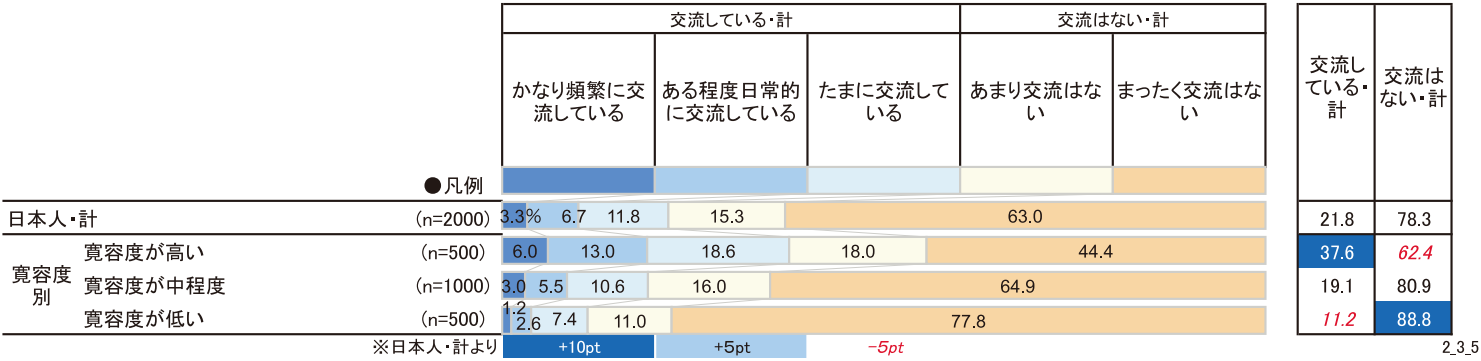
2.3.4

⑤ 外国人との交流の活発さ

□「寛容度・高」では、日頃外国人と「交流している・計」が4割弱であり、全体平均を15ポイント程度上回っている。「寛容度・中」は同19%、「寛容度・低」は同11%となっており、両者の相関は高い。

■外国人との交流の活発さ(全体／単一回答)

Q11.あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。

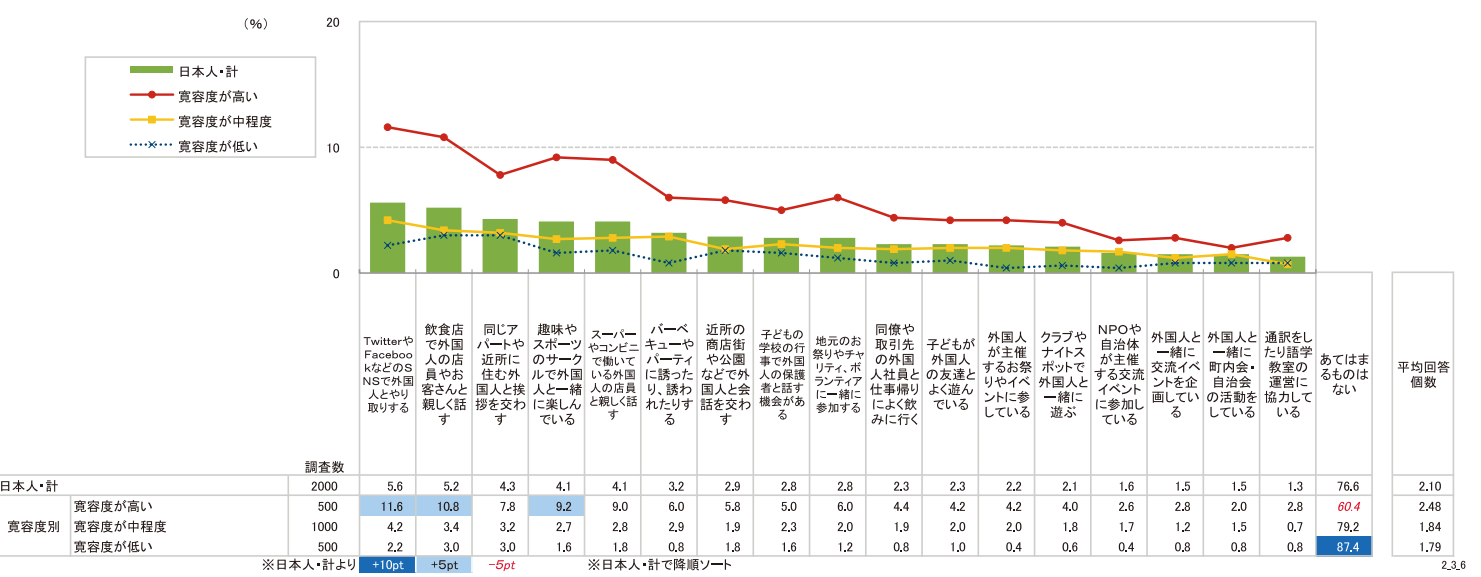


⑥ 外国人との交流の内容

□ ほとんどすべての項目で、「外国人への寛容度」が上がるにつれてスコアも上昇しており、相関自体は高い。その中でも、「寛容度・高」の層の「TwitterやFacebookなどのSNSで外国人とやり取りする」、「飲食店で外国人の店員やお客さんと親しく話す」は1割を超えている。

■外国人との交流の内容(全体／複数回答)

Q15.あなたは普段の生活において、日本に住んでいる外国人とどのような交流をしていますか。あてはまるものすべてをお選びください。



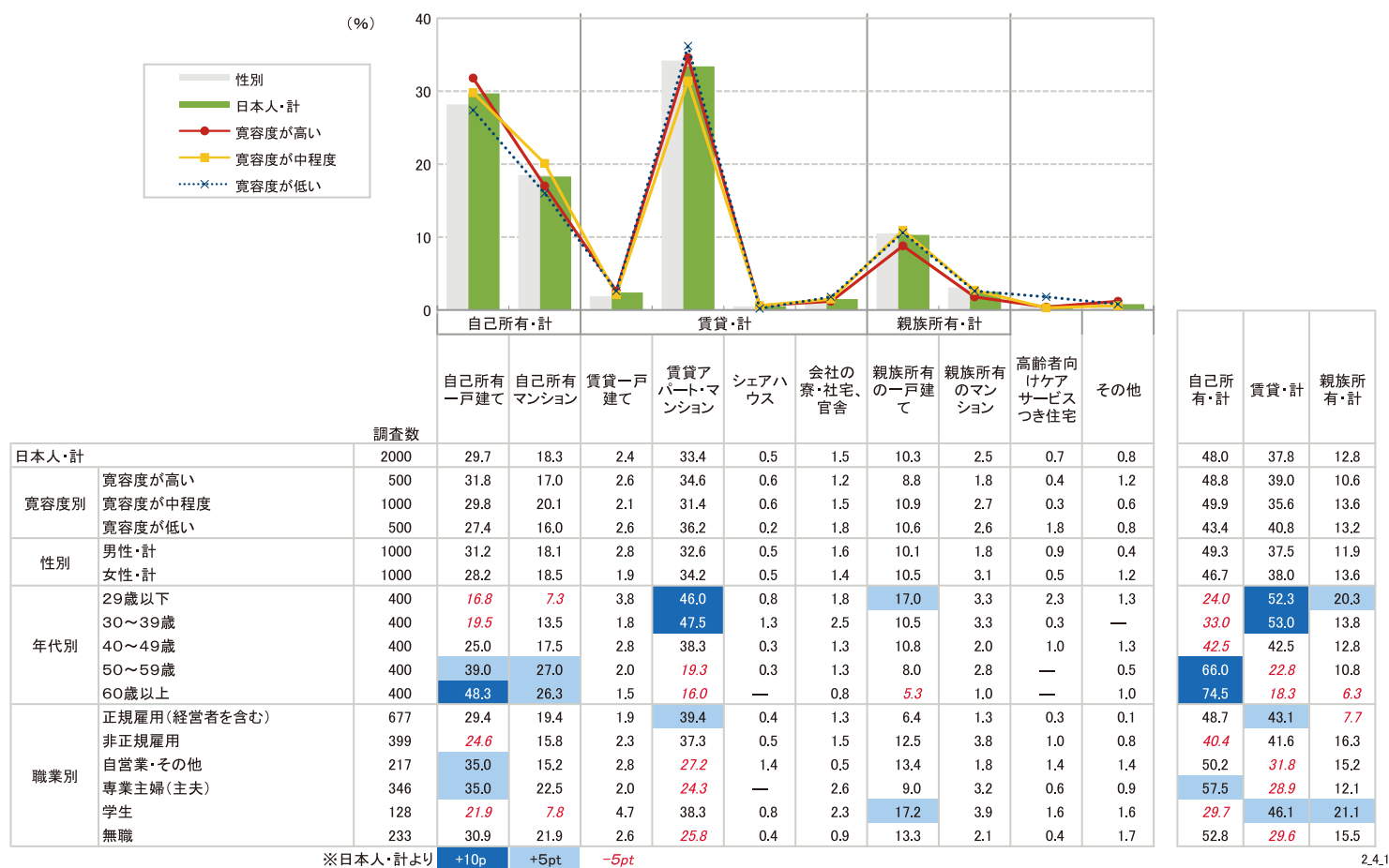
4 生活経験と寛容度

① 住居タイプ

□「外国人への寛容度」別に、明かな住居タイプの傾向はみられない。

■住居タイプ(全体／単一回答)

Q35.あなたは現在、どのような住まいに住んでいらっしゃいますか。



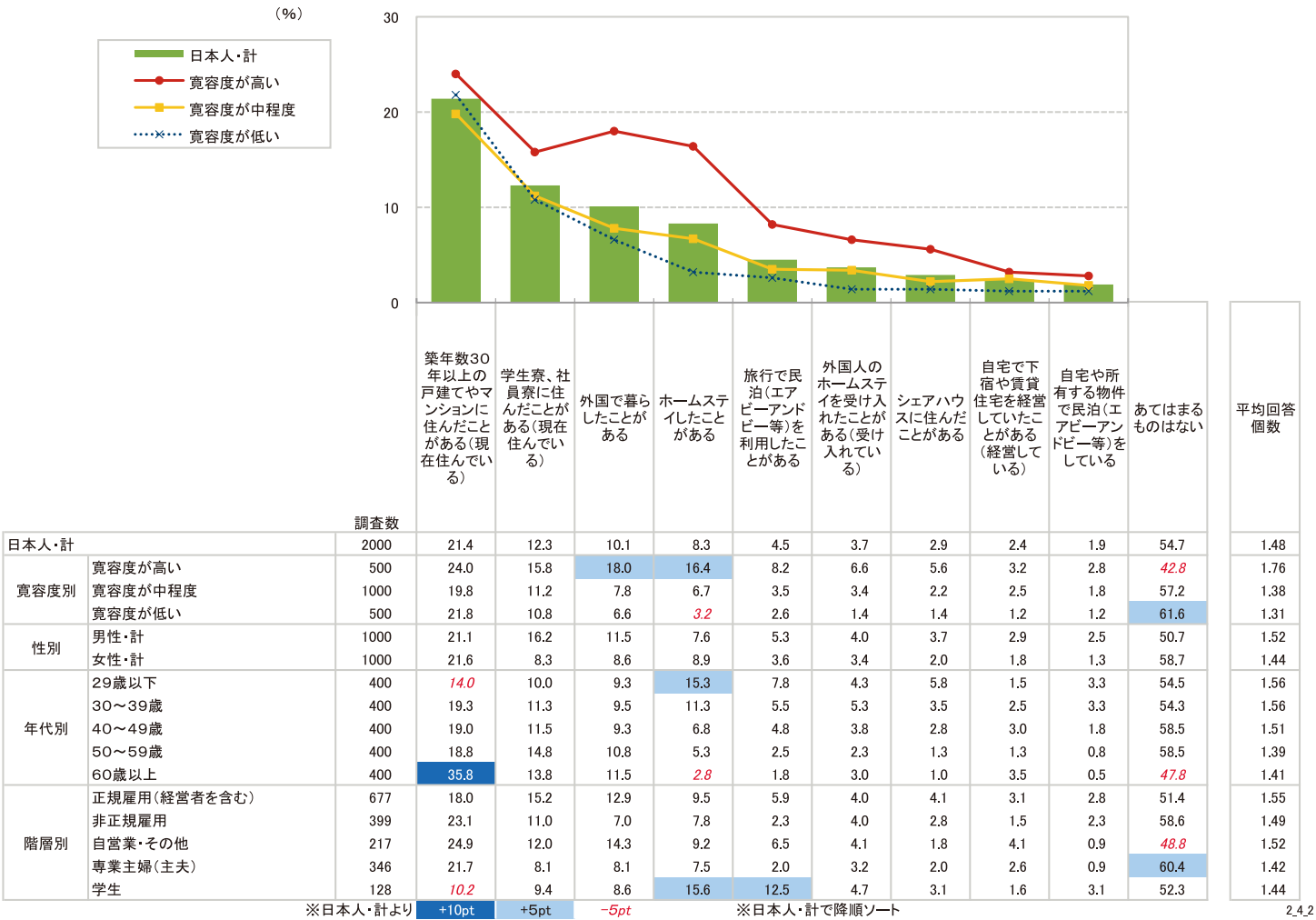
2.4.1

② 多様な住経験

- これまで経験してきた、さまざまな住環境の経験をみると、ほぼすべての項目において、「外国人への寛容度」が高いほどスコアも高くなっており、両者の相関が高いことがわかる。
- なかでも、「外国で暮らしたことがある」、「ホームステイしたことがある」は、「寛容度・高」の比率が特徴的に高くなっている。

■多様な住経験(全体／複数回答)

Q44.以下のうち、あなたが過去に経験したこと、現在も経験していることを、すべてお選びください。



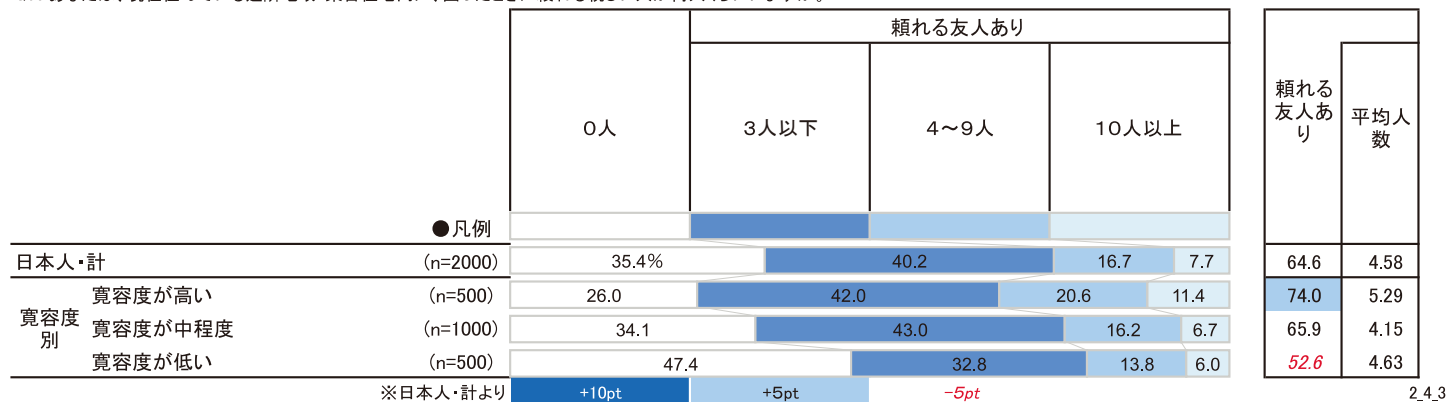
2_4.2

③ 地域で頼れる友人の数

- 「近隣地域・集合住宅内に、困ったときに頼れる親しい人」の有無と数を、「外国人への寛容度」別にみると、寛容度が高いほど「親しい人あり」のスコアが上昇し、その平均人数も増える。
- もちろん、「外国人への寛容度」と「近隣地域・集合住宅内に、困ったときに頼れる親しい人」の有無と数に、直接の因果関係を求めることには無理があるが、プロフィールとして確認しておく。

■地域で頼れる友人の数(全体／実数回答)

Q38.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内に、困ったときに頼れる親しい人が何人くらいいますか。

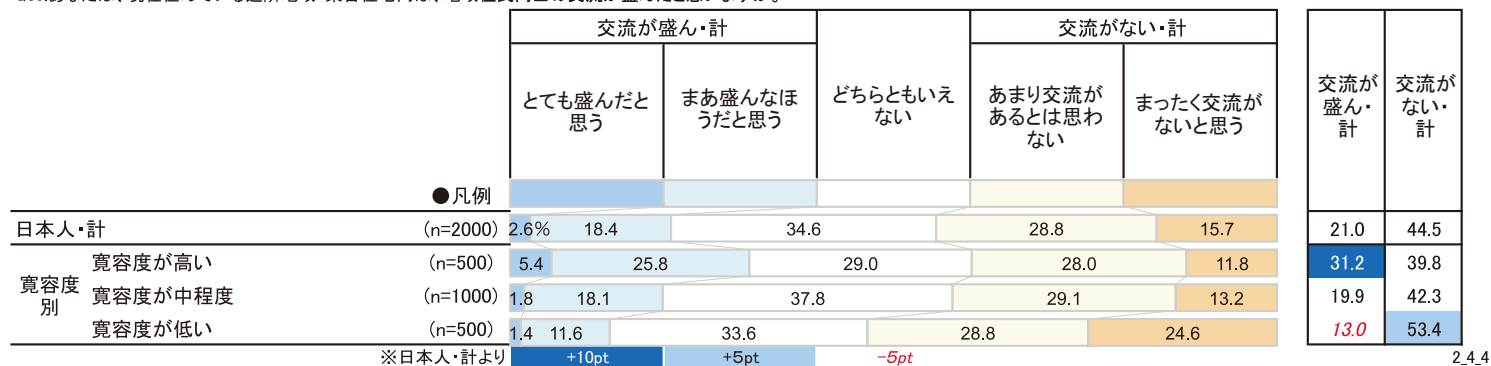


④ 地域での交流の活発さ

- 「外国人への寛容度」が高いほど、「現在住んでいる近隣地域・集合住宅内において、「地域住民同士の交流が盛んだ」と回答する人が多い。
- 前項と同様、プロフィールとして確認しておくべき項目ではあるが、日常生活において交流度が高い人ほど、日本人を含む隣人との関係が深いといえそう。

■地域での交流の活発さ(全体／単一回答)

Q39.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内は、地域住民同士の交流が盛んだと思いますか。

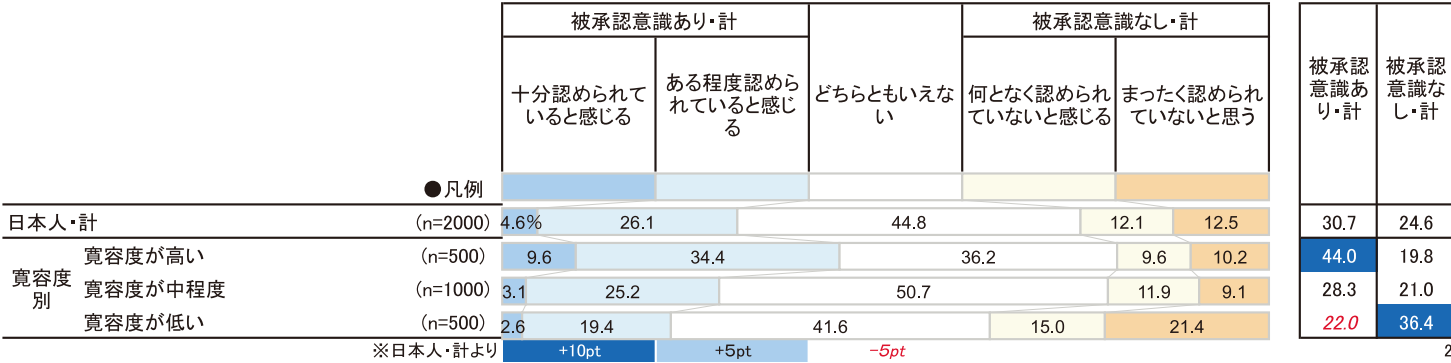


⑤ 地域での被承認意識

□ 被承認度（どの程度「地域社会の一員として認められている」か）を、「外国人への寛容度」別にみると、寛容度が高いほど、「被承認意識あり・計」のスコアが上昇しており、両者の相関は高い。自分が身近な人々から認められていることが、他者への寛容度に大きく影響していることがわかる。

■ 地域での被承認意識(全体／単一回答)

Q41.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。



5 外国人への寛容度との相関分析

□ 前項までのクロス分析を踏まえ、「外国人への寛容度」に影響を及ぼす要因として、以下の項目をまず設定した。

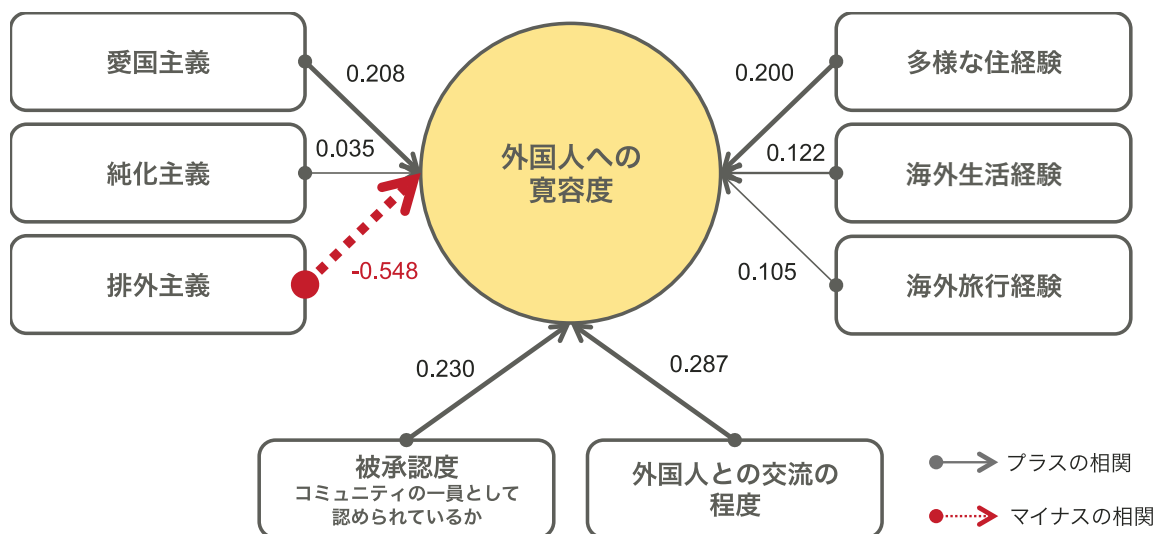
- ・ 排外主義
- ・ 外国語習熟度
- ・ 海外生活経験
- ・ 海外旅行経験
- ・ 多様な住経験
- ・ 外国人との交流度
- ・ 近隣コミュニティ内の交流度
- ・ 被承認度

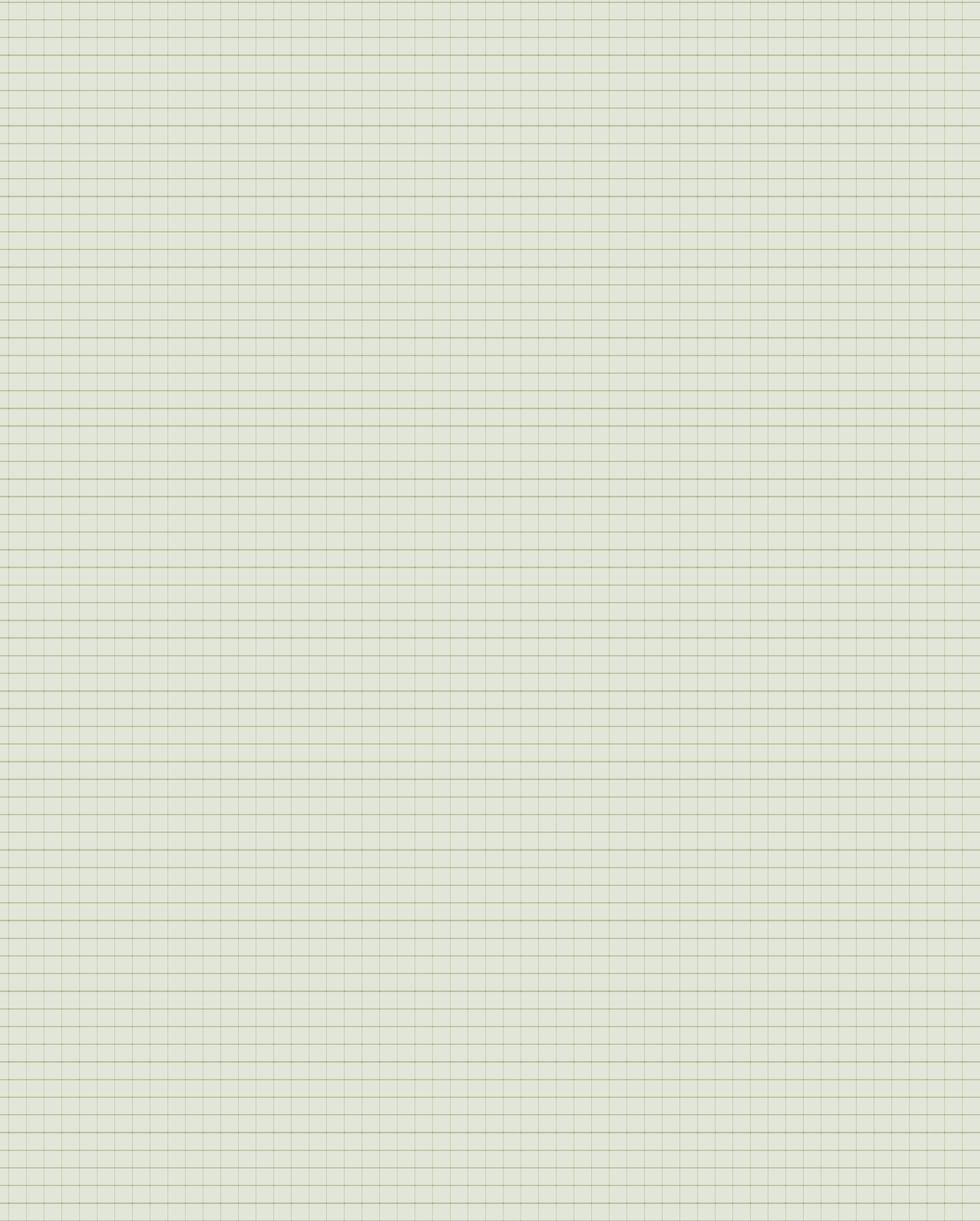
□ このうち、外国語習熟度は「海外生活経験」や「海外旅行経験」に代表させ、「近隣コミュニティ内の交流度」を「外国人との交流度」に代表させることとした。また、排外主義は単独ではなく、ナショナリズムを形成する愛国主義、純化主義とセットで取り扱う。

□ そのうえで、「外国人への寛容度」指標との相関係数を算出した。

□ 結果のポイントは以下のようにまとめられる。

- ・ 「外国人への寛容度」に最も影響を及ぼしているのは、「排外主義」である。ただし、マイナスの影響である。
- ・ 「愛国主義」は「外国人への寛容度」とプラスの相関関係にある。
プラスの影響を及ぼす項目のうち、影響度が強いのは「外国人との交流の程度」であり、以下、「被承認度」、「多様な住経験」と続く。
- ・ 「海外生活経験」や「海外旅行経験」より、「多様な住経験」の方がプラスの影響がある。
- ・ 「被承認度」は、今回の設定項目のうち、唯一、“外国人と直接には関係のない” 質問である。
- ・ その意味で、この相関係数の水準は相当に高いと考えてよいだろう。





PART 3 被承認意識の社会的効果

1 地域社会における被承認意識

① 住居タイプ別被承認意識

- 現在居住する住宅タイプ別に、被承認意識に差があるかを確認する。
- 日本人の場合、「自己所有」、その中でも「自己所有一戸建て」の「被承認意識あり・計」のスコアが高い。一方で、「賃貸」は同18%と低く、「被承認意識なし・計」の方が上回っている。
- 外国人も概ね同様の傾向である。「自己所有一戸建て」の「被承認意識あり・計」は約7割。また、「親族所有」の層も6割弱で高い。

■住宅タイプ別被承認意識(全体／単一回答)

Q41/Q23.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。

		被承認意識あり・計			被承認意識なし・計			被承認意識あり・計	被承認意識なし・計
		十分認められていると感じる	ある程度認められていると感じる	どちらともいえない	何となく認められていないと感じる	まったく認められていないと思う			
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	4.6%	26.1	44.8	12.1	12.5	30.7	24.6
住居タイプ別	自己所有	(n=960)	6.5	35.2	42.1	10.8	5.4	41.7	16.3
	自己所有一戸建て	(n=594)	7.9	39.7	38.4	8.8	5.2	47.6	14.0
	自己所有マンション	(n=366)	4.1	27.9	48.1	14.2	5.7	32.0	19.9
	賃貸	(n=755)	2.6	15.5	47.5	14.2	20.1	18.1	34.3
	親族所有	(n=255)	3.9	23.9	47.1	10.2	14.9	27.8	25.1
外国人・計		(n=1500)	9.0	35.5	34.0	13.1	8.4	44.5	21.5
住居タイプ別	自己所有	(n=235)	14.5	30.1	43.0	10.0	2.4	44.6	12.5
	自己所有一戸建て	(n=121)	28.3	41.0	20.6	6.6	3.4	69.3	10.1
	自己所有マンション	(n=115)	18.6	66.5	13.6	1.4		18.6	15.0
	賃貸	(n=1164)	8.1	35.2	32.8	13.5	10.3	43.4	23.8
	親族所有	(n= 87)	6.7	51.7	25.5	16.1		58.4	16.1
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

3_1_1

② 地域で頼れる友人の数がもたらす被承認意識

- 次に、地域で頼れる友人の数別に、被承認意識に差があるかを確認しよう。
- 日本人の場合、「頼れる友人あり」、その中でも「10人以上」の「被承認意識あり・計」のスコアが高い。一方で、「頼れる友人なし」は同9%と低く、「被承認意識なし・計」の方が大きく上回っている。
- つまり、親しい友人が多いほど、自分の住む地域でその一員として認められているという意識が高まっていることがいえる。
- 外国人も概ね同様の傾向である。

■地域で頼れる友人の数がもたらす被承認意識(全体／単一回答)

Q41/Q23.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。

		被承認意識あり・計			被承認意識なし・計			被承認意識あり・計	被承認意識なし・計
		十分認められていると感じる	ある程度認められていると感じる	どちらともいえない	何となく認められていないと感じる	まったく認められていないと思う			
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	4.6%	26.1	44.8	12.1	12.5	30.7	24.6
地域での友人の数別	頼れる友人なし	(n=708)	0.6	7.9	48.3	16.8	26.4	8.5	43.2
	頼れる友人あり	(n=1292)	6.8	36.0	42.9	9.5	4.8	42.8	14.3
	3人未満	(n=804)	4.1	27.6	50.5	11.2	6.6	31.7	17.8
	4～9人	(n=334)	9.0	47.9	33.5	8.1	1.5	56.9	9.6
	10人以上	(n=154)	16.2	53.9	23.4	3.9	2.6	70.1	6.5
外国人・計		(n=1500)	9.0	35.5	34.0	13.1	8.4	44.5	21.5
地域での友人の数別	頼れる友人なし	(n=248)	1.5	7.7	44.0	32.0	14.8	9.2	46.8
	頼れる友人あり	(n=1248)	10.5	41.0	32.0	9.3	7.2	51.5	16.5
	3人未満	(n=746)	7.5	37.3	34.7	10.1	10.5	44.8	20.6
	4～9人	(n=355)	11.8	54.6	24.5	8.6	0.5	66.3	9.2
	10人以上	(n=148)	22.9	27.3	36.3	7.0	6.5	50.2	13.5
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				3_1_2

③ 地域での交流の活発さがもたらす被承認意識

- 最後に、地域での交流の活発さ別に、被承認意識に差があるかを確認する。
- 「交流の活発さ」別に大きな差がみられる項目である。日本人の場合、「交流が盛ん・計」の「被承認意識あり・計」は7割弱と高い。一方で、「交流がない・計」は同12%と低く、「被承認意識なし・計」の方が上回っている。
- 外国人も概ね同様の傾向である。「交流が盛ん・計」の「被承認意識あり・計」は7割を超えている。
- 因果関係はわからないが、住民同士の交流が盛んな地域・集合住宅に住んでいる人は、自分の住む地域でその一員として認められているという意識が高いことがわかる。

■地域での交流の活発さがもたらす被承認意識(全体／単一回答)

Q41/Q23.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。

		被承認意識あり・計			被承認意識なし・計			被承認意識あり・計	被承認意識なし・計
		十分認められていると感じる	ある程度認められていると感じる	どちらともいえない	何となく認められていないと感じる	まったく認められていないと思う			
●凡例									
日本人・計		(n=2000)	4.6%	26.1	44.8	12.1	12.5	30.7	24.6
地域での交流の活発さ別	交流が盛ん・計	(n=420)	15.5	54.3	21.9	5.7	2.6	69.8	8.3
	どちらともいえない	(n=691)	2.5	28.2	56.7	8.1	4.5	30.7	12.6
	交流がない・計	(n=889)	1.1	11.0	46.3	18.2	23.3	12.1	41.5
外国人・計		(n=1500)	9.0	35.5	34.0	13.1	8.4	44.5	21.5
地域での交流の活発さ別	交流が盛ん・計	(n=552)	22.1	52.7	20.2	3.6	1.4	74.7	5.1
	どちらともいえない	(n=434)	2.7	39.4	43.5	11.9	2.5	42.2	14.4
	交流がない・計	(n=514)	0.3	13.7	40.8	24.3	20.9	13.9	45.3
※日本人・計/外国人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				3_1_3

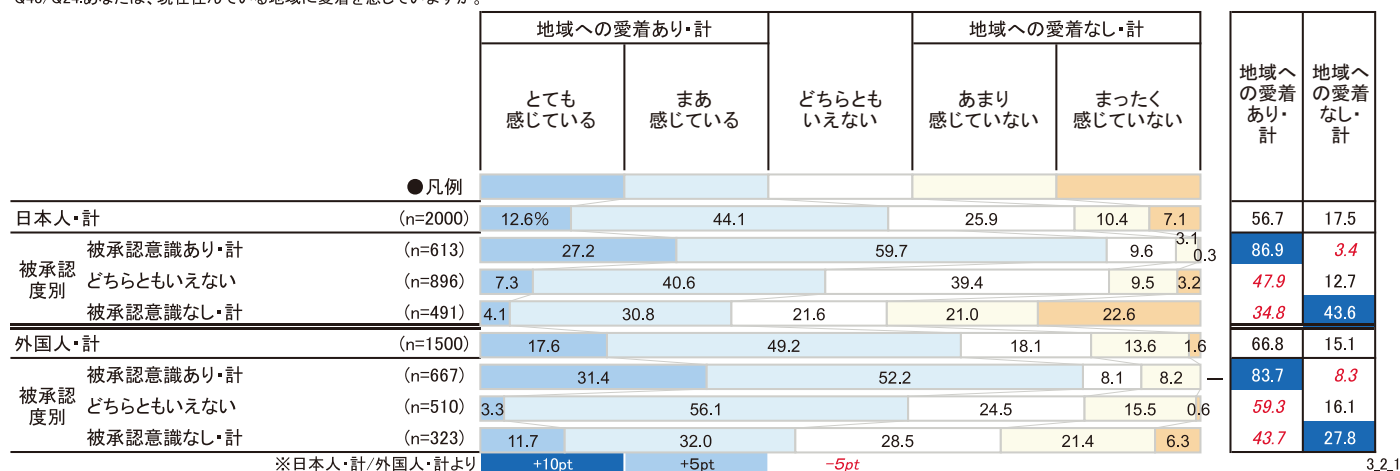
2 被承認意識の効果

① 地域への愛着度

- 自分の住むエリアに愛着を感じているかを聞いたところ、「とても感じている」と「まあ感じている」とを合わせた、「地域への愛着あり・計」は57%であり、「地域への愛着なし・計」18%を40ポイント程度上回っている。
- 「自分の住む地域への愛着度」と、自分自身の「被承認度」との関係を見た。
- 日本人の「被承認意識あり・計」層の、「地域への愛着あり・計」は87%に達する。「どちらともいえない」層は48%、「被承認意識なし・計」層は35%にとどまり、その差は極めて大きい。自らを認めてくれるコミュニティには愛着が増す、というのは極めて自然な道理だが、そのスコア差に注目すべきである。

■地域への愛着度(全体／単一回答)

Q43/Q24.あなたは、現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。



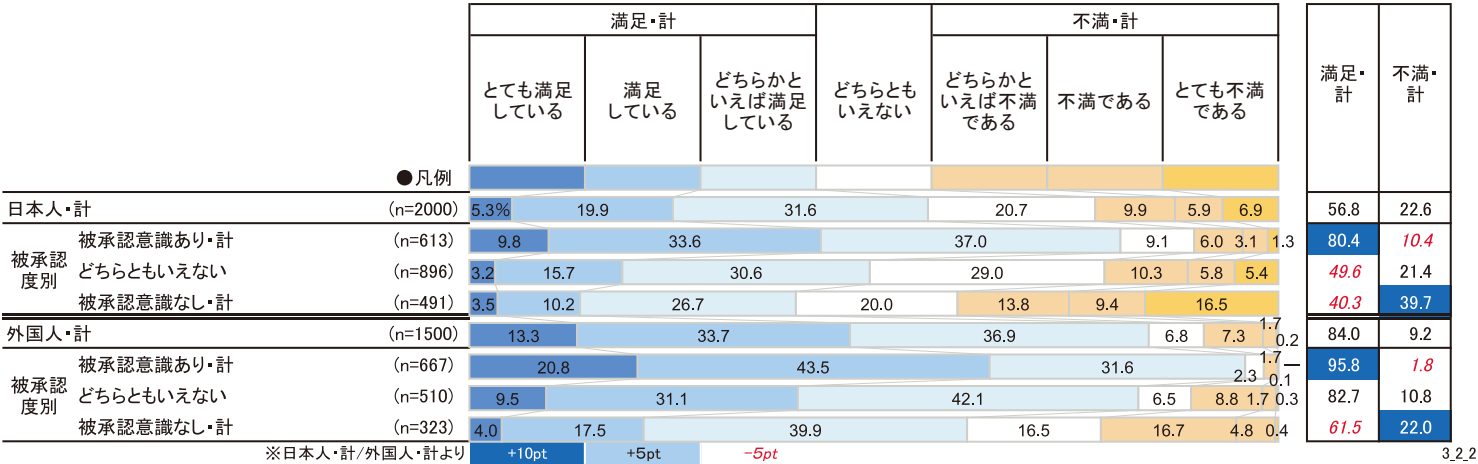
3.2_1

② 生活満足度

- Part1でみたように、日本人全体の日頃の生活の満足度は57%。
- 日本人を「被承認度」別にみると、「日頃の生活満足度」との相関の高さを確認できる。「被承認意識あり・計」の層の「満足・計」は8割に達している。
- 同様に、在日外国人の日頃の生活の満足度は84%。
- 在日外国人を「被承認度」別にみると、「被承認意識あり・計」の層の「満足・計」は96%であり、ほぼ全員が満足していると回答しているのに対し、「どちらともいえない」では83%、「被承認意識なし・計」では62%まで下がる。「不満・計」のスコアも、被承認度が上がるにつれて下がっており、相関が高い。
- 日本人だけでなく外国人も、「自分が住んでいる地域で承認されていると感じること」が、生活満足度に影響を及ぼしていることがわかる。

■生活満足度(全体／単一回答)

Q28/Q13.あなたは現在の生活に、どの程度満足していますか。



3_2_2

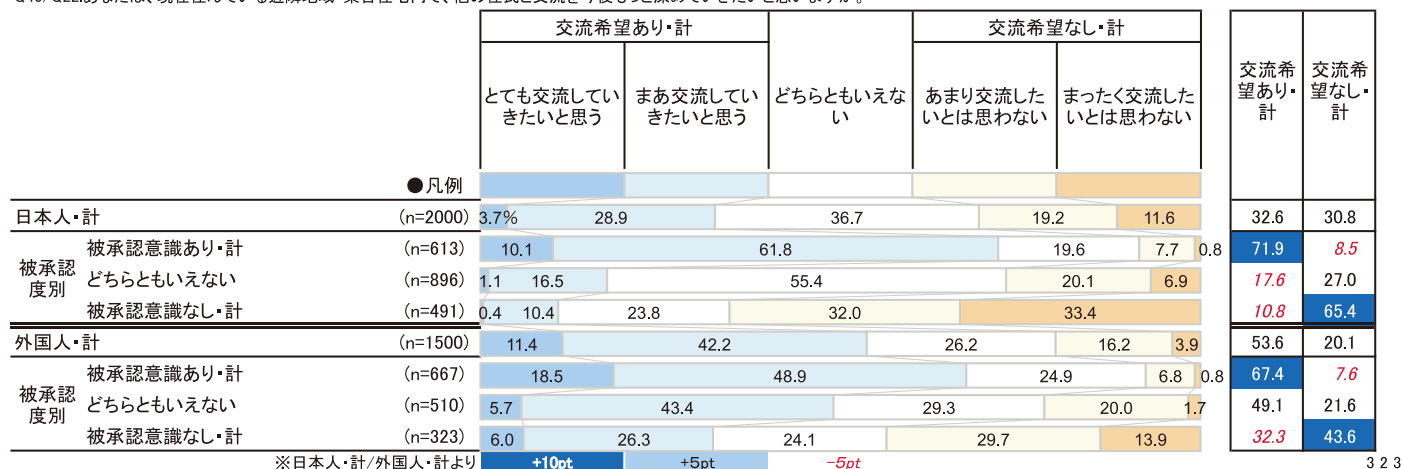
2 被承認意識の効果

③ 地域での今後の交流希望

- 日本人の場合、「被承認度」が高くなるにつれ、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内での他の住民との交流を希望する者が多い。特に、「被承認意識あり・計」と「どちらともいえない」の差は大きく、明確に認められることの重要性がわかる。
- 自分の住む地域でその一員として認められていないと感じる在日外国人（「被承認意識なし・計」層）は、「交流希望あり・計」より「交流希望なし・計」のスコアが高いが、それでも「交流希望あり・計」が3割を超えていることは注目されよう。

■地域での今後の交流希望(全体／単一回答)

Q40/Q22.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内で、他の住民と交流を今後もっと深めていきたいと思いませんか。

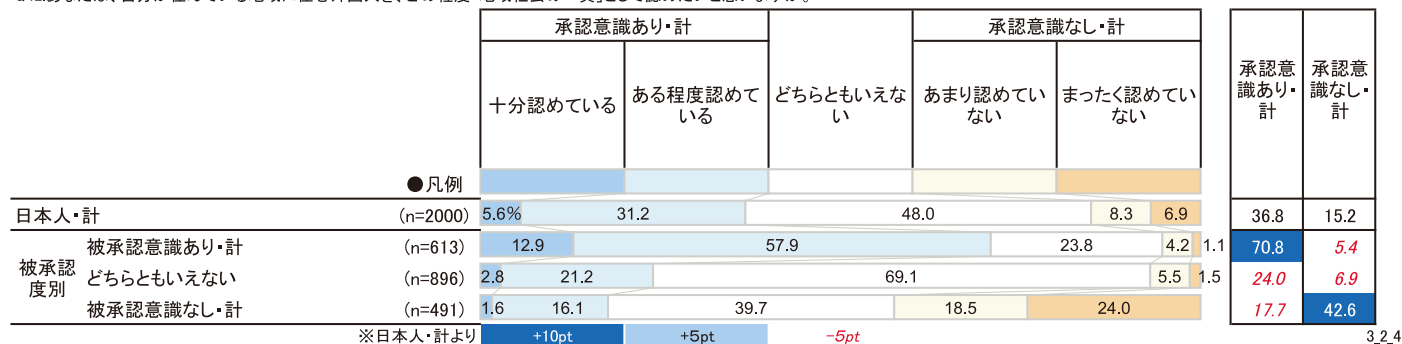


④ 外国人の承認度

- 日本人は、在日外国人をどの程度コミュニティの一員として認めているだろうか。
- 「十分認めている」と「ある程度認めている」とを合わせた、「承認意識あり・計」は37%。前項でみた、在日外国人の「被承認意識あり・計」(45%)の方が高い。
- これを「被承認度」別にみると、「被承認意識あり・計」層の、外国人に対する「承認意識あり・計」は71%に達する。「どちらともいえない」層は24%、「承認意識なし・計」層は18%にとどまり、その差は大きい。自らが認められることの重要性が確認できるデータである。

■外国人の承認度(全体／単一回答)

Q42.あなたは、自分が住んでいる地域に住む外国人を、どの程度「地域社会の一員」として認めたいと思いませんか。

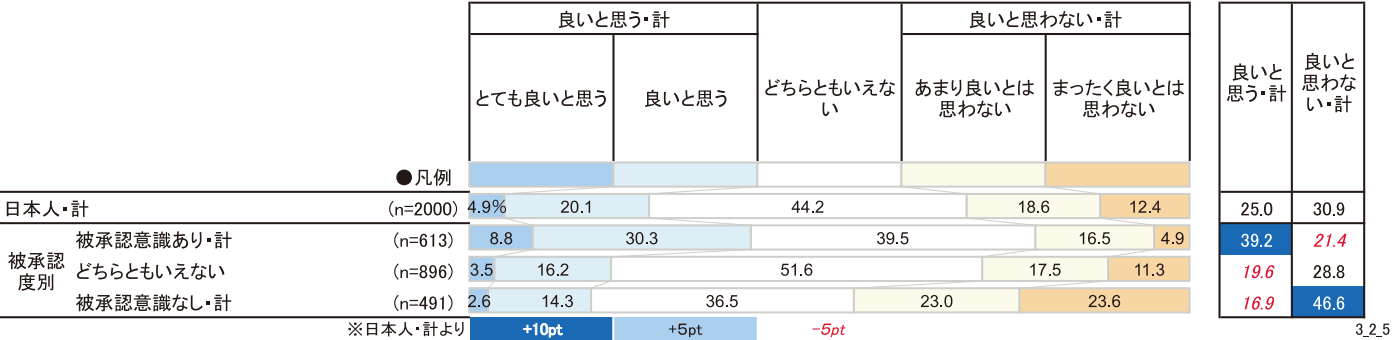


⑤ 外国人増加への評価

- 外国人が増えることの評価についても、被承認度との関係をみよう。前述したように、日本人全体では、外国人増加について、「とても良いと思う」と「良いと思う」を合わせた「良いと思う・計」は25%。
- これを、「被承認度」別にみると、「被承認意識あり・計」の層では、「良いと思う・計」が4割を占め、「良いと思わない・計」の2倍近いスコアである。両者の相関も高い。

■外国人増加への評価(全体／単一回答)

Q24.あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか。



PART 4 外国人との交流による社会的効果

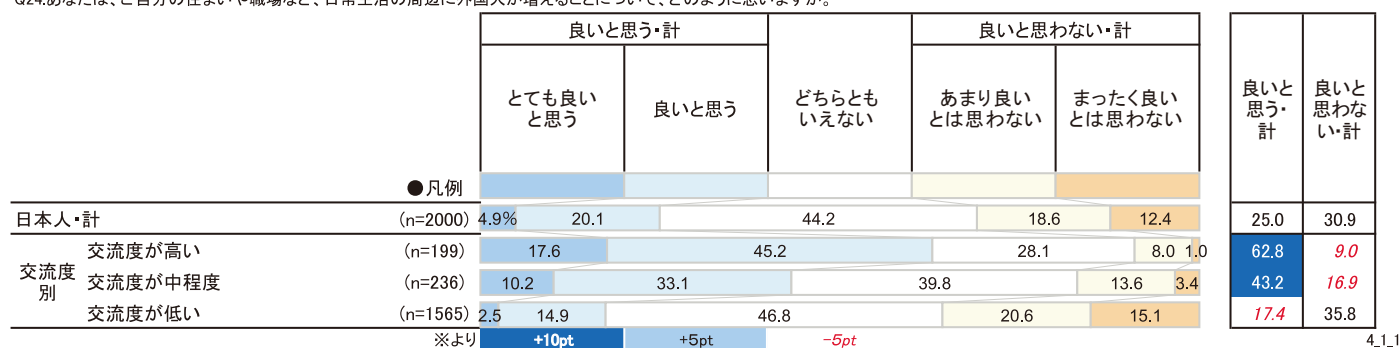
1 外国人に対するまなざしの変化

① 外国人増加への評価

- 外国人が増えることの評価を、今度は外国人との「交流度」別にみると、「交流度が高い」層では「良いと思う・計」が63%であり、「良いと思わない・計」は9%に過ぎない。「交流度が中程度」層でも「良いと思う・計」が43%で、「良いと思わない・計」を大きく上回っている。

■外国人増加への評価(全体／単一回答)

Q24.あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか。



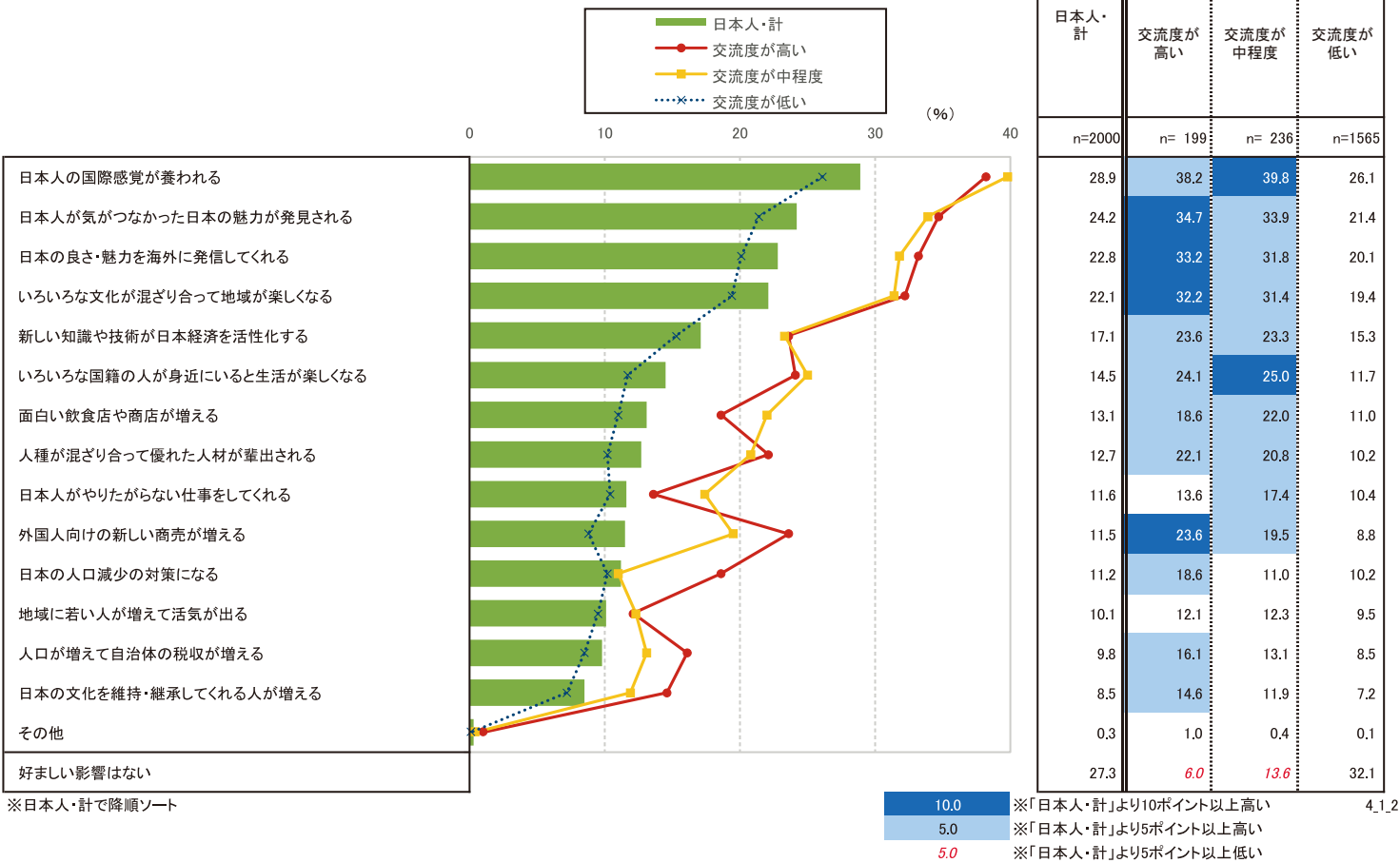
4.1.1

② 外国人増加へのポジティブな評価

- 外国人が増えることへの肯定的評価について、「外国人との交流度」別にみると、「日本人が気がつかなかった日本の魅力が発見される」、「日本の良さ・魅力を海外に発信してくれる」、「いろいろな文化が混ざり合って地域が楽しくなる」などをはじめ、交流度が高いほどスコアも高くなる項目が多い。
- ただし、「日本人がやりたがらない仕事をしてくれる」、「面白い飲食店や商店が増える」など、「交流度が中程度」層のスコアが高い項目もある。

■外国人増加へのポジティブな評価(全体／複数回答)

Q25.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましい影響がある」と思うのはどのようなことですか。



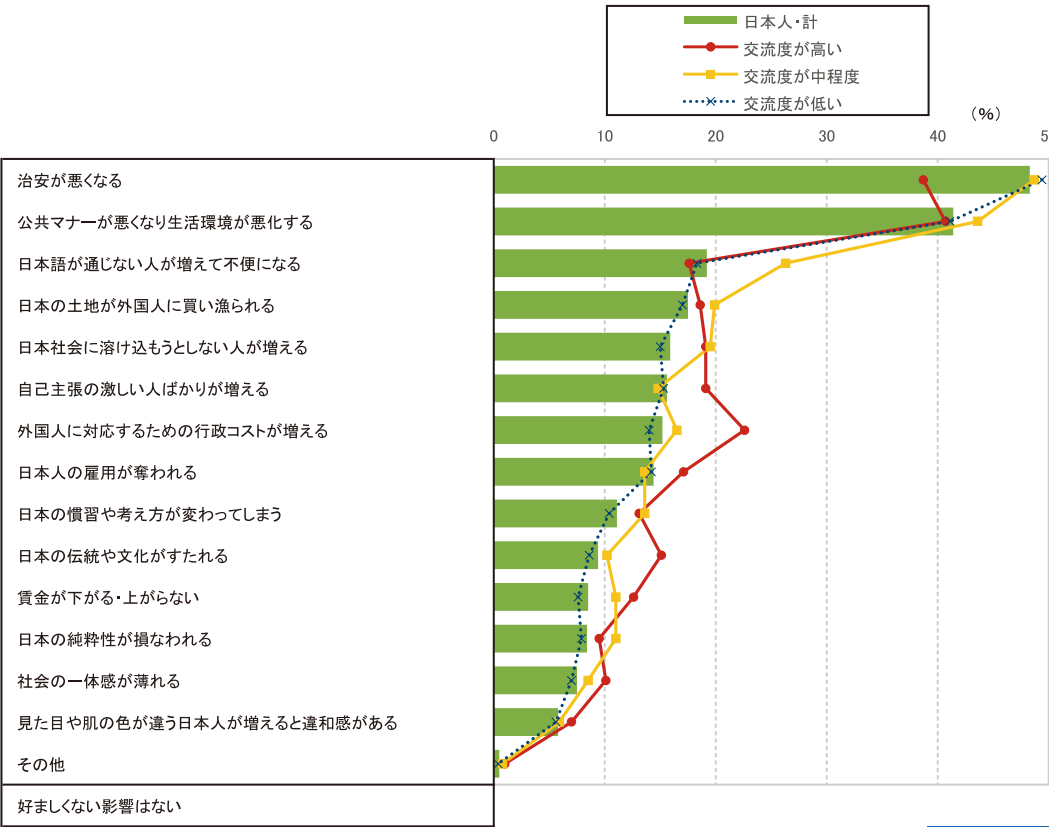
1 外国人に対するまなざしの変化

③ 外国人増加へのネガティブな評価

□ 外国人が増えることへの否定的評価について、「外国人との交流度」別にみると、「治安が悪くなる」こそ、交流度の低い層のスコアが高いが、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」は、交流度別に差はない。その他の項目では、「交流度が高い」層のスコアが最も高い項目（「外国人に対応するための行政コストが増える」や「日本の伝統や文化がすたれる」など）も多い。

■外国人増加へのネガティブな評価(全体／複数回答)

Q26.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましくない影響がある」と思うのはどのようなことですか。



※日本人・計で降順ソート

日本人・計	交流度別		
	交流度が 高い	交流度が 中程度	交流度が 低い
n=2000	n= 199	n= 236	n=1565
48.3	38.7	48.7	49.4
41.4	40.7	43.6	41.1
19.2	17.6	26.3	18.3
17.5	18.6	19.9	17.0
15.9	19.1	19.5	15.0
15.6	19.1	14.8	15.3
15.2	22.6	16.5	14.0
14.4	17.1	13.6	14.2
11.1	13.1	13.6	10.4
9.4	15.1	10.2	8.6
8.5	12.6	11.0	7.6
8.4	9.5	11.0	7.9
7.5	10.1	8.5	7.0
5.8	7.0	5.9	5.6
0.5	1.0	0.8	0.4
21.6	12.6	14.8	23.8

10.0 ※「日本人・計」より10ポイント以上高い
5.0 ※「日本人・計」より5ポイント以上高い
5.0 ※「日本人・計」より5ポイント以上低い

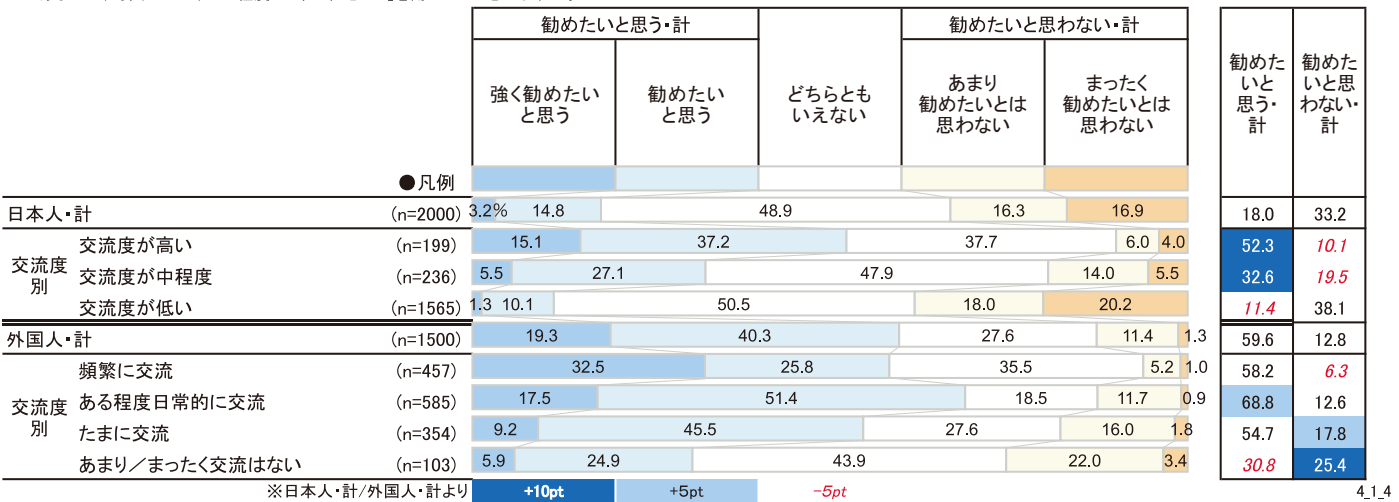
④ 「日本」推奨意向

- 日本に住んでいない外国人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいかの質問に対して、日本人全体では、「強く勧めたいと思う」と「勧めたいと思う」を合わせた、「勧めたいと思う・計」が18%であり、「勧めたいと思わない・計」の33%を15ポイント程度下回っている。
- これを「外国人との交流度」別にみると、「交流度が高い」層では「勧めたいと思う・計」が過半数、「交流度が中程度」層でも33%である。両者とも「勧めたいと思わない・計」を大きく上回っている。
- 一方、母国の人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいかの質問に対して、在日外国人全体では、「強く勧めたいと思う」と「勧めたいと思う」を合わせた、「勧めたいと思う・計」が60%であり、「勧めたいと思わない・計」の13%を大きく上回っている。
- これを「日本人との交流度」別にみると、「頻繁に交流」の層より、「ある程度日常的に交流」の層の「勧めたいと思う・計」の方が高くなっている。交流度が高いほど「勧めたいと思わない・計」のスコアは減少し、一定の相関はあるが、交流度が高いからといって、ストレートに日本を推奨してくれるわけではないという点には注意が必要だろう。

■「日本」推奨意向(全体／単一回答)

Q27.あなたは、日本に住んでいない外国人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいと思いますか。

Q12.あなたは、母国の人に、どの程度「日本に住むこと」を勧めたいと思いますか。



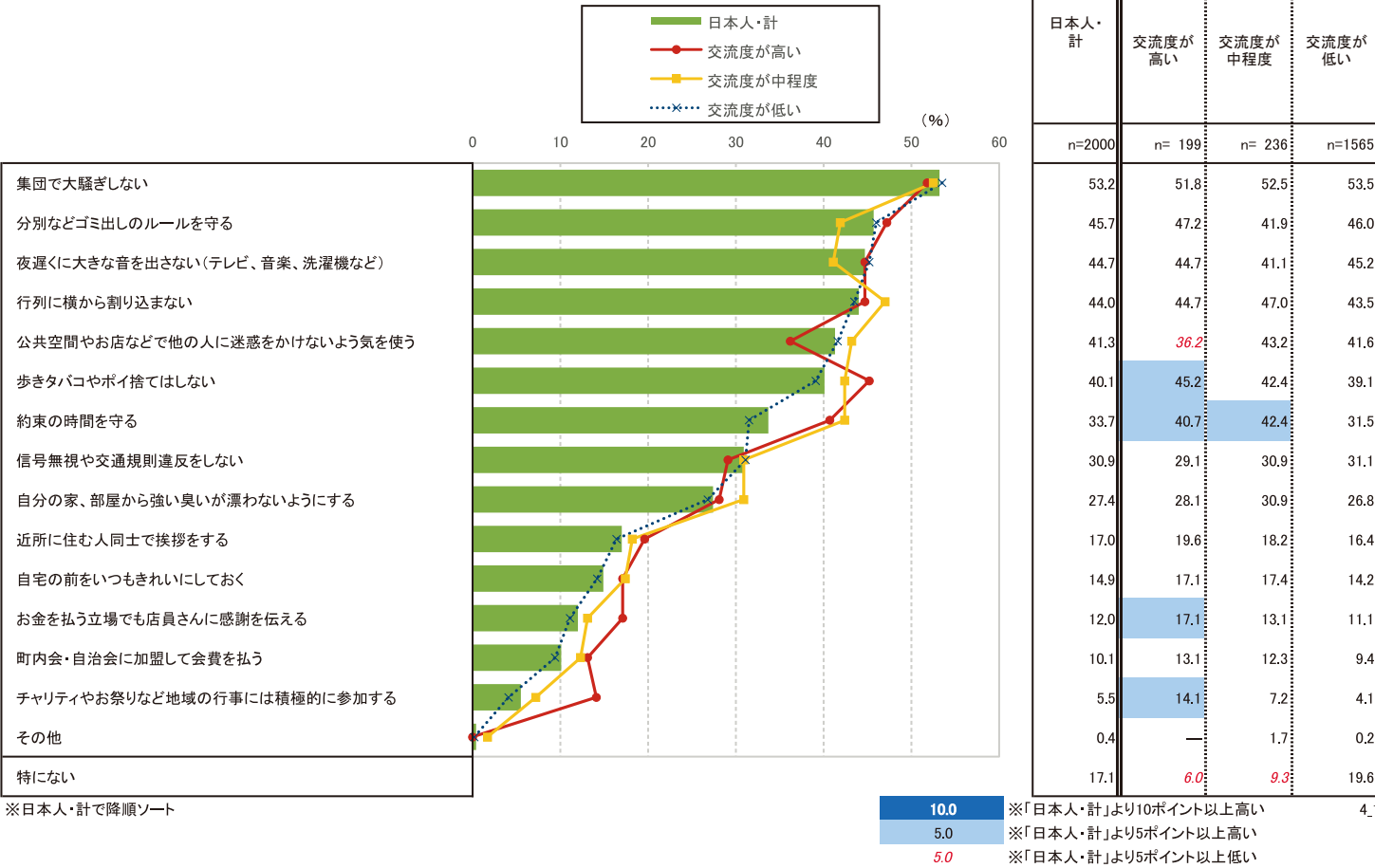
1 外国人に対するまなざしの変化

⑤ 日本人が外国人に守ってほしいこと

- 「在日外国人に守ってほしいこと」を、「外国人との交流度」別にみると、「交流度」が高ければスコアが上昇するなどの、一律の傾向はみられない。
- 「交流度が高い」層のスコアが高いのは、「歩きタバコやポイ捨てはしない」、「約束の時間を守る」、「お金を払う立場でも店員さんに感謝を伝える」、「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」などである。

■ 日本人が外国人に守ってほしいこと(全体／複数回答)

Q23.あなたが、日本に住んでいる外国人に、守ってほしいのはどのようなことですか。



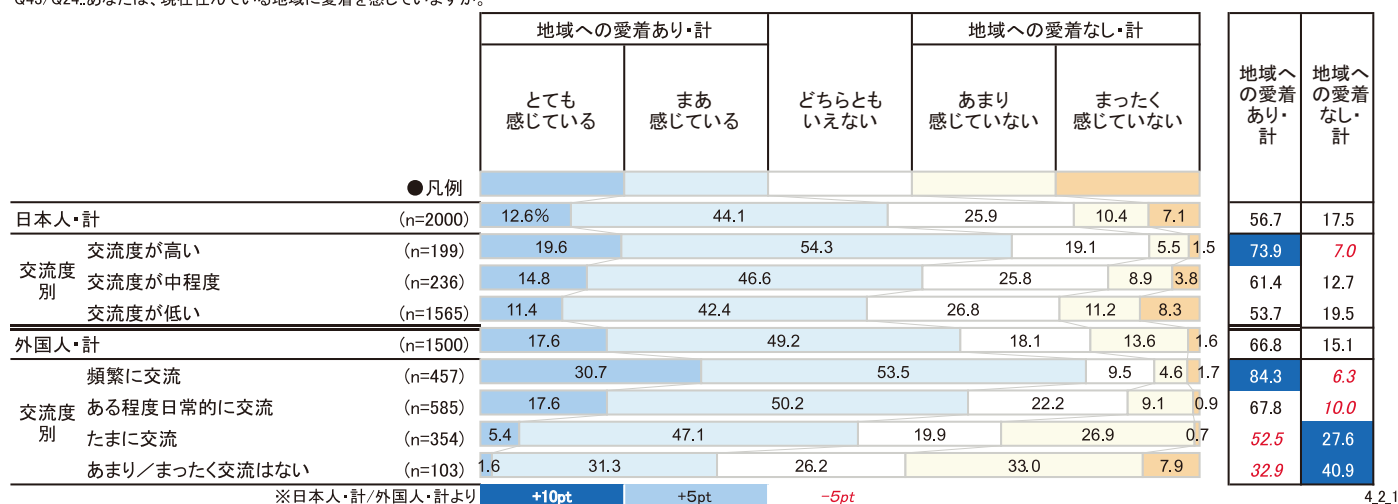
2 日本人自身の意識変化

① 地域への愛着度

- 地域への愛着度を、「外国人との交流度」別にみると、交流度が高ければ地域への愛着度も高いというリニアな関係があることがわかる。
「交流度が高い」層の「地域への愛着あり・計」は74%であり、全体値より15ポイント以上高い。

■地域への愛着度(全体／単一回答)

Q43/Q24.あなたは、現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。

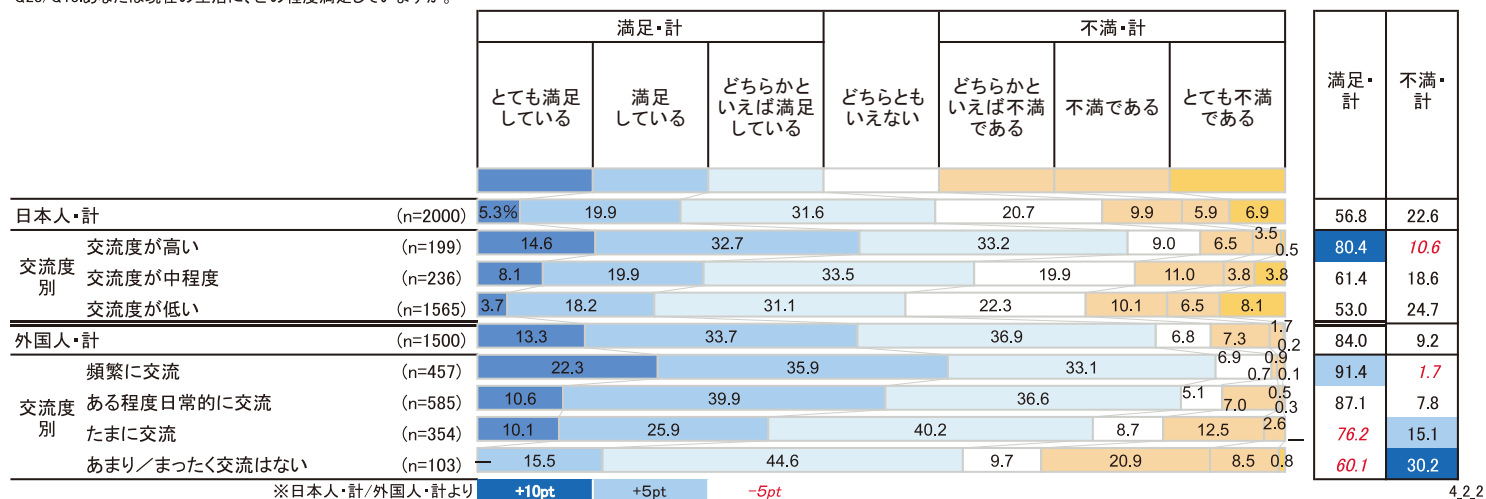


② 生活満足度

- 生活満足度を、「外国人との交流度」別にみると、「交流度が高い」層の「満足・計」は8割に達する。「交流度が中程度」層も6割を超えている。因果の順序、および直接の要因かどうかは不明ではあるが、「外国人との交流度」と「日頃の生活満足度」との相関は高い。

■生活満足度(全体／単一回答)

Q28/Q13.あなたは現在の生活に、どの程度満足していますか。



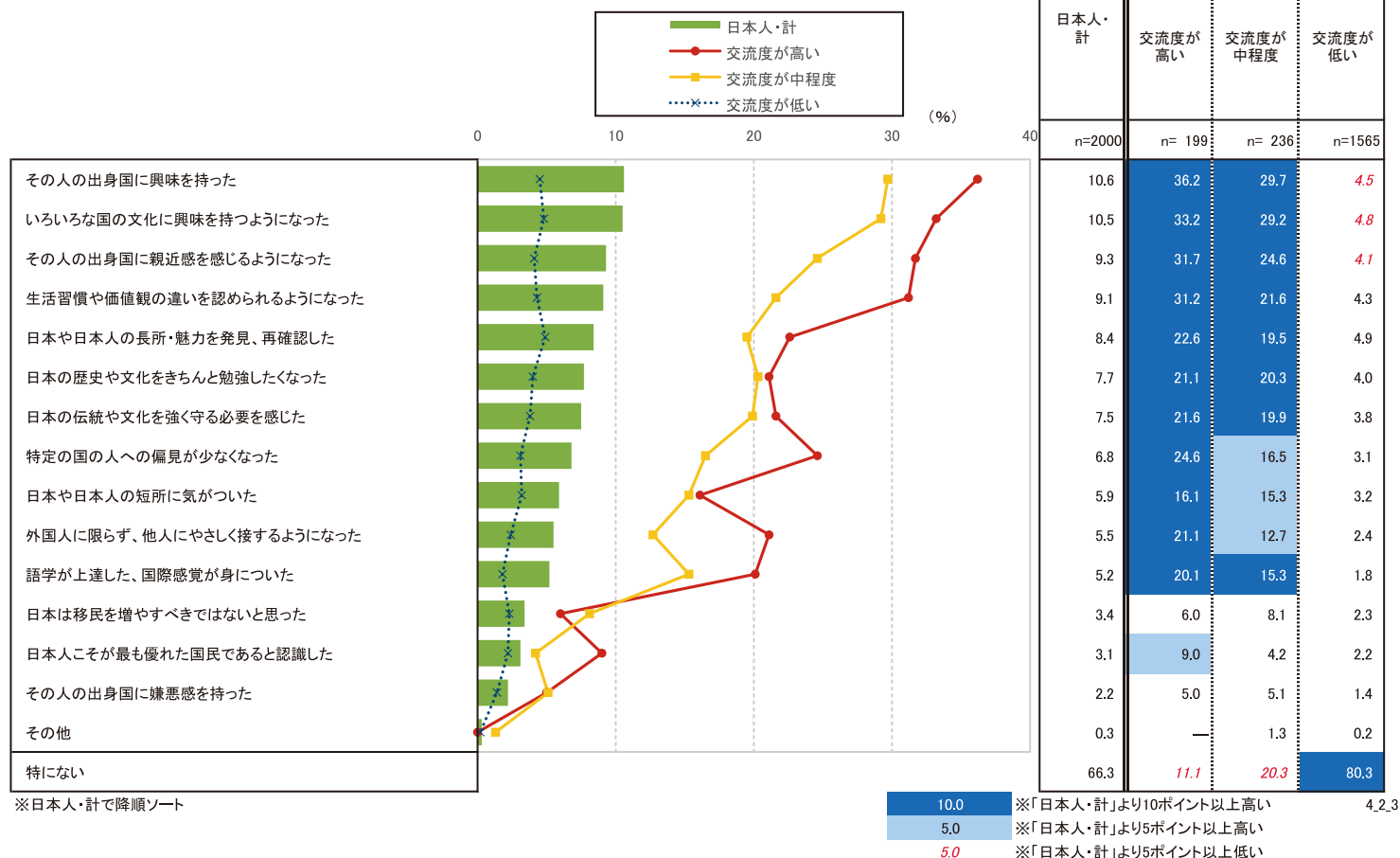
2 日本人自身の意識変化

③ 外国人との交流で日本人の何が変わったか

- 外国人との交流後に変化した項目は、全体値ではそれほど高いスコアではない。「その人の出身国に興味を持った」、「いろいろな国の文化に興味を持つようになった」、「その人の出身国に親近感を感じるようになった」、「生活習慣や価値観の違いを認められるようになった」などが10%前後で並んでいる。
- これを「外国人との交流度」別にみると、交流度高くなるにつれて各項目のスコアも上昇する。
- 特に、「交流度が高い」層の「その人の出身国に興味を持った」、「いろいろな国の文化に興味を持つようになった」、「その人の出身国に親近感を感じるようになった」、「生活習慣や価値観の違いを認められるようになった」は3割を超えている。
- また、「日本や日本人の長所・魅力を発見、再確認した」や「日本の歴史や文化をきちんと勉強したくなった」、「日本の伝統や文化を強く守る必要を感じた」など、自らの再発見に関連する項目も2割以上のスコアがある。

■外国人との交流後の変化(全体／複数回答)

Q16.あなたは、外国人の知人・友人とつきあって、どのような変化がありましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

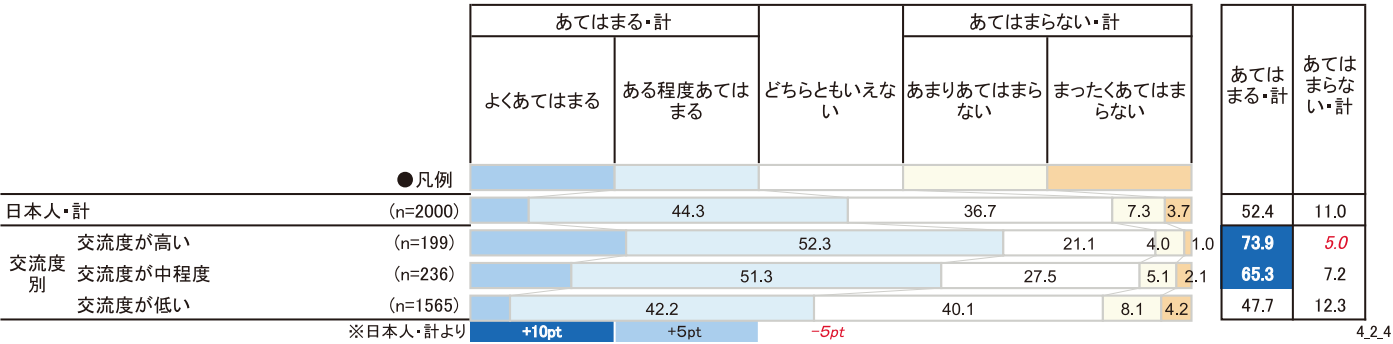


4 一般的寛容度

- 一般的寛容度の指標、「自分と価値観や判断が異なる人の存在や意見をなるべく認めようとしている」を、「外国人との交流度」別にみると、「交流度が高い」層の「あてはまる・計」のスコアは74%であり、全体値を20ポイント以上上回っている。
- 「外国人との交流度」が高くなるにつれ、「あてはまる・計」のスコアが上昇し、「あてはまらない・計」のスコアが減少することから、相関が高い。
- つまり、外国人に寛容であることは、一般の人への寛容さにもつながっていることがわかる。

■ 一般的寛容度指標：自分と価値観や判断が異なる人の存在や意見をなるべく認めようとしている（全体／単一回答）

Q30.あなたの日頃の様子についてお伺いします。以下にあげることは、どの程度ご自分にあてはまりますか。

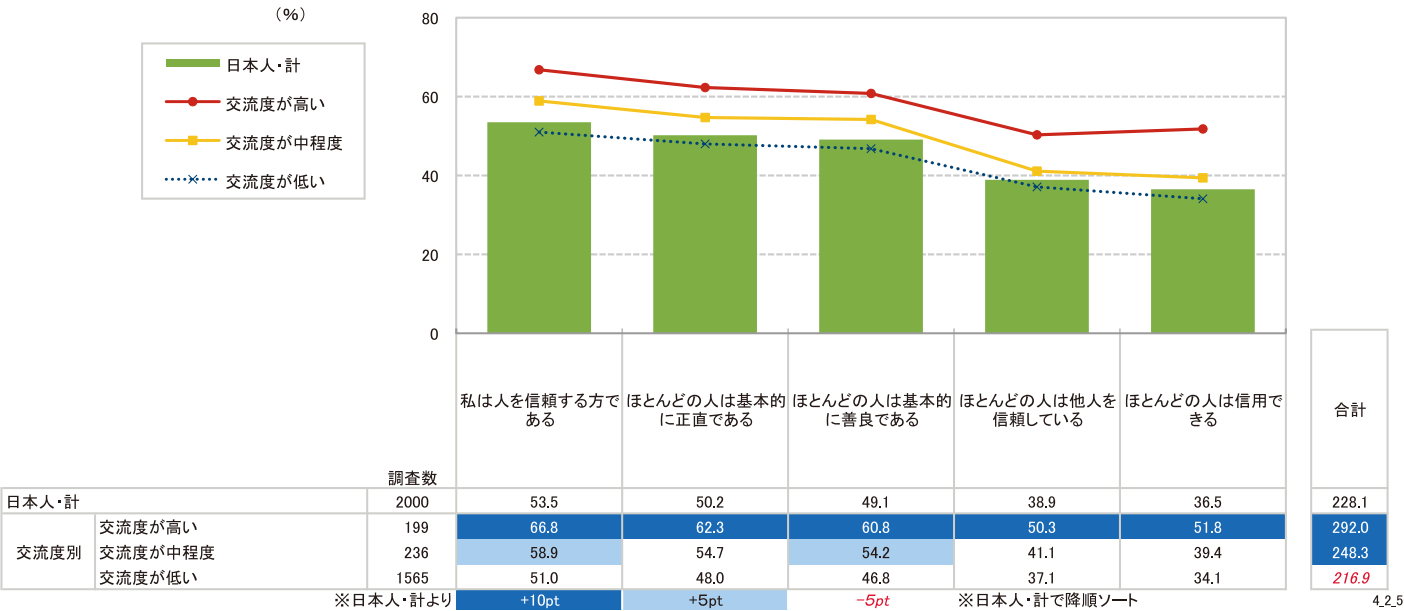


5 一般的信頼度

- 「外国人との交流度」が高い層ほど、一般的信頼度の各指標の「あてはまる・計」のスコアが高い。「交流度が高い」層は、すべての指標で「あてはまる・計」が5割を超えている。

■ 一般的信頼度【あてはまる・計】（全体／単一回答）

Q29.以下にあげる考え方に対して、あなたの考え方はどの程度あてはまりますか。



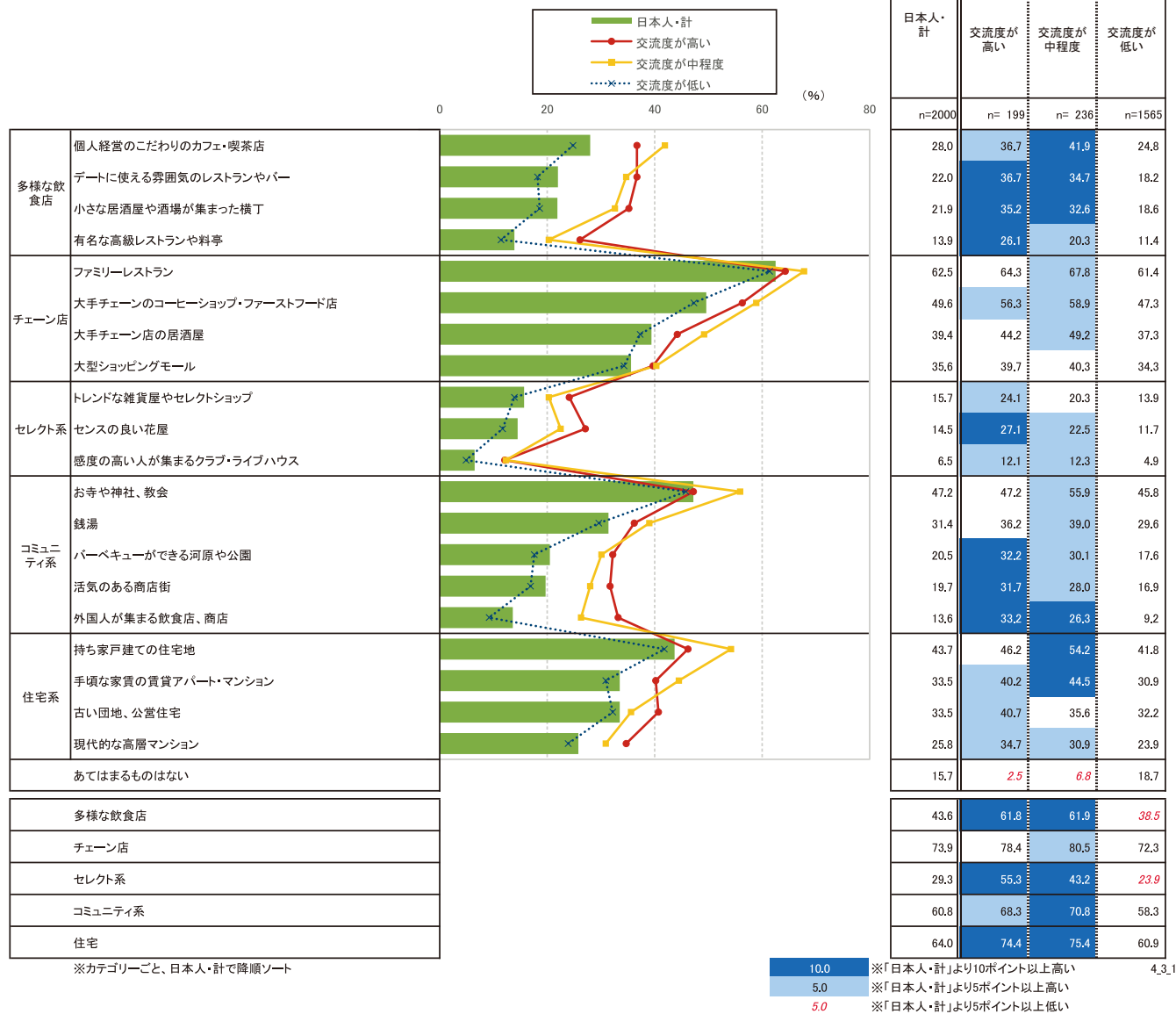
3 外国人との交流を生むまちづくり

① 都市のエLEMENT

- 「外国人との交流度」別にみると、「多様な飲食店」に属する場所は、総じて交流度が高い層ほどスコアも高いが、「チェーン店」に分類される場所は、「交流度が中程度」の層のスコアが高く、必ずしも活発な交流に不可欠なものとはいえないようだ。
- その他、「交流度が高い」層のスコアが高いのは、『セレクト系』の「トレンドな雑貨屋やセレクトショップ」、「センスの良い花屋」、「コミュニティ系」の「活気のある商店街」、「バーベキューができる河原や公園」、「外国人が集まる飲食店、商店」、「住宅系」の「現代的高層マンション」、「古い団地、公営住宅」などである。
- これらの結果は、2015年に刊行した『官能都市』（HOME'S 総研）の分析と概ね符合する。つまり、官能（sensuous）度の高いエリアにある場所として共通するものが多い。

■都市のエLEMENT(全体／複数回答)

Q13.あなたのお住まいから気軽に行けるエリアに、以下のような場所がありますか。ある場所をすべてお選びください。



※カテゴリーごと、日本人・計で降順ソート

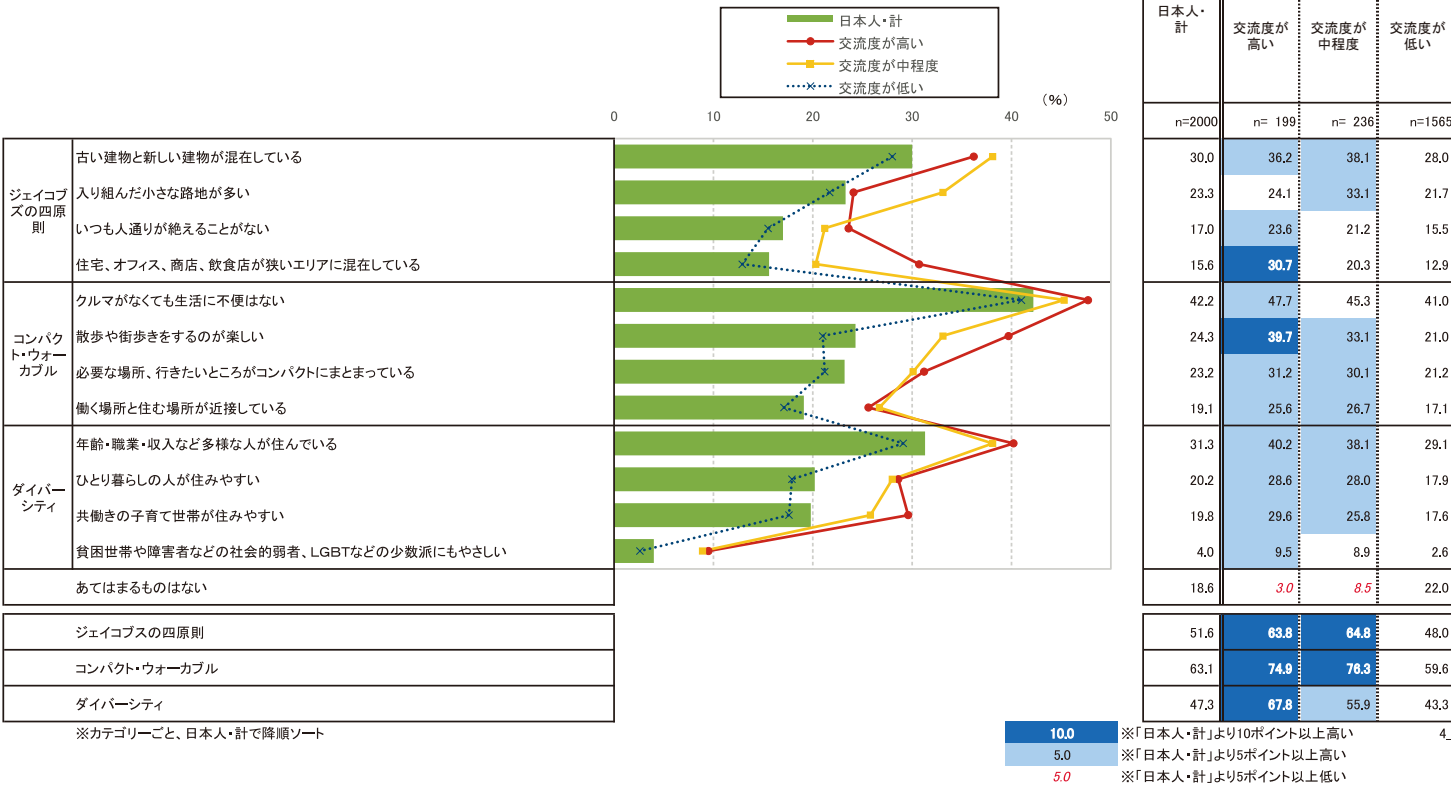
4_3_1

② 都市のキャラクター

- 「外国人との交流度」別にみると、「ジェイコブスの四原則」のうち、「住宅、オフィス、商店、飲食店が狭いエリアに混在している」、「いつも人通りが絶えることがない」は、交流度が高くなるにつれスコアも上昇する。
- 同様に、「コンパクト・ウォーカブル」に属する項目では、「散歩や街歩きをするのが楽しい」、「必要な場所、行きたいところがコンパクトにまとまっている」、「クルマがなくても生活に不便はない」が、「ダイバーシティ」に属する項目では、すべての項目が、交流度が高いほどスコアも高い。

■都市のキャラクター(全体／複数回答)

Q14.あなたの住まいの近隣の地域は、どのようなところですか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。



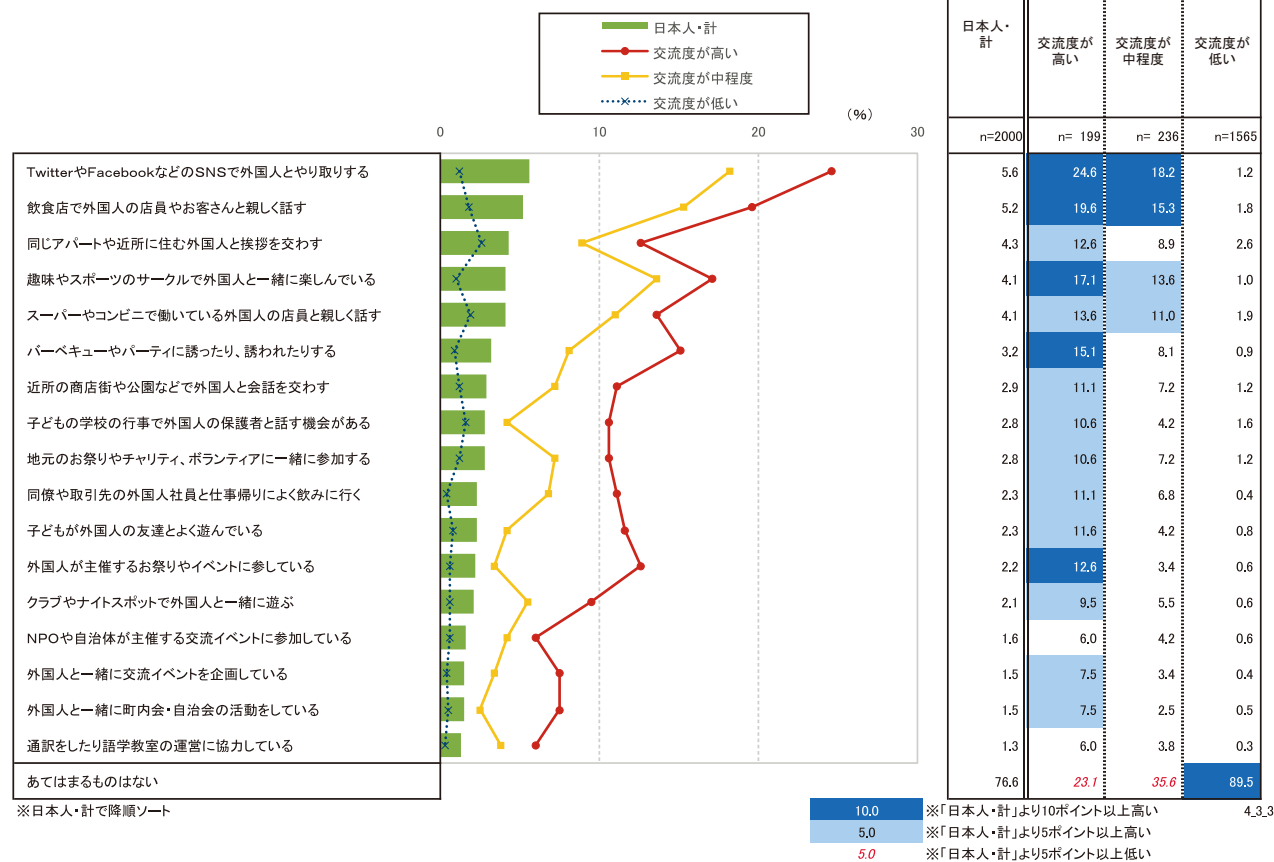
3 外国人との交流を生むまちづくり

③ 都市のエクスペリエンス

- 「外国人との交流度」別にみると、すべての項目において、交流度が高くなるにつれスコアも上昇する。
- 特に、「外国人が主催するお祭りやイベントに参加している」や「子どもが外国人の友達とよく遊んでいる」、「バーベキューやパーティに誘ったり、誘われたりする」、「TwitterやFacebookなどのSNSで外国人とやり取りする」などは、「交流度が高い」層と「交流度が中程度」層との差が大きい。

■都市のエクスペリエンス(全体／複数回答)

Q15.あなたは普段の生活において、日本に住んでいる外国人とどのような交流をしていますか。あてはまるものすべてをお選びください。

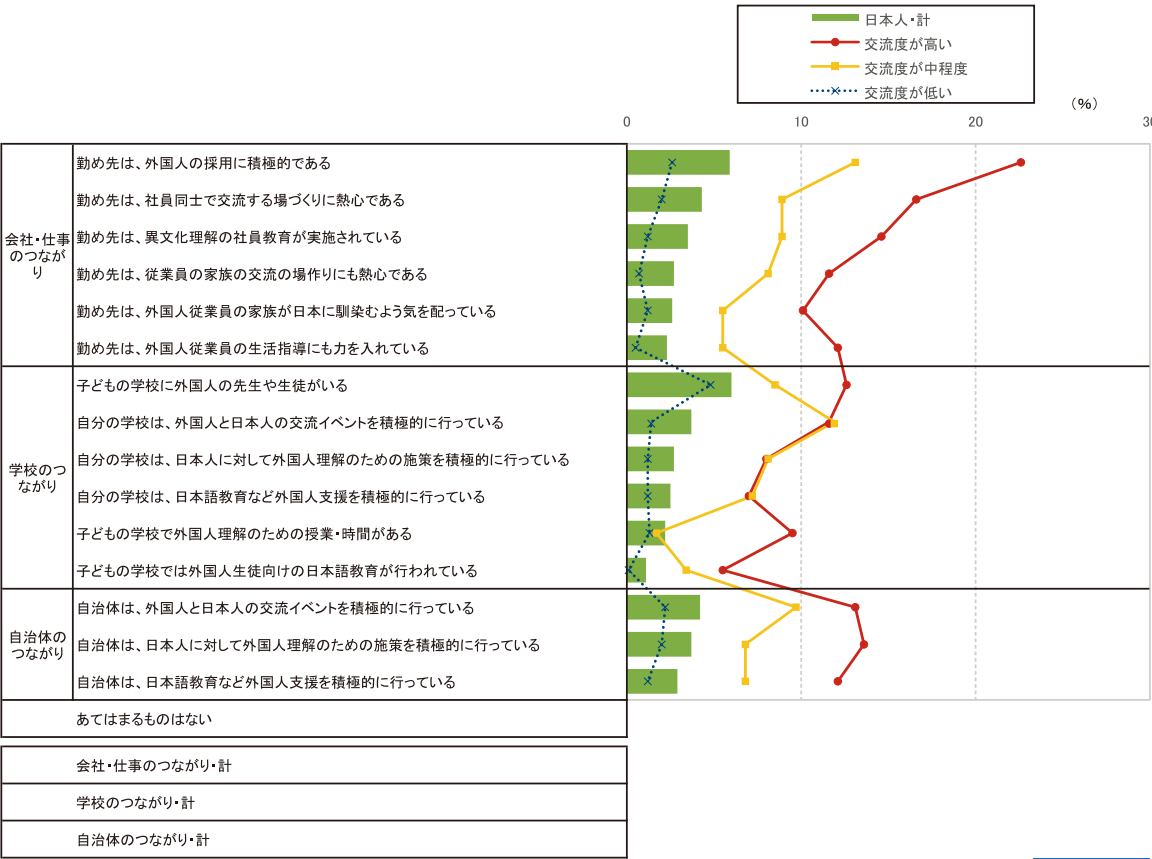


4 政策努力

- 「外国人との交流度」別にみると、すべての項目において、交流度が高くなるにつれスコアも上昇する。
- 特に、「勤め先は、外国人の採用に積極的である」、「勤め先は、社員同士で交流する場づくりに熱心である」などの勤務先の対応、「子どもの学校で外国人理解のための授業・時間がある」の学校の取り組み、「自治体は、日本人に対して外国人理解のための施策を積極的にやっている」の自治体の施策は、「交流度が高い」層と「交流度が中程度」層との差が大きい。

■政策努力(全体／複数回答)

Q12.あなたの普段の仕事や生活の環境はどのようなものですか。あてはまるものすべてをお選びください。



※カテゴリーごと、日本人・計で降順ソート

日本人・計	交流度別		
	交流度が高い	交流度が中程度	交流度が低い
n=2000	n= 199	n= 236	n=1565
5.9	22.6	13.1	2.6
4.3	16.6	8.9	2.0
3.5	14.6	8.9	1.2
2.7	11.6	8.1	0.7
2.6	10.1	5.5	1.2
2.3	12.1	5.5	0.5
6.0	12.6	8.5	4.8
3.7	11.6	11.9	1.4
2.7	8.0	8.1	1.2
2.5	7.0	7.2	1.2
2.2	9.5	1.7	1.3
1.1	5.5	3.4	0.1
4.2	13.1	9.7	2.2
3.7	13.6	6.8	2.0
2.9	12.1	6.8	1.2
74.2	27.6	45.8	84.4
12.6	44.7	28.0	6.2
11.6	29.1	24.6	7.4
7.3	24.6	16.1	3.7

10.0 ※「日本人・計」より10ポイント以上高い 4.3, 4
5.0 ※「日本人・計」より5ポイント以上高い
5.0 ※「日本人・計」より5ポイント以上低い

3 外国人との交流を生むまちづくり

⑤ ホームステイ受入意向

□ ホームステイを希望する外国人を、どの程度受け入れたいかを質問した。

⇒ なお、「家賃収入と同等のホームステイ費が支払われること」、「現在、持家に住んでいない人も自宅を購入したとして回答すること」を条件としている。

□ 「ぜひ受け入れたい」と「受け入れたい」を合わせた「受入意向あり・計」は、17%である。

□ これを「外国人との交流度」別にみると、交流度が高い層ほど「受入意向あり・計」も高くなり、「交流度が高い」層では5割を超えている。特に、「交流度が低い」層と「交流度が中程度」層とのスコア差が大きく、交流の有無・程度が大きな影響を及ぼしていることがわかる。

□ なお、基本的属性別にみると、若年層ほど「受入意向あり・計」が高く、職業別には「学生」のスコアが高い。また、「正規雇用」、「自営業・その他」でも同スコアが高くなっている。

■ホームステイ受入意向(全体／単一回答)

Q45.海外に留学する日本人の住み方の1つとして、現地の人の家に住ませてもらうホームステイがあります。あなたはどの程度、「ホームステイを希望する外国人」を受け入れてもいいと思いますか。※ホームステイ受入の場合、家賃収入と同等のホームステイ費が支払われるものとします。※現在、持家に住んでいない方も、ご自宅を購入した場合のことについてお答えください。

		受入意向あり・計					受入意向なし・計		受入意向あり・計	受入意向なし・計		
		ぜひ受け入れた い	受け入れたい	どちらともいえ ない			あまり受け入れ たくない	絶対受け入れた くない				
●凡例												
日本人・計		(n=2000)	3.9%	13.0	29.8		26.8		26.7	16.8	53.5	
交流度 別	交流度が高い	(n=199)		20.1	33.7		22.6		15.6	8.0	53.8	23.6
	交流度が中程度	(n=236)		7.2	28.8		30.9		19.5	13.6	36.0	33.1
	交流度が低い	(n=1565)	1.3	7.9	30.5		29.3		31.0		9.2	60.3
性別	男性・計	(n=1000)	5.3	13.0	31.8		24.6		25.3	18.3	49.9	
	女性・計	(n=1000)	2.4	12.9	27.7		29.0		28.0	15.3	57.0	
年代別	29歳以下	(n=400)	8.8	20.3	27.5		20.3		23.3	29.0	43.5	
	30～39歳	(n=400)	4.8	17.0	30.0		20.5		27.8	21.8	48.3	
	40～49歳	(n=400)	2.8	9.3	28.8		26.0		33.3	12.0	59.3	
	50～59歳	(n=400)	2.0	9.8	31.0		30.5		26.8	11.8	57.3	
	60歳以上	(n=400)	1.0	8.5	31.5		36.8		22.3	9.5	59.0	
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	5.6	14.8	30.7		23.9		25.0	20.4	48.9	
	非正規雇用	(n=399)	3.3	12.0	32.1		24.1		28.6	15.3	52.6	
	自営業・その他	(n=217)	3.2	14.7	30.4		24.9		26.7	18.0	51.6	
	専業主婦(主夫)	(n=346)	1.4	11.6	26.3		33.8		26.9	13.0	60.7	
	学生	(n=128)	8.6	22.7	29.7		24.2		14.8	31.3	39.1	
	無職	(n=233)	1.3	4.3	27.5		32.6		34.3	5.6	67.0	
※日本人・計より			+10pt	+5pt		-5pt						

4_3_5

⑥ 民泊受入意向

□ 民泊を希望する外国人を、どの程度受け入れたいかを質問した。

⇒ なお、「宿泊費が支払われること」、「現在、持家に住んでいない人も自宅を購入したとして回答すること」を条件としている。

□ 「ぜひ受け入れたい」と「受け入れたい」を合わせた「受入意向あり・計」は、14%である。

□ これを「外国人との交流度」別にみると、交流度が高い層ほど「受入意向あり・計」も高くなり、「交流度が高い」層では46%である。特に、「交流度が低い」層と「交流度が中程度」層とのスコア差が大きく、前項の「ホームステイ受入意向」と同様、交流の有無・程度が大きな影響を及ぼしていることがわかる。

□ なお、基本的属性別にみると、若年層ほど「受入意向あり・計」が高く、職業別には「学生」のスコアが高い。また、「正規雇用」、「自営業・その他」でも同スコアが高くなっている。いずれも、前項の「ホームステイ受入意向」と同様の傾向である。

■ 民泊受入意向(全体／単一回答)

Q46.現在、外国人旅行者の宿泊先として自宅の空き部屋などを提供する民泊（ホームステイ型）が話題ですが、あなたはどの程度、ご自宅の空き部屋などで、「民泊を希望する外国人旅行者」を受け入れても良いと思いますか。※民泊受入の場合、宿泊費が支払われるものとします。※現在、持家に住んでいない方も、ご自宅を購入した場合のことについてお答えください。

				受入意向あり・計		どちらともいえない	受入意向なし・計		受入意向あり・計	受入意向なし・計			
				ぜひ受け入れたい	受け入れたい		あまり受け入れたくない	絶対受け入れたくない					
●凡例													
日本人・計		(n=2000)	3.0%	11.4	26.8		27.7		31.2		14.4	58.9	
交流度別	交流度が高い	(n=199)	14.6	31.2		25.6		17.1		11.6		45.7	28.6
	交流度が中程度	(n=236)	7.2	25.4		28.0		22.5		16.9		32.6	39.4
	交流度が低い	(n=1565)	0.8	6.8	26.7		29.8		35.8		7.6	65.7	
性別	男性・計	(n=1000)	3.9	12.9	30.1		24.3		28.8		16.8	53.1	
	女性・計	(n=1000)	2.0	9.9	23.4		31.1		33.6		11.9	64.7	
年代別	29歳以下	(n=400)	7.5	17.8		29.8		22.0		23.0		25.3	45.0
	30～39歳	(n=400)	3.3	15.0	27.3		22.0		32.5		18.3	54.5	
	40～49歳	(n=400)	1.5	9.8	23.0		27.0		38.8		11.3	65.8	
	50～59歳	(n=400)	1.3	6.8	30.3		27.5		34.3		8.0	61.8	
	60歳以上	(n=400)	1.3	7.8	23.5		40.0		27.5		9.0	67.5	
職業別	正規雇用(経営者を含む)	(n=677)	3.7	13.7	29.1		24.2		29.2		17.4	53.5	
	非正規雇用	(n=399)	3.0	8.8	28.1		27.8		32.3		11.8	60.2	
	自営業・その他	(n=217)	3.2	12.4	25.8		28.1		30.4		15.7	58.5	
	専業主婦(主夫)	(n=346)	0.9	8.1	22.0		34.4		34.7		9.0	69.1	
	学生	(n=128)	7.8	24.2		33.6		20.3		14.1		32.0	34.4
	無職	(n=233)	0.9	6.0	21.9		31.3		39.9		6.9	71.2	
※日本人・計より			+10pt	+5pt		-5pt						43.6	

4.3.6